平成２３年度
戸塚地区協働復興模擬訓練・継続活動
成果報告書

平成２４年３月

新宿区
戸塚地区町会連合会・戸塚地区協議会　共催

目次

報告書の構成

１章　戸塚地区のまちづくりにおける協働復興模擬訓練・継続活動の位置づけ……3
1-1 平成 22 年度 協働復興模擬訓練の概要……4
1-2 平成 23 年度 協働復興模擬訓練・継続活動の目的と活動内容…… 6

２章　防災マップをつくろう ……9
2-1 防災マップ作成の目的……10
2-2 防災マップ作成のながれ……10
2-3 第一回全体会での説明内容……12
2-4 町会から提出された防災マップ……18
2-5 完成した各町会の防災マップ……20
2-6 最終成果物防災マップの構成 ……22
2-7 2 章のまとめ……48

３章　模型を使った復興まちづくり体験ゲーム……49
3-1 模型を使った復興まちづくり体験ゲームの目的……50
3-2 ゲームの進め方……50
3-3 ゲームの結果……58
3-4 3 章のまとめ……63

４章　成果報告会……65

５章　平成 23 年度の活動のまとめ ……77
5-1 活動のまとめ……78
5-2 幹事からの感想……79
5-3 今後の進め方の提案……80

資料編……81
1 戸塚地区協働復興模擬訓練・継続活動 幹事会の議事録……82
2 成果報告会用発表資料 ……87
戸塚地区協働復興模擬訓練・継続活動の企画・運営メンバー……100

報告書の構成

本報告書は、５章構成になっています。
まず１章では、訓練の背景として、戸塚地区における協働復興模擬訓練・継続活動の位置づけについて説明します。
２章、３章では、平成 23 年度の活動の大きな柱であった、２章：町会単位での防災マップづくりについて、3 章:模型を使った復興まちづくり体験ゲームについて、を説明します。そして、４章では成果報告会での活動のまとめと、５章では平成 23 年度のまとめや来年度以降の進め方の提案をまとめています。

1 章

戸塚地区のまちづくりにおける
協働復興模擬訓練・継続活動の位置づけ

1-1　平成 22 年度　協働復興模擬訓練の概要
1-2　平成 23 年度　協働復興模擬訓練･継続活動の
目的と活動内容

第１章　戸塚地区のまちづくりにおける
協働復興模擬訓練・継続活動の位置づけ

1-1　平成 22 年度 協働復興模擬訓練の概要

東京都では、首都圏を襲う大震災を想定し、震災の被害とその後の混乱を最小限に抑えることを目的に、平成 7 年の阪神淡路大震災を教訓に、事前復興対策に取り組んでいます。

協働復興模擬訓練とは、「東京都震災復興マニュアルの復興プロセス編」の中で位置づけられているように、実際にまちが被災したことを想定して、「いかに被災した地域を復興していくか」という復興まちづくりの過程を、擬似的な体験を通じて考えていくというものです。

新宿区では平成 18 年度から協働復興模擬訓練に平成 18 年度から取り組み、戸塚地区で 5 地区目となっています。（図 1）

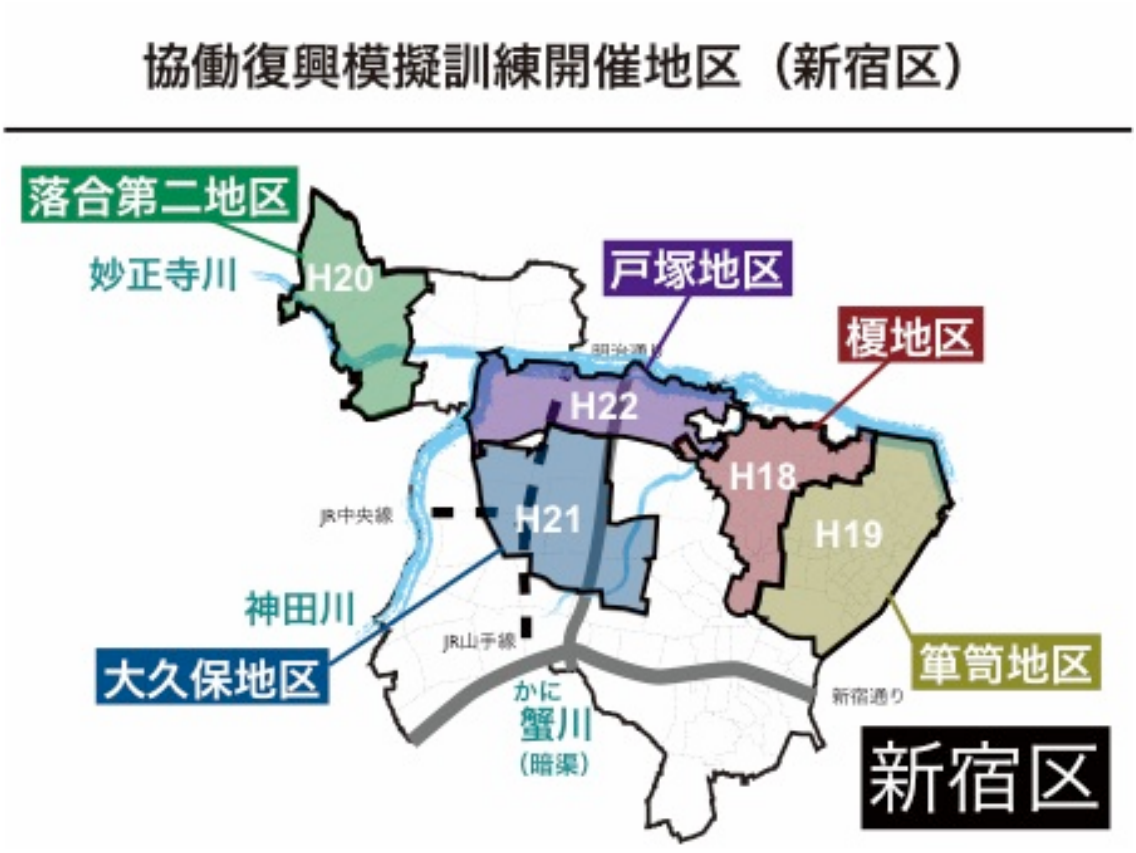


図１　協働復興模擬訓練実施地区　地図

平成 22 年度のの戸塚地区協働復興模擬訓練では、復興まちづくりの流れを模擬的に体験する全５回の訓練を行いました。

・全５回の訓練内容

第１回　まちあるき・ガリバーマップづくり
第２回　阪神大震災、野田北部の復興まちづくりに学ぶ
第３回　復興体験めくりめくりゲーム
第４回　復興アイデア旗差しゲーム
第５回　成果報告会

1-2 平成 23 年度 協働復興模擬訓練・継続活動の目的と活動内容

戸塚地区では、平成 22 年度及び 23 年度の 2 カ年にわたり、協働復興模擬訓練が行われています。平成 22 年度の戸塚地区協働復興模擬訓練は、主に以下の事項を目的に実施しました。

・震災前からまちづくりを考えることの重要性を認識すること
・戸塚地区町会連合会、戸塚地区協議会の共催による取り組みとして、復興まちづくりの体制を整えていくためのきっかけを生み出すこと

平成 22 年度の協働復興模擬訓練成果報告会では、模擬訓練の成果を活かし、地域協働で事前復興まちづくりを具体的に推進していくためには、継続的な活動が必要とされました。そこで、幹事会からの強い要望もあり、平成 22 年度と同様に新宿区、早稲田大学、住民の協働のもと、平成 23 年度の「戸塚地区協働復興模擬訓練・継続活動」が実施される運びとなりました。

「戸塚地区協働復興模擬訓練・継続活動」を実施するにあたり、具体的に平成 22 年度の協働復興模擬訓練の反省点と課題として以下の 3 点が上げられます。

①地域の主体的な活動へ展開していく必要性
…協働復興模擬訓練の決まったプログラムに沿って、ワークショップに参加する形式のため、主体性は芽生えにくい。

②地域全体で情報を共有すること／全町会(25 町会)で足並みを揃えることの必要性
…一部幹事の参加にとどまっている活動であった。
（参加していない町会への情報提供が少なかった）

③復興まちづくりの具体的な方法を検討することが必要である
…震災後、復興まちづくりをスムーズに進めていくためには、事前から理解を深めていくことが必要となるが、具体的な検討方法について決まっていない。

以上の課題を踏まえ、平成 23 年度「戸塚地区協働復興模擬訓練・継続活動」の目的を以下の 3 点としました。

目的１） 地域の主体的な活動につなげていく

復興まちづくりを進める上で震災時に障害となりそうな地域の課題と、有効に活用できる地域資源を、住民が主体的に認識しそれを地域で共有する。

目的２） 被災から復興までの復興まちづくり過程の理解と具体的な方法の検討

首都直下地震によって戸塚地区が被害を受けたことを想定して、被災後のまちの復興過程を理解する。その中で、地域の課題の解決方法や地域資源の有効活用の具体的な方法を検討する。また、まちの復興と共に、個人の生活の復興についても考える。

目的３） まちづくりの担い手育成

復興を円滑に進めるための、復興まちづくりの担い手を育成する。

平成 22 年度の活動を受けて、地域がより主体的にまちを見直す機会を作り、災害に強いまちへの共有意識をもつためにはどのようにすべきかを検討しました。また、地域の人々にとって、災害時を想定して避難したり、消火したりする訓練は、これまでにも行われてきたため分かりやすいのですが、この協働復興模擬訓練・継続活動では、「震災後のこと」について具体的に考えなくてはならず、そのためにまちの模型を使って、復興まちづくりの方法について検討しました。

そして、平成 22 年度の訓練幹事を中心に強い要望のあった『①防災マップ作り』と『②復興模擬訓練の発展的な取組み』の二つを柱としたプログラムを実施しました。

①防災マップ作り

…町会等地域組織ごとに実際にまちを歩き、防災マップづくりに取り組み、自分の町を見直すことで、町会等地域組織（地域住民）の主体的な活動として、防災まちづくりについて考えるきっかけづくりを行う。

②復興デザインワークショップ

…震災後の復興について平成 22 年度の活動では仮想体験して行ったが、模型などを使った復興まちづくりの具体的な検討を通じて、事前復興まちづくりの重要性の理解を深める。

本活動の日程と概要を下表に記します。

表 1　戸塚地区協働復興模擬訓練・継続活動の全体プログラム

	日時／会場／参加人数	目的
第 1 回全体会 防災マップを つくろう **【P9 参照】**	平成 23 年 7 月 25 日（月） 18 時～ 21 時 於・戸塚地域センター7 階 多目的ホール 参加人数：56 名	1) 防災マップ作成の意義等を共有すること 2) 町会等各組織による“被害を出さない、逃げないですむ”防災まちづくりに向けた課題や資源の反映を目指すこと
第 2 回全体会 模型を使った 復興まちづくり体験 **【P50 参照】**	平成 23 年 10 月 26 日（水） 18 時 ～ 21 時 於・戸塚地域センター7 階 多目的ホール 参加人数：50	1) 震災後の復興まちづくりについて、模型を使いながら体験すること 2) 将来のまちのイメージを共有すること
第 3 回全体会 成果報告会 **【P66 参照】**	平成 24 年 1 月 15 日（日） 13 時 ～ 15 時 於・戸塚地域センター7 階 多目的ホール 参加人数：56 名	1) 防災マップの確認、及びまちの課題等を共有すること 2) 復興まちづくりの課題の解消方法と資源の有効活用方法を検討すること 3) 安心・安全のまちづくりのための「アイデア」を検討すること

2章

防災マップをつくろう

平成23年7月25日18時～21時
参加者56名、場所：戸塚地域センター

2-1　防災マップ作成の目的
2-2　防災マップ作成のながれ
2-3　第一回全体会での説明内容
2-4　町会から提出された防災マップ
2-5　最終成果物防災マップの構成
2-6　完成した各町会の防災マップ
2-7　2章のまとめ

第２章　防災マップをつくろう

2-1　防災マップ作成の目的

平成 23 年度の継続活動の柱の一つである「防災マップ作り」の目的は以下 2 点です。

１）平成 22 年度の模擬訓練で行った「まちあるきとガリバーマップづくり」を元に、町会等各組織が主体的に、より詳細な防災に関する情報を収集し、マップに反映させることで、地域の情報を共有すると共に、町会等地域組織の主体性を生み出していくこと

２）最終的に、今後の町会等各組織による「被害を出さない、逃げないで済む防災まちづくり」の足がかりとなるような、実用性のある防災マップを作成すること

そして最終的には、各町会の具体性・実用性のある防災マップを完成させ、町会の全戸に配布することを目標としました。

2-2　防災マップ作成までのながれ

防災マップを作成するにあたり、図 2-1 のようなスケジュールで進めました。
幹事会や全体会を通して、マップ作成手順の説明や、各町会等地域組織の進行状況のチェック、意見交換を行いつつ、各町会等地域組織で主体的にまちあるき・マップ作成を行って頂きました。また、必要に応じて早稲田大学や新宿区が個別に町会等地域組織のサポートを行いました。

そして、町会等地域組織が作成／提出した防災マップの編集作業は主に早稲田大学で行い、編集後のマップを再度町会等地域組織にチェックしてもらう機会を設け、修正を繰り返しながら、最終成果物の完成に至りました。（全 25 町会等地域組織中、マップ提出のあった 22 町会等地域組織分）

7 月 25 日

第一回全体会
「防災マップをつくろう」

…書き込み用の白地図を町会等各組織に配布・まちあるきの説明

町会毎にまちあるきを行い、
白地図に課題や資源を書き込んだり、写真を撮るなどして町会毎のまちあるきマップを作成しました。

▲まちあるきで地域を捉え直す

9 月 14 日

第二回幹事会　※第一回マップ提出の〆切

…各町会のマップの提出状況、進行状況のチェックと内容の確認

町会等各組織が提出したマップを、
早稲田大学佐藤滋研究室が編集しました。

▲第二回幹事会の様子

11 月 29 日

第四回幹事会

…幹事によって編集したマップの内容確認・調整

町会等各組織へマップを返却し、内容確認、修正をしていただきました。
その後、早稲田大学及び新宿区で内容確認し、編集、改善、を繰り返しました。

▲第四回幹事会の様子

1 月 15 日

復興模擬訓練開催地区合同イベント
（成果報告会）

各エリア代表による発表と、全防災マップの展示

新宿区と早稲田大学で最終チェックを行いました。

印刷・配布

三つ折りにして、各町会の全町会員に配布されます！
（※一世帯あたり一部ずつ）

図 2-1. 防災マップ作成までの活動の流れ

2-3　第一回全体会での説明内容

第一回全体会では、町会等地域組織の方々自身で防災マップ作りが始められるよう、「震災時に町会等地域組織の方が使いやすい防災マップの作り方」について、勉強会を行い、意見交換をしました。（図 2-2）　以下に、当時の様子と、各町会等地域組織に配布した防災マップ作成の意義（図 2-3）、まち歩きの際の注意事項（図 2-4）と、町会区域の入った白地図、細かな情報を書き込むための別紙（図 2-5）とマップ作成の例（図 2-6）を示します。

【第一回全体会の様子】

開会の様子

レクチャーの様子　その１

レクチャーの様子 その２

防災マップ説明の様子 その１

防災マップ説明の様子 その２

防災マップ説明の様子　その３

戸塚地区町会連合会・戸塚地区協議会 共催
平成23年度戸塚地区協働復興模擬訓練
第１回 継続活動
防災マップをつくろう！

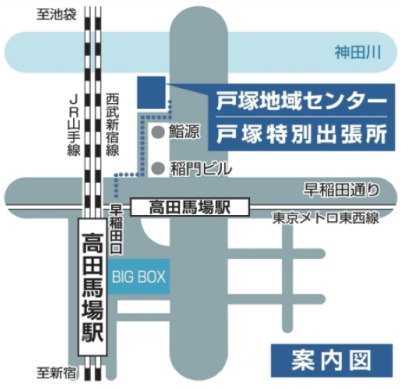
もしも大地震が起きたら……
あなたのまちは安全ですか？

平成 23年
7 月 25 日(月)
18:00 ~ 21:00
(17:40 受付開始)

第一回の訓練では、震災時地域のみなさんが使いやすい防災マップの作り方を学びます。具体的には、後日幾度か町会を中心にみなさんで避難所までの重要なルートや課題などを点検します。その際に、必要となる「まちの点検の仕方」と「マップの書き込み方」を説明します。

また、阪神淡路大震災から学んだ事前復興まちづくりについても説明します。

所在：新宿区高田馬場2-18-1
交通：JR・西武・東京メトロ高田馬場駅
早稲田口から徒歩3分



集合場所

戸塚出張所 多目的ホール

協働復興模擬訓練継続活動とは？

昨年度、もし地震が起きたとき、自分の家や近所のまちがどのようになり、今からできることとは何かみなさんで考えました。今年度は昨年度の成果を活かした活動を行うために、震災時に使用できる防災マップをつくることを目標としました。

企画・運営：
戸塚地区協働復興模擬訓練幹事会
早稲田大学佐藤滋研究室
早稲田大学都市・地域研究所
新宿区

お問合せ：
新宿区危機管理課
Tel:03-5273-3874

図 2-2. 第一回全体会開催のチラシ

＜町会ごとでマップを作る意義＞

■一般的な防災マップでは・・・
①消火器や防火水槽等の消防水利
　⇒地域住民が初期消火を行うために情報をあらかじめ知っておく。
②避難所や避難場所
　⇒地域住民が避難できる安全な場所をあらかじめ知っておく。
③医療機関、学校や公共施設など
　⇒災害時の地域の支援機能をあらかじめ知っておく。

■しかし・・・それだけで、首都直下地震に対抗できるのかどうか？
・消火器は、安全な場所に設置されているのか？（倒れてしまう恐れのあるブロック塀にあるとか・・・）
・避難所に行くまでのルートは安全かどうか？（途中にガケや階段があるとか、古い木造家屋があるとか・・・）
・それぞれの町会で、一時集合場所や避難所を確認できているのかどうか？（地域住民に伝わっているのかどうか？・・・）

■また、防災は、発災直後だけのことでない！！
・これまでの大震災で課題になった「**復興まちづくりの遅れ**（避難所生活や仮設住宅の生活が長引いてしまうことの問題）」
・さらには、**将来の戸塚地区のまちづくり**のことまで考えなければならない。

■今回のつくる防災マップでは・・・
◎まちあるきによって**現場で点検した防災の課題**を防災マップに整理しておくことで・・
①危険な箇所を地域住民が確認しておくことで、**安全に避難できる**
②危険な箇所をあらかじめ改善すべき課題を把握しておくことで、建て替えや公共整備の際に問題を解消し、**被害の低減につながる**
③地域の**防災やまちづくりのルールづくり**（地区計画等）に役立つ基礎情報となる

◎事前から「**復興まちづくり」に役立つ情報**を整理しておくことで・・・
①二度と同じ被害を受けることのない安全なまち、その青写真をつくっておく（いざ地震が発生した後は、冷静に考えれることが難しいので、たたき台をつくっておく。）
②防災の情報に加えて、福祉・暮らしやすさ・歴史文化等、まちづくりで大切にしたいこと（安全だけでなく、暮らしやすい、快適な環境を次の世代に）

■つまり、今回の防災マップづくりは・・・
町会毎または戸塚地区全体で、地域の担い手が、防災やまちづくりを考える絶好の機会！！
このような継続活動が、いざという時の **復興まちづくりの体制づくり**につながる！！

図 2-3. 町会ごとのマップ作成意義説明シート

まちあるきをする際の注意事項！

①　まちあるきの前の準備！

○町会等各組織で作成した「防災点検マップ」と昨年度模擬訓練で作成した「課題整理パネル」を確認しておきましょう。
○まちあるきメンバーで、まちを歩く時の役割と視点を決めましょう!
○特に見る場所を決めておき、歩くルートを決定しましょう!
○地図やノートに資源（青）、課題（赤）、共通（緑）のようにメモを書きする色を決めましょう!

○まちあるき当日に用意するもの

○役割の例

②　まちあるきをしましょう！※まちあるきを行い、できる限りメモをしましょう。以下は、その視点の例です。

○『防災』の視点:昨年度のマップを参考にしてください（別紙参照）

(1)震災時に、避難する際に危険となる課題や役に立つ資源をマップに書きましょう！

1.避難時の障害物と狭隘道路

2.震災時、倒れてきそうな老朽家屋

課題：避難ルートを塞ぐもの
（老朽家屋、電柱/トランス/電線、ブロック塀/万年塀、崖 等）
資源：井戸、消火器、消火栓、貯水槽、避難所、防災・備蓄倉庫 等

(2)復興における課題と資源を書きましょう！

3.木造密集地の袋小路で、建物被害が大きいと予想される場所

4.建替えができそうにない狭い道路

課題：建替えができそうにない狭い道路、建物被害が大きくなりそうな場所 等
資源：仮設住宅などに使用できそうな空地、震災後でも活用できそうな建物(例:空きや) 等

○『福祉』の視点
車椅子、障害者、高齢者の方が日常的に暮らしやすくするマップを書きましょう！

5.急勾配な階段

課題：歩きにくい場所（階段、坂、段差、交通量が多い等）、休憩する場所がない 等
資源：福祉施設、安心して歩ける道、地域の拠点、学校やNPOなどの組織（地域と連携を図る） 等

○『暮らしやすさ』の視点
子供から高齢者まで住民のみなさんが安心して暮らせるマップをつくりましょう！

6.緑あふれる歩行者空間

課題：放置自転車、表通りがあるきにくい、夜道が暗い、空き家、子供の遊びがない 等
資源：車が入らない場所、緑が溢れ出してる場所、歩きたくなる場所、井戸端会議をする所、憩える場所、日常生活で頻繁に利用する施設 等

○『歴史文化』の視点
地域の歴史や文化を防災マップに盛り込みましょう！

7.地域の憩いの場となる寺社仏閣

寺社仏閣等の歴史的建築物と地域活動との関係、昔流れていた小川、緑地、昔の思い出、地域のお祭り、蔵、神田川の親水空間 等

③　マップにまとめましょう！

○まちあるきで作成したメモを忘れないうちにまとめましょう!
それぞれが記入したメモを基に、マップを一つにまとめたり、テーマ毎にマップを作成しましょう。
○まちあるきで集めた情報を基に、どうしたら課題を解決することができるか考えて、記入しましょう!
※撮ってきた写真は場所をわかりやすい様にマップと写真に番号等を振っておいてください。

④　マップを提出しましょう！

○9月13日(火)までに戸塚特別出張所または、新宿区危機管理課へ提出しましょう！

質問・お問い合わせ先：新宿区危機管理課 加藤・田中（5273-3874）

図 2-4. 全体会当日のマップ作成方法についての説明内容

◯町会記入用の白地図

◯記入用別紙

防災マップ～高田馬場三丁目北町会　記入用別紙

図 2-5. 配布した町会区域の入った白地図、細かな情報を書き込むための別紙

◯大学側で作成したマップへの記入例

◯大学側で作成した別紙への記入例

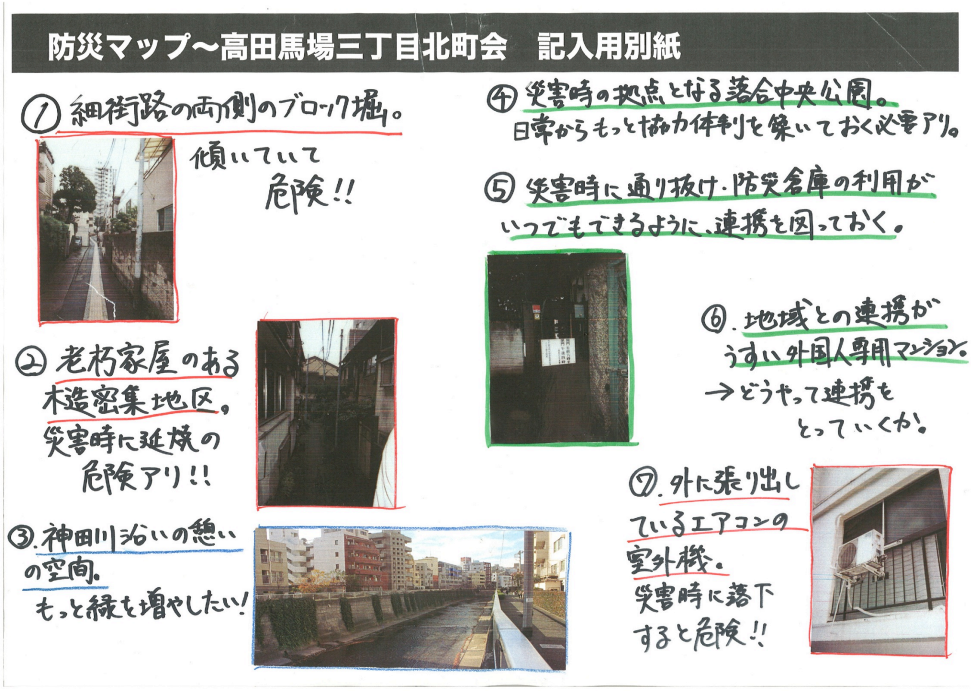


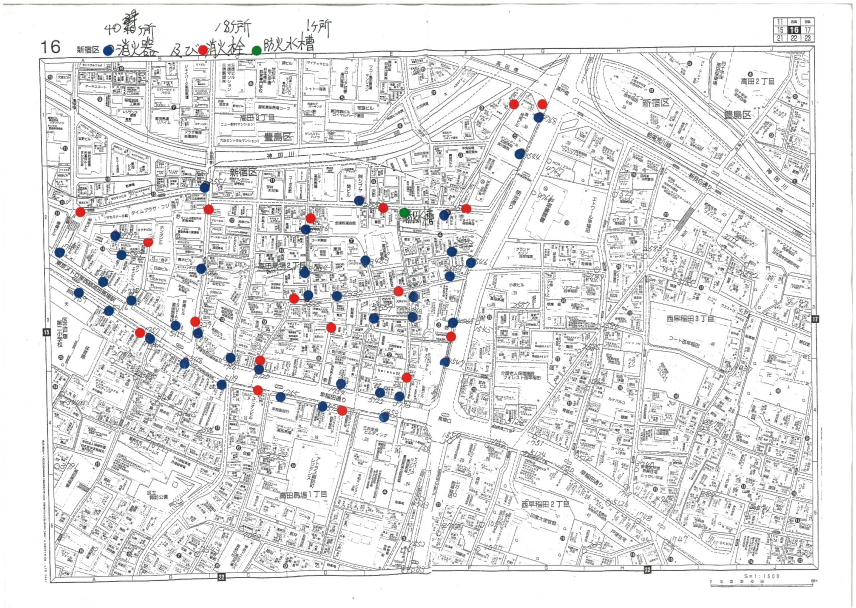
図 2-6. 大学側で作成した記入例　※実際の内容とは異なります

2-4　町会から提出された防災マップ

第一回全体会以降、9 月 14 日の第二回幹事会までにまちを歩き、町会等地域組織独自の防災マップを作成しました。第二回幹事会では、提出された防災マップをベースに、最終成果物に反映させる内容についての意見交換や、マップ作成が遅れている町会等地域組織へのアドバイス等を行いました。以下に、提出された防災マップの例（高田馬場町会）を示します。

【白地図へ記入】

【消火器・消火栓のプロット】



まちあるきの写真とコメント①

まちあるきの写真とコメント②

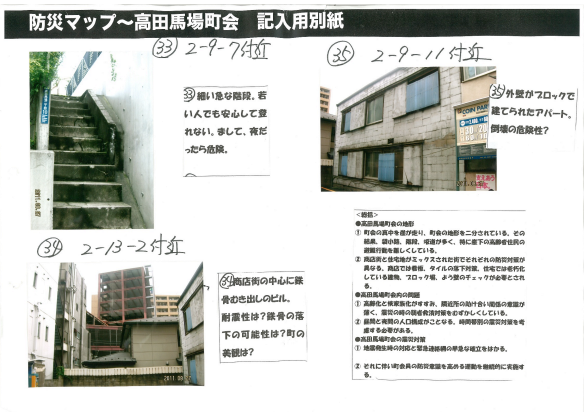
まちあるきの写真とコメント③

まちあるきの写真とコメント④

まちあるきの写真とコメント⑤

まちあるきの写真とコメント⑥

まちあるきの写真とコメント⑦



まちあるきの写真とコメント⑧、総評

図 2-7　提出された防災マップの一例（高田馬場町会）

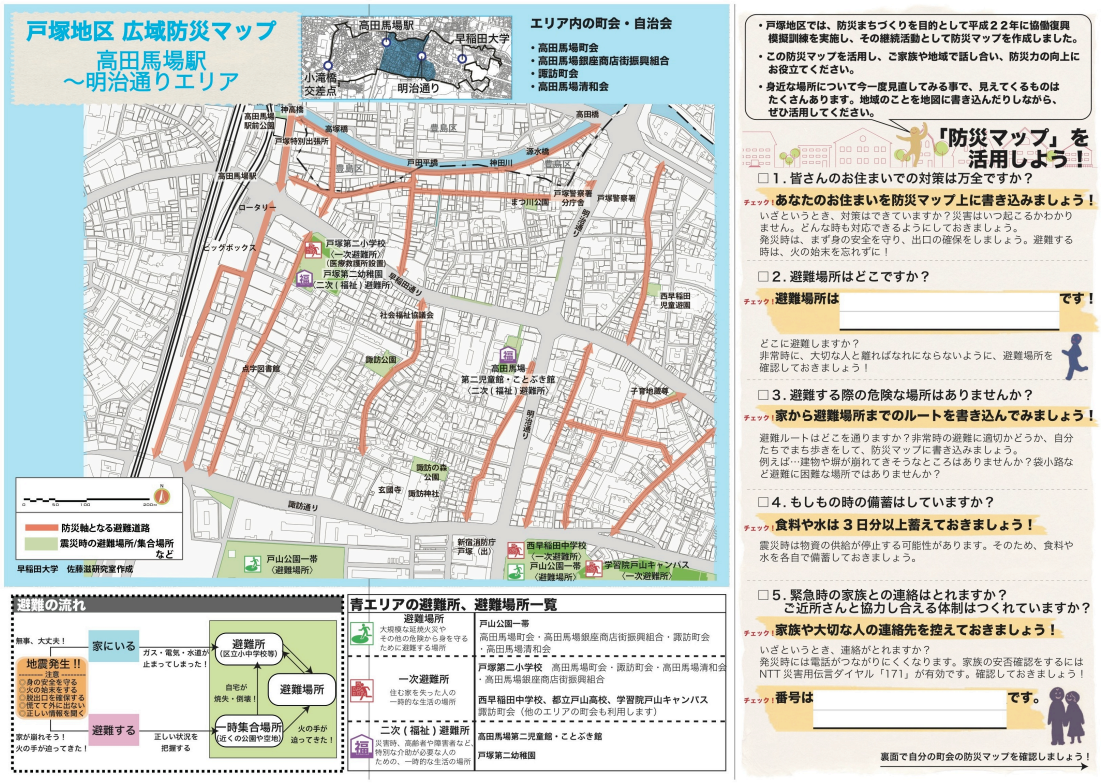
2-5　最終成果物防災マップの構成

町会等地域組織から提出された防災マップを基に、早稲田大学でマップの編集作業を行いました。作成にあたっては、何度も町会等地域組織と新宿区と大学の間で相互にチェックを行い、修正を繰り返しながら進めて行きました。

以下に、最終的に完成した防災マップの構成を示します。

【表面】

戸塚地区を、赤（小滝橋交差点～高田馬場駅エリア）、青（高田馬場駅～明治通りエリア）、緑（明治通り～早稲田大学周辺エリア）の３つのエリアにわけ、エリア内の避難場所や避難所の位置などがわかる広域防災マップと、各避難所の説明、この防災マップの活用方法などを掲載しています。



【裏面】

各町会等地域組織が提出したマップ情報や写真に基づいて作成した、各町会等地域組織独自の防災マップを記載しています。

表面、裏面とも、内容は幹事会でエリアや町会等地域組織ごとに議論しながら決定しました。

また、住民の方が手に取って見やすいように、三つ折りにした時に防災マップ説明が全面に来るようにレイアウトをしました。

図 2-8. 最終成果物の防災マップ

2-6　完成した各町会の防災マップ

完成した防災マップは、1 月 15 日の成果報告会で全て展示し、その後、新宿区と早稲田大学での最終チェックを経て、3 月末に各町会等地域組織に加入する全戸に配布をしました。以下にそのリストと全マップを掲載します。

防災マップ作成町会等地域組織リスト

◯緑エリア：1. 和敬会 2. 町友会 3. 早稲田早栄会 4. 稲穂会 5. 早稲田親和会
6. 西早稲田二丁目ときわ町会 7. 西早稲田二丁目協和町会
8. 西早稲田三丁目陸町会 9. 三島町会 10. 西早稲田文化町会

◯青エリア：11. 諏訪町会 12. 高田馬場町会 13. 高田馬場銀座商店街振興組合
14. 清和会

◯赤エリア：15. 高田馬場三丁目宮田会 16. 高田馬場三丁目戸三親和会
17. 高田馬場三丁目光和会 18. 高田馬場三丁目北町会
19. 高田馬場南親睦会 20. 戸塚四丁目南町会
21. 都営百人町 4 丁目アパート連絡会 22. 高田馬場親栄会

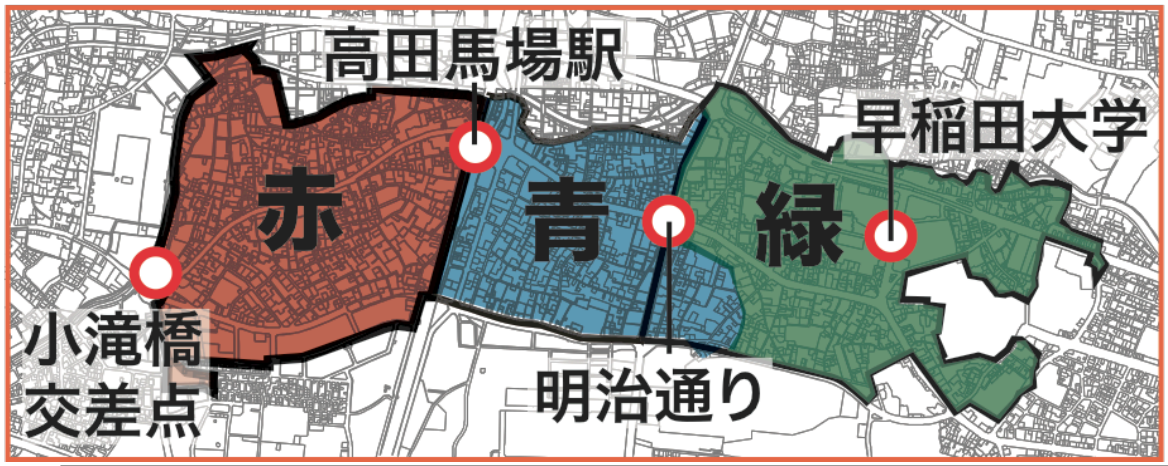
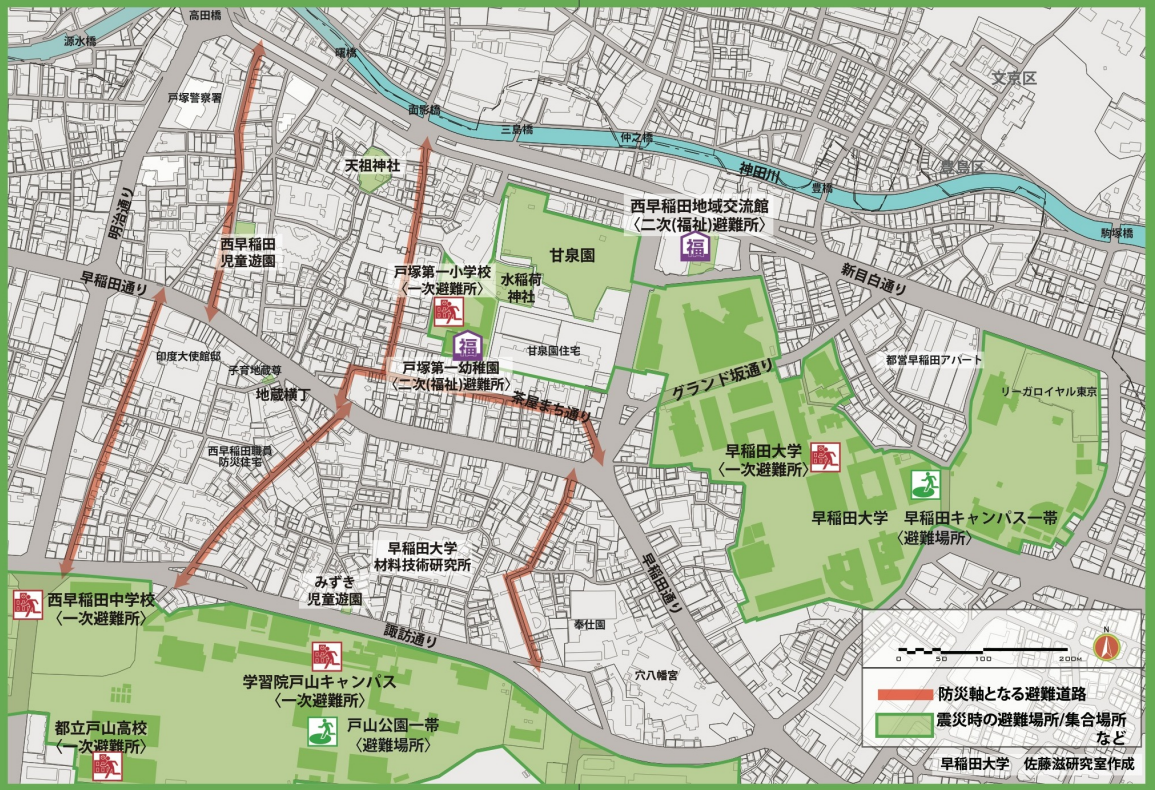


図 2-9. エリアの配置図

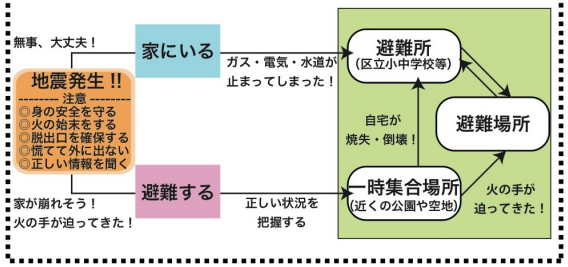
戸塚地区 広域防災マップ
明治通り ～早稲田大学エリア

エリア内の町会・自治会

和敬会・町友会・早稲田早栄会・稲穂会・豊睦会・早稲田親和会・アス西早稲田全体管理組合・西早稲田二丁目ときわ町会・西早稲田二丁目協和町会・西早稲田三丁目睦町会・三島町会・西早稲田文化町会・甘泉園住宅自主防災会



避難の流れ



緑エリアの避難所、避難場所一覧

避難場所 大規模な延焼火災やその他の危険から身を守るために避難する場所	**早稲田大学　早稲田キャンパス一帯**：戸塚町１丁目・西早稲田１丁目・西早稲田２丁目（一部）・西早稲田３丁目 **戸山公園一帯**：西早稲田２丁目
一次避難所 住む家を失った人の一時的な生活の場所	**戸塚第一小学校**：豊睦会・睦町会・三島町会・文化町会・甘泉園住宅自主防災会 **西早稲田中学校、都立戸山高校、学習院戸山キャンパス**：ときわ町会・協和町会（他のエリアの町会も利用します） **早稲田大学**：町友会・親和会・早栄会・稲穂会・和敬会
二次（福祉）避難所 災害時、高齢者や障害者など、特別な介助が必要な人のための、一時的な生活の場所	**西早稲田地域交流館** **戸塚第一幼稚園**

- 戸塚地区では、防災まちづくりを目的として平成２２年に協働復興模擬訓練を実施し、その継続活動として防災マップを作成しました。
- この防災マップを活用し、ご家族や地域で話し合い、防災力の向上にお役立てください。
- 身近な場所について今一度見直してみる事で、見えてくるものはたくさんあります。地域のことを地図に書き込んだりしながら、ぜひ活用してください。

「防災マップ」を活用しよう！

□１. 皆さんのお住まいでの対策は万全ですか？

チェック！あなたのお住まいを防災マップ上に書き込みましょう！

いざというとき、対策はできていますか？災害はいつ起こるかわかりません。どんな時も対応できるようにしておきましょう。
発災時は、まず身の安全を守り、出口の確保をしましょう。避難する時は、火の始末を忘れずに！

□２. 避難場所はどこですか？

チェック！避難場所は　　です！

どこに避難しますか？
非常時に、大切な人と離ればなれにならないように、避難場所を確認しておきましょう！

□３. 避難する際の危険な場所はありませんか？

チェック！家から避難場所までのルートを書き込んでみましょう！

避難ルートはどこを通りますか？非常時の避難に適切かどうか、自分たちでまち歩きをして、防災マップに書き込みましょう。
例えば…建物や塀が崩れてきそうなところはありませんか？袋小路など避難に困難な場所ではありませんか？

□４. もしもの時の備蓄はしていますか？

チェック！食料や水は３日分以上蓄えておきましょう！

震災時は物資の供給が停止する可能性があります。そのため、食料や水を各自で備蓄しておきましょう。

□５. 緊急時の家族との連絡はとれますか？
ご近所さんと協力し合える体制はつくれていますか？

チェック！家族や大切な人の連絡先を控えておきましょう！

いざというとき、連絡がとれますか？
発災時には電話がつながりにくくなります。家族の安否確認をするにはNTT 災害用伝言ダイヤル「171」が有効です。確認しておきましょう！

チェック！番号は　　です。

裏面で自分の町会の防災マップを確認しましょう！

和敬会防災マップ

北 0 50 100 200M

このマップは地域防災力の向上を目的として、和敬会がまちあるきを通して作成しました。
(H24.1月作成)

作成：和敬会(和敬会防災部)
編集：早稲田大学佐藤滋研究室 北岡

震災時の避難
- 一時集合場所：・早稲田大学正門前
- 避難場所：・早稲田大学 早稲田キャンパス一帯
- 一次避難所：・早稲田大学 早稲田キャンパス
- 二次(福祉)避難所

防災上で注意する点

避難しにくい門

①②

門の先には階段があるため、集合場所である早大正門前へ避難するには、車椅子の人には困難。

2.第1西門

避難の妨げになる危険性

③トランスのある電柱は、震災時にトランスが落下する可能性があり、注意が必要。

④老朽化した万年塀が倒壊する可能性がある。

3.トランスのある電柱

消火器の設置の必要性

⑤南門通りには飲食店が多いので出火する可能性が高いが、消火器の設置が一カ所のみ。

防災上の資源

避難しやすい門

①北門と南門はバリアフリーとなっていて、避難しやすい。
②

初期消火に役立つ資源

③町内に消火器を12カ所に設置。

早稲田大学門の開閉時間

平日　午前8時～午後10時30分
祝祭日　午前8時～午後6時
夜間緊急の場合、管理者が開門する

早稲田大学に避難する町会

①和敬会
②町友会
③早稲田早栄会
④早稲田親和会
⑤稲穂会

凡例
- 町会エリア
- 門の位置
- 消火器 / 消火栓
- 銭湯 / 防災倉庫
- 災害時協定井戸
- 防火水槽
- トランスのある電柱
- ブロック塀
- 階段
- 急斜面エリア
- 木造・モルタル住宅密集エリア

グランド坂通り / 大隈通り / 早稲田通り / 早大通り / 早大南門通り / メゾンエクレーノ / 北門 / 第2西門 / 第1西門 / 第3西門 / 南門 / 東門 / 通用門 / 早稲田大学 早稲田キャンパス一帯（避難場所・一次避難所） / 早稲田大学 早稲田キャンパス一帯〈避難場所〉 / 早大正門前〈一時集合場所〉 / 松の湯 / 観音寺 / 宝泉寺 / 法輪寺 / 竜泉院 / 穴八幡宮 / 墓地 / 高田早苗記念研究図書館2号館 / 大隈会館 / 早稲田中学校・高等学校 / 早稲田大学 研究開発センター / Family Mart

22号館 / 20号館 / 15号館 / 17号館 / 16号館 / 6号館 / 5号館 / 14号館 / 3号館 / 1号館 / 7号館 / 11号館 / 29-7号館 / 29-4号館 / 17-2号館 / 29-6号館 / 29-3号館 / 29-2号館 / 10号館 / 8号館 / 9号館 / 23号館 / 26号館 / 27号館 / 28号館

町友会防災マップ

北 0 50 100 200M

このマップは地域防災力の向上を目的として、町友会がまちあるきを通して作成しました。
(H24.1月作成)

作成：町友会（町友会防災部）
編集：早稲田大学佐藤滋研究室 田邊

震災時の避難
- 一時集合場所：・大隈会館（大隈講堂前）
- 避難場所：・早稲田大学 早稲田キャンパス一帯
- 一次避難所：・早稲田大学 早稲田キャンパス一帯
- 二次（福祉）避難所（町会区域内）：・西早稲田地域交流館

防災上の資源

防災倉庫

① 防災倉庫がアクセスしやすいT字路に設置されている。倉庫の鍵や内部にある道具を常に使用できるよう管理体制は明確にしておく必要がある。

避難場所と近接

② 神田川と早稲田大学に囲まれ、避難場所が近辺にあり、比較的容易に避難できる。どの入り口を使用し、どのように避難するべきか、事前に体制を整えておく必要がある。

防災上で注意する点

狭あい道路

① 4m未満の狭あい道路が多数存在し、緊急車両は通行できない。

福祉施設の避難体制

② 地区内には障害者福祉施設も存在するため、施設利用者の避難体制を確認しておく必要がある。

早稲田大学門の開閉時間

平日　午前8時～午後10時30分
祝祭日　午前8時～午後6時
夜間緊急の場合、管理者が開門する

凡例
- 消火器 / 消火栓
- 防災倉庫 / 防火水槽
- 災害時協定井戸
- AED（自動体外式除細動器）
- 町会エリア
- 空地
- 寺・神社
- 4M未満の道路

目白台公園
駒塚橋
神田川
空地
グランド坂通り
セブンイレブン
福祉施設
早大図書館
北門
22号館
早稲田アパート
2F 西早稲田保育園
新目白通り
リーガロイヤルホテル東京
15号館
大隈通り
20号館 大学本部
大隈庭園
6号館
5号館
16号館
14号館
観音寺
東門
早稲田大学 早稲田キャンパス一帯 〈一次避難所〉〈避難場所〉
大隈会館（大隈講堂前）〈一時集合場所〉

早稲田早栄会防災マップ

このマップは地域防災力の向上を目的として、早稲田早栄会がまちあるきを通して作成しました。(H24.1月作成)

作成:早稲田早栄会(早稲田早栄会地域防災部)
編集:早稲田大学佐藤滋研究室 小野田

北 0 50 100 200M

震災時の避難
一時集合場所 ・大隈会館(大隈講堂前)
避難場所 ・早稲田大学 早稲田キャンパス一帯
一次避難所 ・早稲田大学 早稲田キャンパス
二次(福祉)避難所

防災上の資源

初期消火に役立つもの

1. 町内の10カ所に消火器あり
2. 町内の7カ所に消火栓あり

1.消火器

2.消火栓

災害時に活用できる場所

3. いくつかの空地や駐車場は、災害時、仮設住宅をたてるなどに活用できる。

3.災害時活用できそうな空地

凡例

資源 注意点
消火器 消火栓
防火水槽(5t)
AED (自動体外式除細動器)
災害時協定井戸
ブロック塀
4M未満の道路
避難時危険性のある道
避難ルート
老朽家屋密集
町会エリア

防災上で注意する点

クモの巣状の電線トランス

1. 大隈通りは電線がクモの巣状に張り巡らされており、また、災害時、倒壊の可能性のあるトランス付きの電柱も多い。

1.クモの巣状の電線トランス

狭い道・ブロック塀の危険性

2. ブロック塀、狭い道に加え、大学に隣接しており、大学側が2．5m高い。
3. とても道幅が狭く、避難には不向きである。
4. 道幅が狭い事に加え、万年塀には亀裂もみられ、災害時には倒壊の危険性もある。

早稲田大学門の開閉時間

平日　午前8時～午後10時30分
祝祭日　午前8時～午後6時
夜間緊急の場合、管理者が開門する

稲穂会防災マップ

北
0 50 100 200M

このマップは地域防災力の向上を目的として、稲穂会がまちあるきを通して作成しました。
(H24.1月作成)

作成:稲穂会 (稲穂会防災部)
編集:早稲田大学佐藤滋研究室 田邊

震災時の避難
- 一時集合場所 ・大隈会館(大隈講堂前)
- 避難場所 ・早稲田大学 早稲田キャンパス一帯
- 一次避難所 ・早稲田大学 早稲田キャンパス一帯
- 二次(福祉)避難所 (町会区域内) ・西早稲田地域交流館

防災上の資源

障害のない避難路

1. 障害物の少ない避難路

1. 北側階段 出入り口付近

2. 学校内を抜ける避難路が現実的な避難経路となる。

防災上で注意する点

落下物の危険性

1. ベランダの鉢植えや室外機がむき出しで置いてあるなど、避難の際に上から物が落ちて来る可能性がある。

避難の妨げになる危険性

2. 避難路に二輪車が駐車されて道が塞がれ、また横のブロック塀が崩れる可能性がある。

2-1. 南側への避難路

2-2. 南側への避難路

3. 電柱からトランスが落下したり、張り巡らされた電線が切断されて垂れ下がっている場合、避難の際に非常に危険となる。
地下埋設のインフラ整備の必要性。

3. トランスのある電柱

早稲田大学門の開閉時間

平日　午前8時～午後10時30分
祝祭日　午前8時～午後6時
夜間緊急の場合、管理者が開門する

豊橋
神田川
駒塚橋
目白台公園
新目白通り
グランド坂通り
大隈通り
現実的な避難経路
セブンイレブン
早稲田アパート
2F 西早稲田保育園
22号館
6号館
5号館
観音寺
東門
早稲田大学 早稲田キャンパス一帯 〈一次避難所〉〈避難場所〉
7号館
3号館
1号館
10号館
高田早苗記念研究図書館 2号館
通用門
早大正門へ
大隈会館(大隈講堂前) 〈一時集合場所〉
大隈会館(21号館)
大隈庭園
20号館 大学本部
リーガロイヤルホテル東京
24号館
25号館
23号館

凡例
- 消火器
- 消火栓
- 防火水槽
- 災害時協定井戸
- トランスのある電柱
- AED (自動体外式除細動器)
- 町会エリア
- 空地
- 寺・神社
- 4M未満の道路
- ブロック塀
- 落下物危険エリア

早稲田親和会防災マップ

このマップは地域防災力の向上を目的として、
早稲田親和会がまちあるきを通して作成しました。
(H24.1月作成)
作成:早稲田親和会（早稲田親和会地域防災部）
編集:早稲田大学佐藤滋研究室 小野田

北
0 50 100 200M

震災時の避難
- 一時集合場所：・早大学術情報センター前
- 避難場所：・早稲田大学 早稲田キャンパス一帯
- 一次避難所：・早稲田大学 早稲田キャンパス
- 二次(福祉)避難所

防災上で注意する点

狭い道・ブロック塀の危険性

① 2M幅ほどしかない路地

1.細い路地

② 災害時は、電柱のトランスが落下する可能性がある

2.電柱のトランス

凡例

- 消火器
- 消火栓
- 防火水槽
- AED（自動体外式除細動器）
- 防災倉庫
- 木造家屋が多いエリア
- ブロック塀
- 4M未満の道路
- 町会エリア

早稲田大学門の開閉時間

平日　午前8時～午後10時30分
祝祭日　午前8時～午後6時
夜間緊急の場合、管理者が開門する

仲之橋
豊橋
神田川
都電早稲田駅
甘泉園
西早稲田地域交流館
〈二次(福祉)避難所〉
大日坂公園
東電社宅
早稲田大学
早稲田キャンパス一帯
〈避難場所〉
総合学術情報センター
（早大図書館）
早大学術情報センター前
〈一時集合場所〉
19号館
北門
グランド坂通り
新目白通り
22号館
2F
西早稲田
保育園
リーガロイヤル東京
20号館
17号館
16号館
15号館
早稲田大学 早稲田キャンパス
〈一次避難所〉
14号館
6号館
5号館
早稲田大学 早稲田キャンパス一帯
〈避難場所〉
観音寺

西早稲田二丁目ときわ町会防災マップ

このマップは地域防災力の向上を目的として、西早稲田二丁目ときわ町会がまちあるきを通して作成しました。（H24.1月作成）

作成：西早稲田二丁目ときわ町会（ときわ町会防災部）
編集：早稲田大学佐藤滋研究室 田邊

北 0 50 100 150M

震災時の避難
- 一時集合場所：荒井山公園
- 避難場所：早稲田大学 早稲田キャンパス一帯、戸山公園一帯
- 一次避難所：西早稲田中学校、都立戸山高等学校、学習院戸山キャンパス
- 二次（福祉）避難所（町会区域内）：西早稲田地域交流館

まちの現状特性

①北側は早稲田通り、南側は諏訪通り、東南側は穴八幡神社に囲まれた地域で戸塚地区と牛込西部地区に接するところに位置しており、荒井山と言われた通り台地になっている。
②地層は岩盤のうえに関東ローム層が堆積してできており耐震性は良好と言われている。
③荒井山公園に向かってゆるい上り坂。
④戦前からの既成の住宅地であるため、住宅が密集しており、袋小路が多い。（戦時中は災害時に備えて裏木戸等を設けていた。）
⑤古い家屋の建替えが進み、道路幅4mも改善されているが、小規模のマンション、アパートが増え、管理体制が問題になっている。

防災上で注意する点

①早稲田通り、諏訪通りから入ったところは全て道路が狭く、電信柱、自動販売機、構築物の倒壊により通行不能となる可能性がある。
②袋小路の入り口近くでの災害時の避難路確保に不安がある。（特に堅牢な建物で囲まれているところはないが。）
③小規模マンション、アパートの増加により持主不在、管理者なし、オートロック等、町との関係が疎遠となってきており、これらに対する対策が必要になってきている。
④高齢者、病人の把握の問題。

袋小路の危険性

区道から一軒裏の道は道幅が狭く1.7mの敷石の道で階段もあり足下も悪く、車両の進入は不可能である。
区道への接道幅1.6m。

崖の危険性

① 突き当たり 崖高さ1m程度。

1. 駐車場奥に崖

協力関係

② 住宅の境のフェンスで、新規住民と旧住民との交流機会が減る可能性がある。

避難の妨げになる危険性

③ 早稲田通りの歩道に植木、看板等障害物のあるところもあった。

防災上の資源

避難路について

① 一時集合場所「荒井山公園」
縦19m、横16m、約300㎡（100坪）、5t水槽、区の防災警報装置、防火器具倉庫（小型ポンプ）。

1-1. 荒井山公園

1-2. 防災倉庫移転場所

この場所を一時集合場所として確保する。
①砂場を撤去し、集合場所を作る。
②防災倉庫を左奥に移動し引戸の段差をなくし物品の出し入れを容易にする。

災害時に活用できる場所

② 植木の垣根

2. 植木の垣根

③ キリスト教会館、アバコブライダルホール、早稲田奉仕園の一部は防災建築で、駐車場空き地もあり火災の心配は少ない。昼間は従業員も多く自衛消防隊もあり安心であるが、夜は問題か。

早稲田大学門の開閉時間

平日　午前8時～午後10時30分
祝祭日　午前8時～午後6時
夜間緊急の場合、管理者が開門する

西早稲田二丁目ときわ町会の防災対策

・防災マップを参考に現状認識を新たにし、災害時の対応をそれぞれが考える。（消火器の設置、非常食の備蓄、隣近所との関係等）
・袋小路の人は特に、日頃からの防災対策として近隣との協和を図ることが大切。
・アパート、マンションの所有者・管理者と災害についての予防、対応について協議する。
・災害時要援護者については民生委員、警察地域課、消防署等と情報交換をする。
・町会との防災、避難訓練に多くの人に参加していただく。（以前の避難訓練には早稲田奉仕園の方にも参加していただいた。）
・町内巡回に消防署の方の同行をお願いする。（問題点の指摘）

学習院 戸山キャンパス〈一次避難所〉
※西早稲田中があふれた場合に利用できる

凡例
- 消火器
- 消火栓
- 防火水槽
- 銭湯
- 防災倉庫
- 提示版
- 自販機
- 公衆電話
- 災害時協定井戸
- AED（自動体外式除細動器）
- 町会エリア
- 空地
- 崖
- 階段
- 4M未満の道路
- 袋小路
- 木造密集エリア

西早稲田二丁目協和町会防災マップ

このマップは地域防災力の向上を目的として、西早稲田二丁目協和町会がまちあるきを通して作成しました。(H24.1月作成)

作成:西早稲田二丁目協和町会
(西早稲田二丁目協和町会防災部)
編集:早稲田大学佐藤滋研究室 川副

震災時の避難
- 一時集合場所: ・みずき児童遊園
- 避難場所: ・戸山公園一帯 ・早稲田大学早稲田キャンパス一帯
- 一次避難所: ・西早稲田中学校 ・戸山高等学校 ・学習院戸山キャンパス
- 二次(福祉)避難所

防災上で注意する点

袋小路の危険性

① 最狭巾 約1mの袋小路。

避難の妨げになる危険性

② 奥に行くほど狭くなる。二輪車(ｵｰﾄﾊﾞｲまで)通行可。

③ 狭い角に植木鉢が並んでいる。

④ 軽自動車がぎりぎり通れる程度の道幅。

⑤ 袋小路奥に空き地があるが、ブロック塀で通れない。

⑥ 細い道(巾85cm)で、ブロック塀の倒壊の感有り。

⑦ みずき児童遊園の柵は災害時に抜けない。

⑧ 消火器の前に商品があり、使えない。

防災上の資源

災害時に役にたつもの

①② 協和町会防災倉庫。防災器具倉庫。

早稲田大学門の開閉時間

平日　午前8時～午後10時30分
祝祭日　午前8時～午後6時
夜間緊急の場合、管理者が開門する

西早稲田三丁目睦町会防災マップ

このマップは地域防災力の向上を目的として、西早稲田三丁目睦町会がまちあるきを通して作成しました。(H24.1月作成)

作成：西早稲田三丁目睦町会
（睦町会防災部）
編集：早稲田大学佐藤滋研究室 川副

北

0　50　100　200M

震災時の避難
- 一時集合場所：水稲荷神社前
- 避難場所：早稲田大学早稲田キャンパス一帯
- 一次避難所：戸塚第一小学校
- 二次（福祉）避難所（町会区域内）：戸塚第一幼稚園

防災上で注意する点

倒壊の危険性

1. 根元2カ所に腐食穴あり、揺れるポールがある。
2. 高さ1.7mの大谷石の塀。倒壊すると危険。
3. 戸塚第一小学校の西側の擁壁2カ所に亀裂あり。
4. 道幅2.7mで経年退化したブロック塀があり、倒壊すると通れなくなる可能性あり。

避難の妨げになる危険性

5. 神社の階段。豊睦会が通る。
6. 神社の北参道の斜路。三島町会が通る。
7. せまい路地に大型バイクがあり、災害時に倒れると通れないかもしれない。
8. 茶屋町通りは電柱や電線が多く、災害時に通れないかもしれない。

老朽家屋の多いエリア

9 10 古い木造家屋が多くある。

消火用器具の問題

11. 消火器の表示が消えてしまっている。
12. 防火水槽の看板が植栽で隠れている。
13. 消火栓の前に自転車が停められがち。

防災上の資源

1. 耐震化が進んでいる。
2. 3 駐車場と道の境界にスロープあり。
4. 戸塚第一小学校のプールの取水口が、小学校の擁壁についている。
5. 6 防災倉庫がある。

早稲田大学門の開閉時間

平日　午前8時～午後10時30分
祝祭日　午前8時～午後6時
夜間緊急の場合、管理者が開門する

凡例

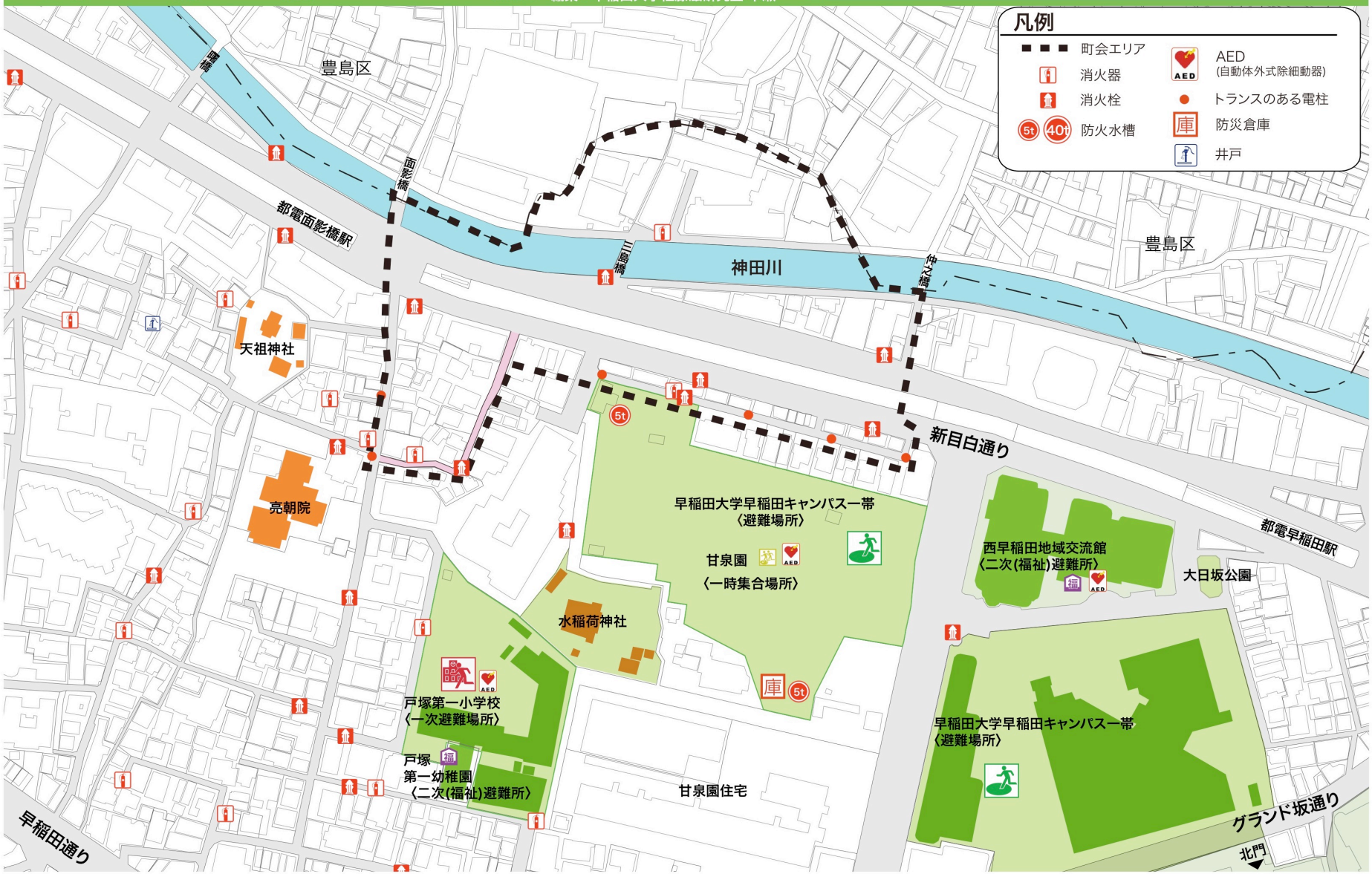
- 消火器
- 消火栓
- 防火水槽(5t)
- AED（自動体外式除細動器）
- 袋小路
- 庫 防災倉庫
- 4M未満の道路
- 階段
- 坂道
- ブロック塀、大谷石の塀
- 亀裂のある塀
- 避難所の入り口
- 町会エリア
- 古い木造住宅が多いエリア
- 電柱・電線が多いエリア

三島町会防災マップ

このマップは地域防災力の向上を目的として、三島町会がまちあるきを通して作成しました。
(H24.1月作成)

作成：三島町会（三島町会防災部）
編集：早稲田大学佐藤滋研究室 木瀬

震災時の避難
一時集合場所 ▶ 避難場所 ▶ 一次避難所 ▶ 二次(福祉)避難所
・甘泉園　・早稲田大学 早稲田キャンパス一帯　・戸塚第一小学校



西早稲田文化町会防災マップ

このマップは地域防災力の向上を目的として、西早稲田文化町会がまちあるきを通して作成しました。(H24.1月作成)

北
0　50　100　200M

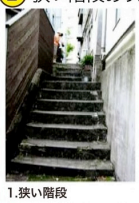
作成：西早稲田文化町会（西早稲田文化町会防災部）
編集：早稲田大学佐藤滋研究室 北岡

震災時の避難
一時集合場所：・子育地蔵尊前 ・西早稲田児童遊園 ・天祖神社
避難場所：早稲田キャンパス一帯 ・早稲田大学 ・戸山公園一帯
一次避難所：戸塚第一小学校
二次（福祉）避難所

防災上で注意する点

狭い道・擁壁・階段の危険性

① 通り抜け可能だが、狭い道路で階段の昇降が危険。
② 狭い階段あり。


1.狭い階段

2.狭い階段

③ 道路幅が写真で見られるように急に狭くなるので注意。
④ 擁壁の上に万年塀があり、災害時崩れる恐れあり。
⑤ 両側が万年塀と擁壁で囲まれた狭い道。

3.狭い道

5.壁で囲まれた狭い道

避難の妨げになる危険性

⑥ 細街路の一部に破損あり
⑦ 災害時、広い階段でも放置バイク・自転車が通路をふさぎ、避難の妨げになっている。
⑧ 四交差の二方路面に塀が崩れる恐れあり。
⑨ 道路内に電柱の配線が追い重なっているので、災害時に危険となる可能性。

7.放置バイク・自転車

9.危険な電柱の配線

消火の際の留意点

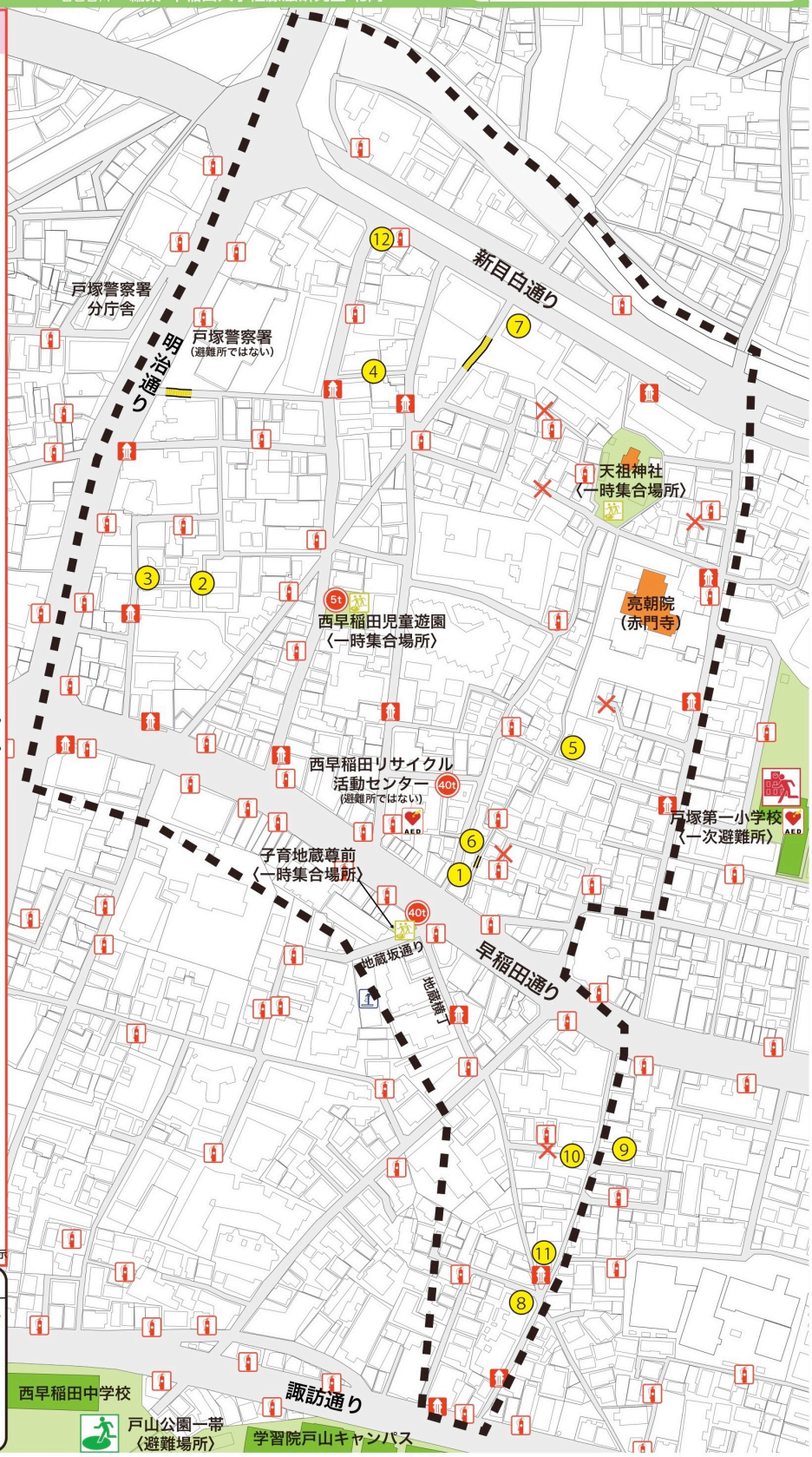
⑩ 門扉内に消火栓があるが、常時門扉が施錠されている。
⑪ 道路面の消火栓の位置がわかりづらい
⑫ 消火栓表示が樹木で見えにくい

11.黄色枠のない消火栓

12.樹木で見えない消火栓表示

凡例

- 町会エリア
- 消火器
- 消火栓
- AED（自動体外式除細動器）
- 災害時協定井戸
- 防火水槽
- 階段
- 袋小路



10. 西早稲田文化町会

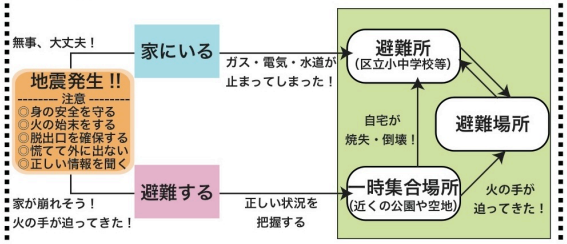
戸塚地区 広域防災マップ
高田馬場駅 ～明治通りエリア

エリア内の町会・自治会

- 高田馬場町会
- 高田馬場銀座商店街振興組合
- 諏訪町会
- 高田馬場清和会

早稲田大学　佐藤滋研究室作成

避難の流れ



青エリアの避難所、避難場所一覧

避難場所 大規模な延焼火災やその他の危険から身を守るために避難する場所	戸山公園一帯 高田馬場町会・高田馬場銀座商店街振興組合・諏訪町会・高田馬場清和会
一次避難所 住む家を失った人の一時的な生活の場所	戸塚第二小学校　高田馬場町会・諏訪町会・高田馬場清和会・高田馬場銀座商店街振興組合 西早稲田中学校、都立戸山高校、学習院戸山キャンパス 諏訪町会（他のエリアの町会も利用します）
二次（福祉）避難所 災害時、高齢者や障害者など、特別な介助が必要な人のための、一時的な生活の場所	高田馬場第二児童館・ことぶき館 戸塚第二幼稚園

- 戸塚地区では、防災まちづくりを目的として平成２２年に協働復興模擬訓練を実施し、その継続活動として防災マップを作成しました。
- この防災マップを活用し、ご家族や地域で話し合い、防災力の向上にお役立てください。
- 身近な場所について今一度見直してみる事で、見えてくるものはたくさんあります。地域のことを地図に書き込んだりしながら、ぜひ活用してください。

「防災マップ」を活用しよう！

□１．皆さんのお住まいでの対策は万全ですか？

チェック！**あなたのお住まいを防災マップ上に書き込みましょう！**

いざというとき、対策はできていますか？災害はいつ起こるかわかりません。どんな時も対応できるようにしておきましょう。
発災時は、まず身の安全を守り、出口の確保をしましょう。避難する時は、火の始末を忘れずに！

□２．避難場所はどこですか？

チェック！**避難場所は　　です！**

どこに避難しますか？
非常時に、大切な人と離ればなれにならないように、避難場所を確認しておきましょう！

□３．避難する際の危険な場所はありませんか？

チェック！**家から避難場所までのルートを書き込んでみましょう！**

避難ルートはどこを通りますか？非常時の避難に適切かどうか、自分たちでまち歩きをして、防災マップに書き込みましょう。
例えば…建物や塀が崩れてきそうなところはありませんか？袋小路など避難に困難な場所ではありませんか？

□４．もしもの時の備蓄はしていますか？

チェック！**食料や水は３日分以上蓄えておきましょう！**

震災時は物資の供給が停止する可能性があります。そのため、食料や水を各自で備蓄しておきましょう。

□５．緊急時の家族との連絡はとれますか？ ご近所さんと協力し合える体制はつくれていますか？

チェック！**家族や大切な人の連絡先を控えておきましょう！**

いざというとき、連絡がとれますか？
発災時には電話がつながりにくくなります。家族の安否確認をするにはNTT 災害用伝言ダイヤル「171」が有効です。確認しておきましょう！

チェック！**番号は　　です。**

裏面で自分の町会の防災マップを確認しましょう！

諏訪町会防災マップ

北 0 50 100 200M

このマップは地域防災力の向上を目的として、諏訪町会がまちあるきを通して作成しました。
(H24.1月作成)

作成：諏訪町会(諏訪町会防災部)
編集：早稲田大学佐藤滋研究室 北岡

震災時の避難
- 一時集合場所：・諏訪公園
- 避難場所：・戸山公園一帯
- 一次避難所：・戸塚第二小学校 ・西早稲田中学校 ・戸山高等学校 ・学習院戸山キャンパス
- 二次(福祉)避難所(町会区域内)：・戸塚第二幼稚園 ・高田馬場第二児童館・ことぶき館

防災上の資源

緊急時連絡手段として役立つ資源

①②③④⑤
災害時携帯電話が使用できないときに、電話ボックスは貴重な連絡手段となる。

1.公衆電話

初期消火に役立つ資源

⑥ 玄国寺の門前に40t防火水槽が設置。
⑦ 諏訪の森公園内に防災倉庫と5t防火水槽が設置。
⑧ 高田馬場第二児童館・ことぶき館に5t防火水槽が設置。
⑨ 友愛ハイツ入り口に5t防火水槽が設置。
⑩ 防災倉庫(文化町会・諏訪町会)が設置され、消防団機材格納庫及び詰所かつ5t防火水槽がある。
⑪ 防災区民組織用(小型消防ポンプ)の採水口がある。

安全に避難するために重要な道

⑫ 沿道上の建物は耐火・耐震建築のため、比較的安全に小学校まで避難できる。
⑬ 早稲田通りから諏訪通りという南北を繋ぐ重要な避難路。
⑭ 明治通りと平行し、早稲田通りから避難所である西早稲田中学校まで繋がる安全な避難路。

防災上で注意する点

町会の中央には、かつて川が流れていたため、谷状の地形である。現在は暗渠化されているが、崖や階段などの危険箇所が散見できる。

避難時の狭隘道路の危険性

① 戸二小に通じる生活道路だが、非常に狭く、ブロック塀で囲まれている。危険なため、災害時には通行禁止にする必要がある。
② 戸二小に通じる道路だが、狭い道路になっている。
③ 生活道路となっているが、狭く災害時には通り抜けは危険となる可能性。
④ 公園への抜け道だが、狭く、その先には階段がある。
⑤ 住宅に挟まれた狭い公園への抜け道。
⑥ 公園から幹線道路へ繋がる入り口の道だが、狭隘道路で危険。

2.狭い道と階段

諏訪の森公園が抱える課題

⑦ 諏訪神社の裏側に位置し、災害時に貴重な空間。しかし、東西北からの出入口は狭く、周辺で火災が発生した場合道路が絶たれる可能性がある。南側の諏訪神社のフェンスを越えなければならない。検討が必要。

車両通行できない危険性

⑧ 製菓学校の横は狭い道で、車両は進めない。
⑨⑩ 道路幅員が3mで、車両交換ができない。
⑪ 道路の途中から狭い道で車両通行ができない。

避難の妨げになる危険性

⑫ 物置となっていて、通る際に利用困難。検討が必要。
⑬ 比較的新しい建物が並んでいるので、避難路となるが、一部ブロック塀があり危険。
⑭ 道路の上には、電線・電柱等複雑に配線され、トランスもあり、震災時に注意が必要。

崖・階段の危険性

⑮ 住宅が擁壁上にあるため、道を塞ぐ可能性。
⑯ 公園入り口にある崖が危険。
⑰⑱ 急な勾配で災害時危険な階段。
⑲ 旧道の名残でもあるが、階段で避難時に問題。

凡例

- 袋小路
- 公衆電話
- 消火器 / 消火栓
- 防火水槽 (5t / 40t)
- AED (自動体外式除細動器)
- 災害時用協定浅井戸
- 町会エリア
- 避難の際に、重要な道
- ブロック塀
- 坂道
- 階段
- 4m未満だが重要な道路
- 狭隘道路で囲まれたエリア

高田馬場町会防災マップ

北
0　50　100　200M

このマップは地域防災力の向上を目的として、高田馬場町会がまちあるきを通して作成しました。
(H24.1月作成)

作成:高田馬場町会(高田馬場町会地域防災部)
編集:早稲田大学佐藤滋研究室 北岡

震災時の避難
一時集合場所
・まつ川公園
・明治通り歩道及び車道の一部
▶ 避難場所
・戸山公園一帯
▶ 一次避難所
・戸塚第二小学校
▶ 二次(福祉)避難所

防災上で注意する点

①町会の真中を崖が走り、町会の地形を二分している。その結果、袋小路、階段、坂道が多く、特に崖下の高齢者住民の避難行動を難しくしている。

②商店街と住宅地がミックスされた街でそれぞれの防災対策が異なる。商店では看板、タイルの落下対策。住宅では老朽化している建物、ブロック塀、よう壁のチェックが必要とされる。

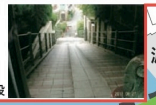
落下物の危険性
1 2 歩道にせり出ている袖看板が避難する頭上に落下する危険がある
3 道路に沿って電線とトランスが頭上にあり、災害時に危険である

住宅密集エリア
7 老朽家屋が密集していて、倒壊や落下物の危険性がある
8 袋小路に木造住宅やアパートが密集している
9 狭い道路に木造住宅が密集していて、火事の場合避難道路にならない

袋小路の危険性
4 袋小路が道路を隔てて2本存在する
5 6 道路から見ると袋小路に見えない

避難の妨げになる危険性
10 公道の違法駐車が避難の重大な妨げになる
11 災害時、木材の火災や荷崩れが心配
12 狭い道路の両側にブロック塀があり、倒壊の可能性がある
13 直角に曲がった道路が避難する道路として問題

崖・階段の危険性
14 日常生活の中で、建物の影に崖が存在している
15 災害時、危険なよう壁。行政による確認必要
16 よう壁にひびが入っている。安全性の確認が必要
17 細い急な階段。若い人でも、安心して上れない
18 災害時、高齢者が長い階段を上っての避難は困難
19


19.長い階段

防災上の資源

初期消火に役立つ資源
1 町内に18カ所の消火栓を設置
2 町内に40カ所の消火器を設置

1.消火栓

2.消火器

3 目立たない場所に消火器がある
4 消防団のポンプなど備品がある。また、防火水槽もある。

災害時に活用できる場所
5 公園周辺の住人にとって、まつ川公園は実質的に集合場所となる
6 大型駐車場。町会の一時集合場所の目安になる

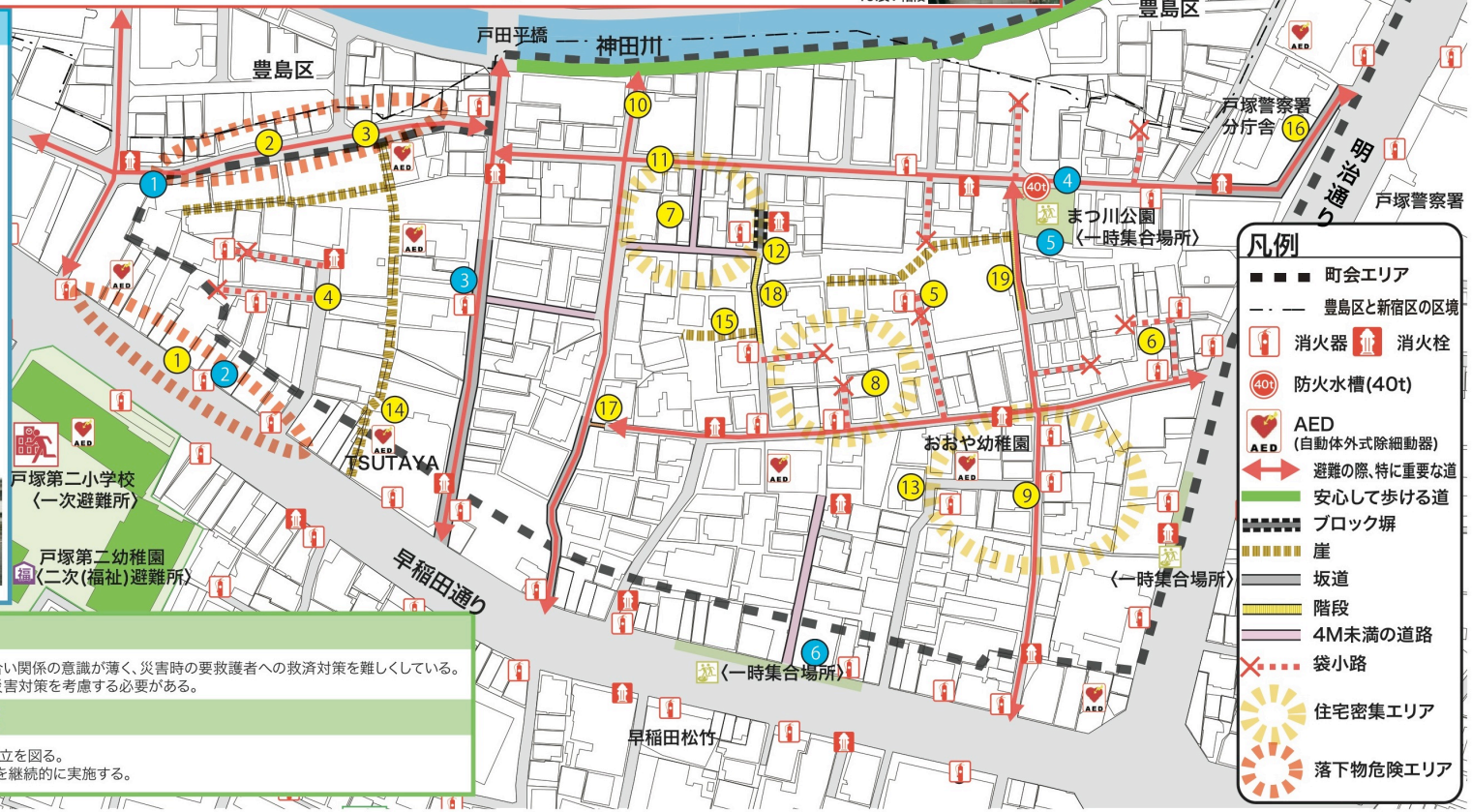
6.大型駐車場

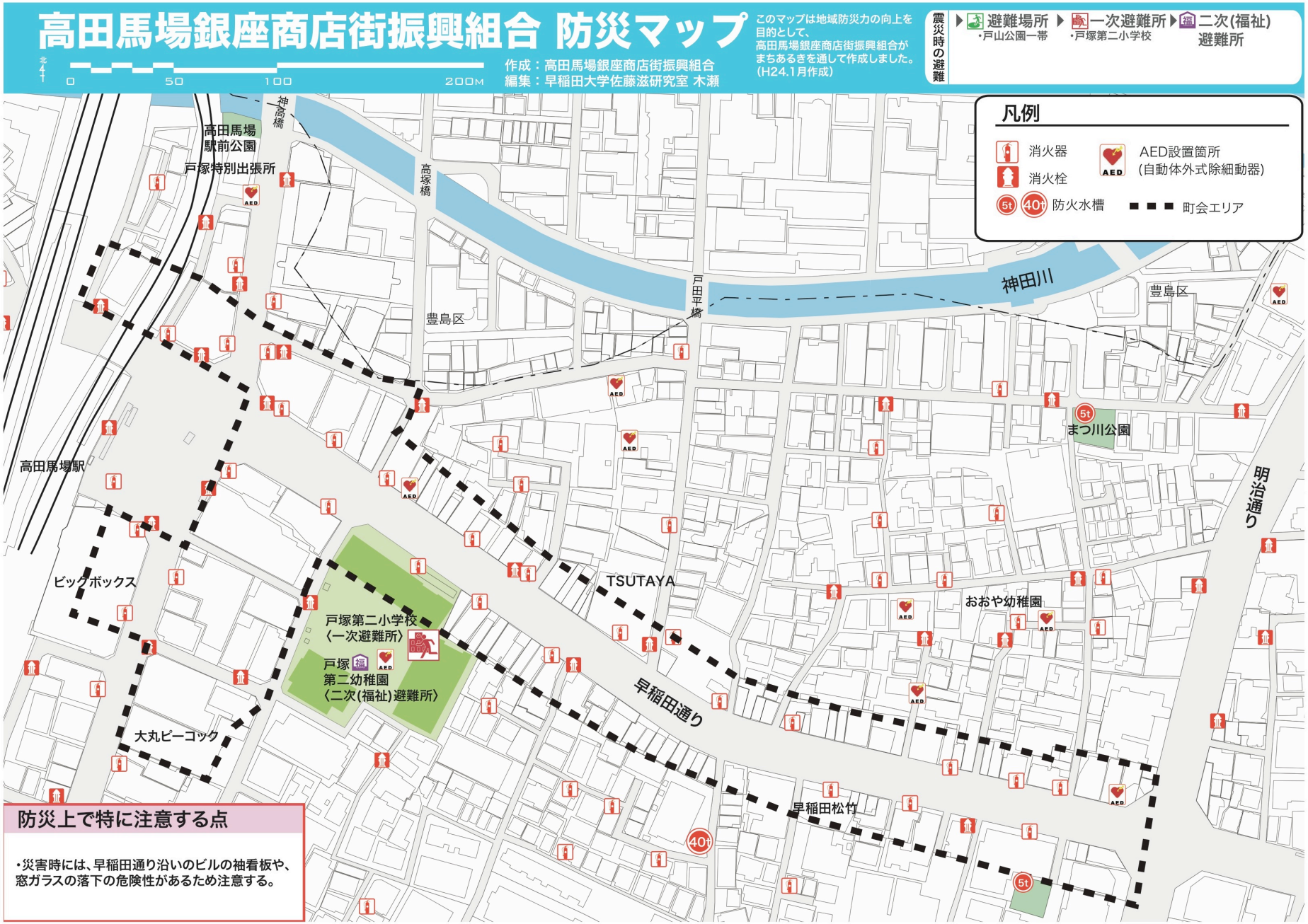
高田馬場町会内の課題

①高齢化と核家族化がすすみ、隣近所の助け合い関係の意識が薄く、災害時の要救護者への救済対策を難しくしている。
②昼間と夜間の人口構成が異なる。時間別の災害対策を考慮する必要がある。

高田馬場町会の震災対策

①地震発生時の対策と緊急連絡網の早急な確立を図る。
②それに伴い町会員の防災意識を高める運動を継続的に実施する。




高田馬場銀座商店街振興組合 防災マップ
このマップは地域防災力の向上を目的として、高田馬場銀座商店街振興組合がまちあるきを通して作成しました。(H24.1月作成)
作成：高田馬場銀座商店街振興組合
編集：早稲田大学佐藤滋研究室 木瀬
北
0 50 100 200M
震災時の避難
避難場所 ・戸山公園一帯
一次避難所 ・戸塚第二小学校
二次(福祉)避難所
凡例
消火器
消火栓
防火水槽
AED設置箇所 (自動体外式除細動器)
町会エリア
高田馬場駅前公園
戸塚特別出張所
神高橋
高塚橋
戸田平橋
神田川
豊島区
豊島区
まつ川公園
明治通り
高田馬場駅
ビックボックス
TSUTAYA
おおや幼稚園
戸塚第二小学校〈一次避難所〉
戸塚第二幼稚園〈二次(福祉)避難所〉
早稲田通り
大丸ピーコック
早稲田松竹
防災上で特に注意する点
・災害時には、早稲田通り沿いのビルの袖看板や、窓ガラスの落下の危険性があるため注意する。

清和会 防災マップ

このマップは地域防災力の向上を目的として、清和会がまちあるきを通して作成しました。
(H24.1月作成)

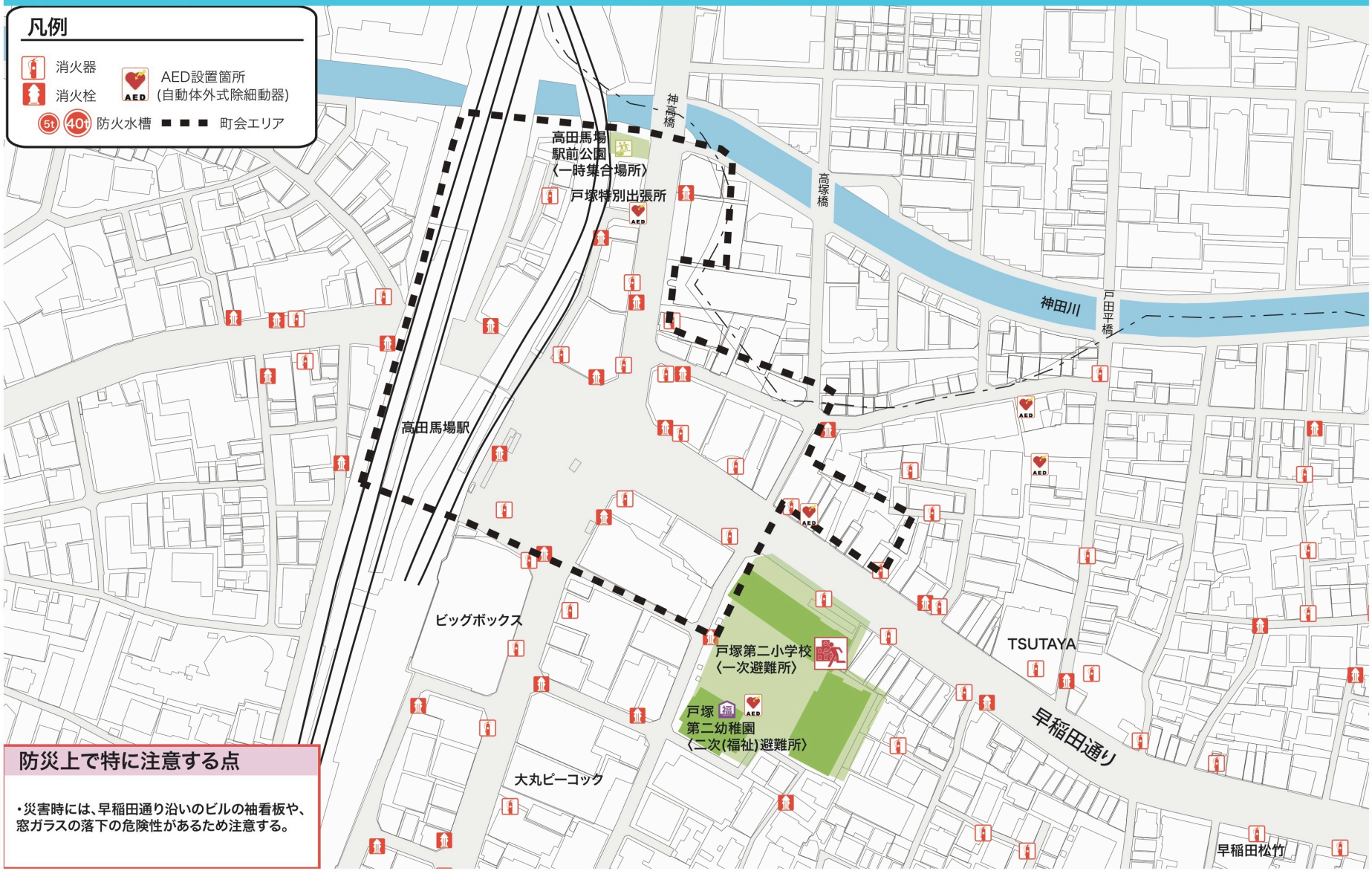
作成：清和会（清和会防災部）
編集：早稲田大学佐藤滋研究室　木瀬

震災時の避難
一時集合場所 ▶ 避難場所 ▶ 一次避難所 ▶ 二次(福祉)避難所
・高田馬場駅前公園　・戸山公園一帯　・戸塚第二小学校

北 0 50 100 200M

凡例

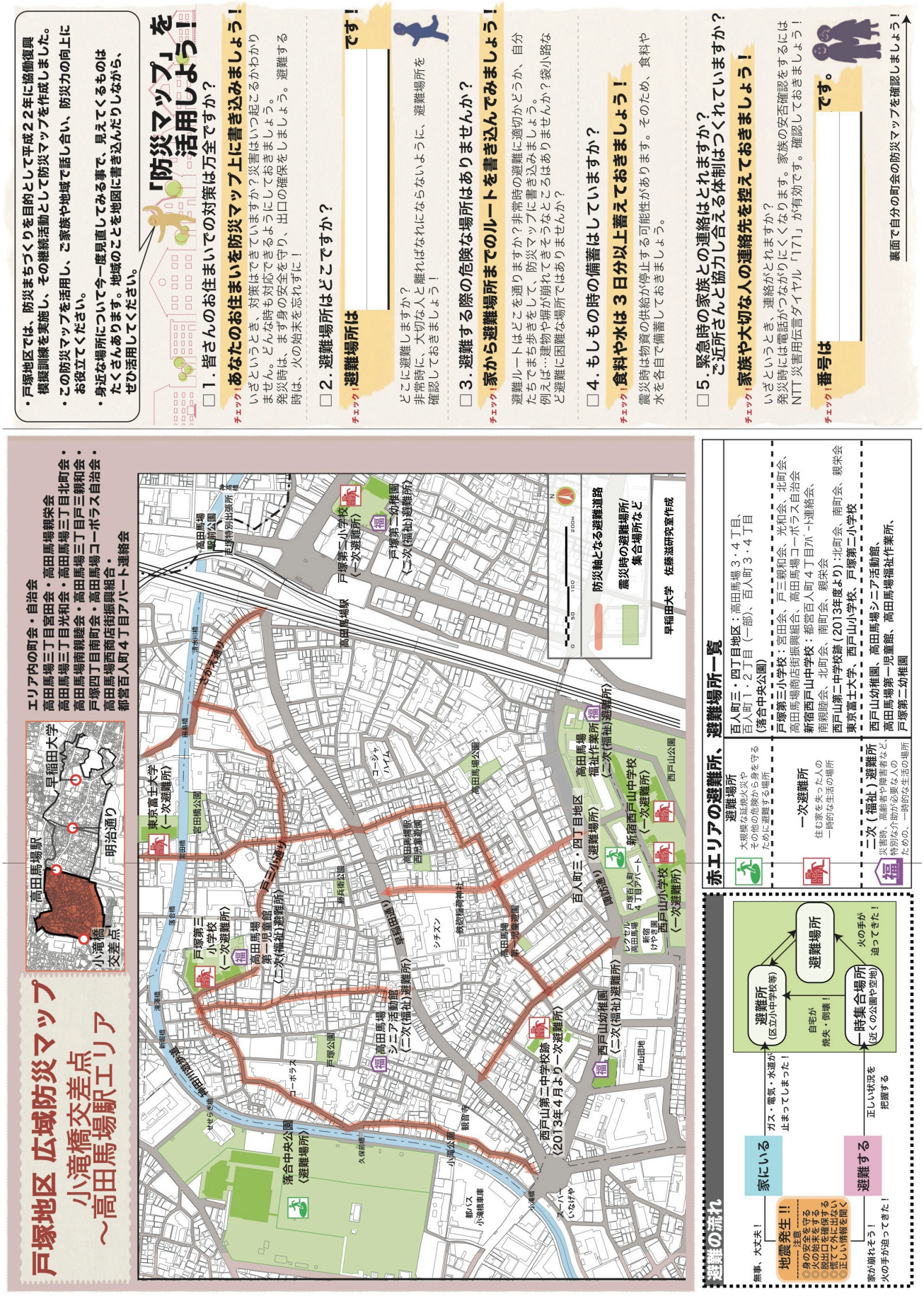
- 消火器
- 消火栓
- AED設置箇所（自動体外式除細動器）
- 5t 40t 防火水槽
- 町会エリア



防災上で特に注意する点

・災害時には、早稲田通り沿いのビルの袖看板や、窓ガラスの落下の危険性があるため注意する。

○赤エリア



表面広域マップ

高田馬場三丁目宮田会防災マップ

このマップは地域防災力の向上を目的として、高田馬場三丁目宮田会がまちあるきを通して作成しました。(H24.1月作成)

作成：高田馬場三丁目宮田会（高田馬場三丁目宮田会地域防災部）
編集：早稲田大学佐藤滋研究室 飯塚

北
0 50 100 200M

震災時の避難
一時集合場所 ▶ 避難場所 ▶ 一次避難所 ▶ 二次(福祉)避難所
・宮田橋公園 ・百人町3、4丁目地区 ・戸塚第三小学校 避難所

凡例

- 消火器
- 消火栓
- 4M未満の道路
- 袋小路
- 防火水槽（5t / 40t）
- 袋小路や狭い道路が特に多いエリア
- 町会エリア

防災上の資源

災害時に活用できる場所

1. 狭い道路が多い中での集まる事の出来る貴重な公園。消火栓も設置してあり、災害時役立つ

1. 宮田橋公園

防災上で注意する点

1. 空き家の集合住宅がある。暗くて細い道
2. 人が一人通るのがやっとの道。足下が悪い
3. 階段。足下が悪い
4. 公園と繋がっている道。道幅が狭い
5. 見通しも悪く、塀も老朽化した狭い道路
6. 急な坂道になっている
7. 行き止まりになっている
8. 私道で道幅が非常に狭い
9. 行き止まりになっている

1. 空家の集合住宅

2. 足下の悪い通路

5. 道幅の狭い道路

6. 急な坂道

4. 細い通路

落合橋
神田川
宮田橋
田島橋
宮田橋公園 〈一時集合場所〉
東京富士大学
戸塚第三小学校 〈一次避難所〉
戸塚ハイツ
みやた児童遊園
東京電力（株）目白変電所
戸三小通り
西友
早稲田通り
藤兵衛公園

高田馬場三丁目戸三親和会防災マップ

このマップは地域防災力の向上を目的として、高田馬場三丁目戸三親和会がまちあるきを通して作成しました。
(H24.1月作成)

作成：高田馬場三丁目戸三親和会
編集：早稲田大学 佐藤滋研究室 木瀬

震災時の避難
一時集合場所 ・戸塚公園
▶ 避難場所 ・百人町三・四丁目一帯 ・落合中央公園
▶ 一次避難所 ・戸塚第三小学校
▶ 二次(福祉)避難所 (町会区域内) ・高田馬場第一児童館

北 0 50 100 200M

凡例
- 町会エリア
- 28 町丁目
- 消火器
- 5t 40t 防火水槽
- 消火栓
- 袋小路
- 井戸
- 震災時に電柱のトランス落下の危険性がある場所
- 坂
- 階段
- 3m~4mの道路
- 3m未満の道路
- AED設置箇所 (自動体外式除細動器)
- P 駐車場
- 空地

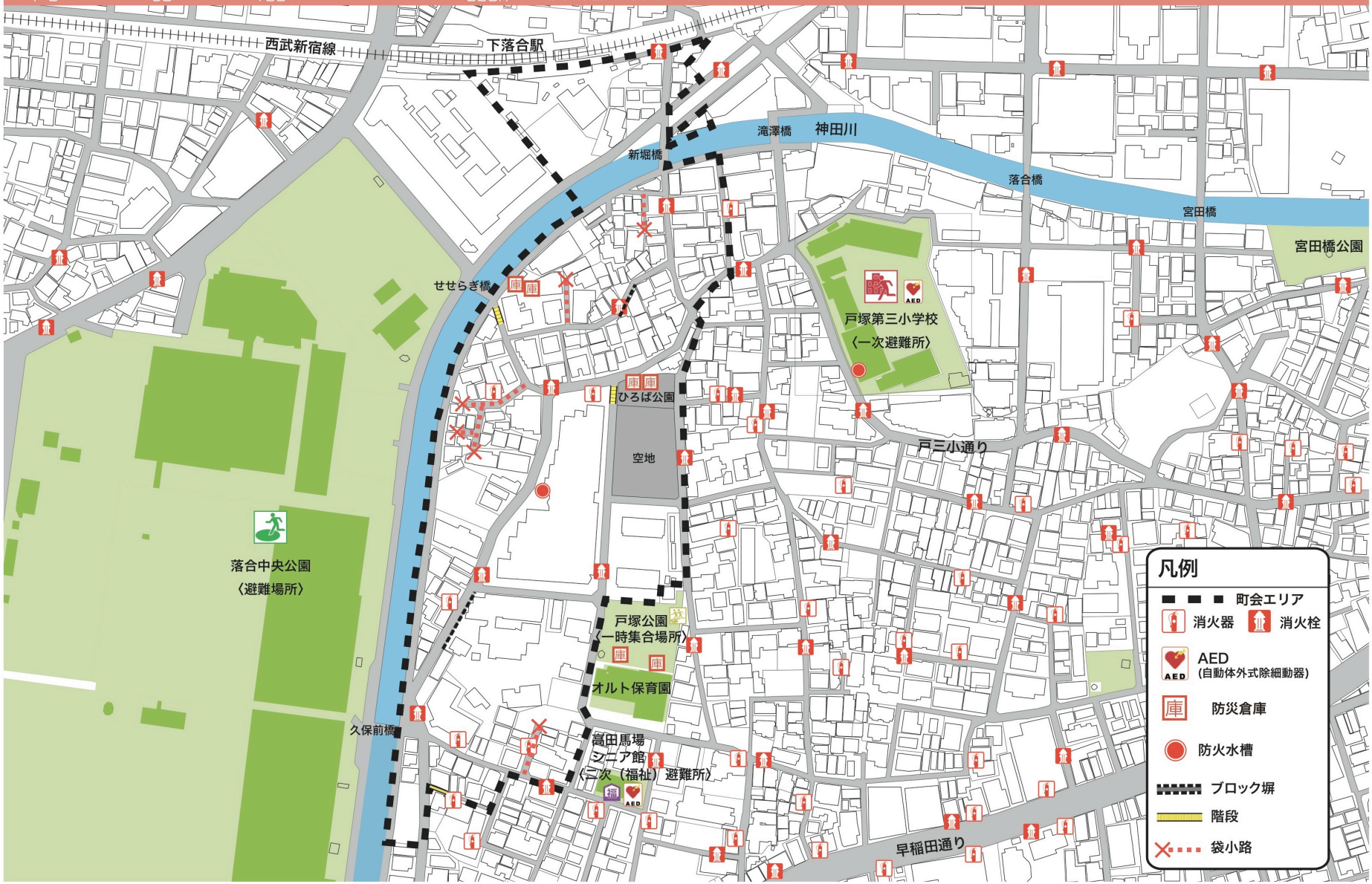
新堀橋
落合橋
神田川
宮田橋
宮田橋公園
みやた児童遊園
戸塚第三小学校 〈一次避難所〉
高田馬場第一児童館 〈二次(福祉)避難所〉
戸三小通り
落合中央公園 〈避難場所〉
高田馬場コーポラス
郵政宿舎
戸塚公園 〈一時集合場所〉
オルト保育園
藤兵衛公園
久保前橋
高田馬場 シニア活動館 〈二次(福祉)避難所〉
早稲田通り

高田馬場三丁目光和会防災マップ

このマップは地域防災力の向上を目的として、高田馬場三丁目光和会がまちあるきを通して作成しました。

作成：高田馬場三丁目光和会(高田馬場三丁目光和会地域防災部)
編集：早稲田大学佐藤滋研究室 足立

震災時の避難：一時集合場所(・戸塚公園) ▶ 避難場所(・落合中央公園) ▶ 一次避難所(・戸塚第三小学校) ▶ 二次(福祉)避難所



高田馬場三丁目北町会防災マップ

このマップは地域防災力の向上を目的として、高田馬場三丁目北町会がまちあるきを通して作成しました(H24.1月作成)

作成：高田馬場三丁目北町会（高田馬場三丁目北町会防災部）
編集：早稲田大学 佐藤滋研究室木瀬

北 0 50 100 200M

震災時の避難

- 一時集合場所
  - ・観音寺門前(主)
  - ・小滝公園(副)
- 避難場所
  - ・百人町三・四丁目地区
  - ・落合中央公園
- 一次避難所
  - (2013年3月まで)
  - ・新宿西戸山中、戸塚第三小
  - (2013年4月～)
  - ・西戸山第二中跡に一本化予定
- 二次(福祉)避難所（町会区域内）
  - ・高田馬場シニア活動館

防災上で注意する点

避難の妨げになりそうなもの

1. 通り抜けが可能だがひどく狭い路地
2. 両側が万年塀で狭く震災時に要注意の道
3. 亀裂のある危ない擁壁
4. 石段が数段ある狭い路地
5. 注意すべき袋小路
6. 都市計画道路予定地で木造が多い
7. 道の入り口に柵があり、車いすが通行できない
8. 問題のある電柱/トランス/電線

4.石段のある狭い路地

日常から注意すべき道路

9. 車の交通量が多く見通しが悪い幹線道路
10. 自動車が多く、歩行者にとって要注意の坂道
11. ミラーが少なく、交通事故の多い交差点
12. 変形交差点で見通しが悪い。保育園に通う親子相乗りの自転車で事故が多い場所

3.亀裂のある危ない擁壁

7.柵があり車いすが通行できない

防災上資源となる点

災害時に拠点となる場所

1. 観音寺門前：北町会の一時集合場所である
2. 高田馬場シニア活動館：50才以上の住民に日常よく利用される福祉施設
3. 観音寺駐車場：地域でよく利用する集合場所（親栄会の一時集合場所と防災倉庫）
4. 区立戸塚公園：光和会、親和会の一時集合場所 北町会と他町会の交流の拠点
5. 新宿区の小滝橋地域防災活動拠点（2012年4月より）

歩行者に優しい道

6. 神田川遊歩道：災害時は避難ルートとしても活用できる
7. 花と緑も多く、車の来ない、子供に快適な路地
8. 花と緑の多い裏道

▶神田川遊歩道の風景

震災前からの連携が必要な場所

1. 観音寺：夜間閉門のため防災倉庫2棟の利用が常時できるように連携を図る必要あり
2. 高田馬場シニア活動館：指定管理者であるNPO法人ワーカーズコープとの連携を図る必要あり
3. オルト保育園：指定管理者である社会福祉法人新栄会との連携を図る必要あり
4. 電気工事会社：新宿区と災害時協力協定を結んでいる

高田馬場南親睦会防災マップ

このマップは地域防災力の向上を目的として、高田馬場南親睦会がまちあるきを通して作成しました。
(H24.1月作成)

作成：高田馬場南親睦会（高田馬場南親睦会地域防災部）
編集：早稲田大学佐藤滋研究室 木瀬

震災時の避難
- 一時集合場所：・高田馬場公園 ・高田馬場駅西児童遊園
- 避難場所：・百人町三・四丁目地区
- 一次避難所：・新宿西戸山中学校
- 二次(福祉)避難所

防災上で良い点

災害時に活用できる場所

1. 防災スピーカーを活用したい（位置を高くできないか）
2. 柵のある道路空地→柵を撤去することで空間を活用できないか
3. 大型の駐車場があり、町会の一時集合場所の目安となる。

2.柵のある道路空地

防災上で注意する点

避難の妨げになる危険性

1. 古くて背の高いブロック塀が多く、避難の際には注意が必要なエリア
2. 3. 4. 災害時に倒壊の危険のあるブロック塀がある箇所
5. 背の高いブロック塀があり、かつ狭隘道路で避難の困難さが予想される箇所
6. 二方向避難が可能だが道が極端に狭く、災害時は通行が困難であることが予想される
7. 私道上に、バイク・自転車が駐輪されており、通行の妨げとなっている箇所
8. 道路角地にポールがあり、通行の妨げとなっている
9. 西児童遊園の一方の入り口の道が狭く、災害時に通行が困難になる可能性がある

1.背の高いブロック塀

5.背の高いブロック塀と狭隘道路

7.道路上に駐輪された自転車・バイク

9.西児童遊園の狭い入り口

10.狭隘道路と袋小路

袋小路の危険性

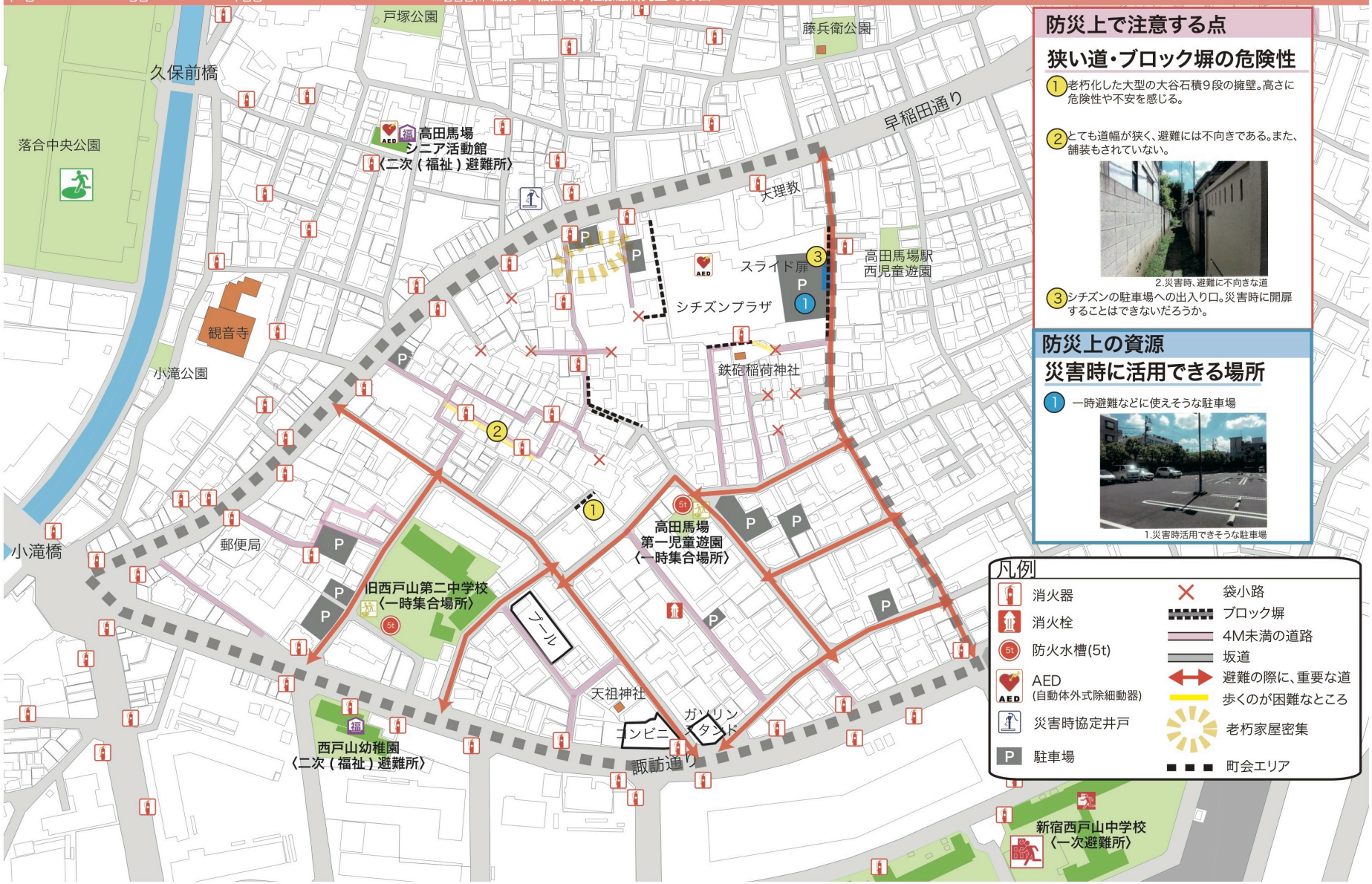
10. 道が狭く、袋小路になっている
11. 狭隘道路や袋小路が特に多いエリア

戸塚四丁目南町会防災マップ

このマップは地域防災力の向上を目的として、戸塚四丁目南町会がまちあるきを通して作成しました。(H24.1月作成)

作成:戸塚四丁目南町会(戸塚四丁目南町会地域防災部)
編集:早稲田大学佐藤滋研究室 小野田

震災時の避難
- 一時集合場所
  - ・旧西戸山第二中学校前
  - ・高田馬場第一児童遊園
- 避難場所
  - ・百人町3・4丁目地区
- 一次避難所
  - ・新宿西戸山中学校(2013年3月まで)
  - ・西戸山第二中跡に一本化予定(2013年4月より)
- 二次(福祉)避難所



防災上で注意する点

狭い道・ブロック塀の危険性

1. 老朽化した大型の大谷石積9段の擁壁。高さに危険性や不安を感じる。
2. とても道幅が狭く、避難には不向きである。また、舗装もされていない。

2.災害時、避難に不向きな道

3. シチズンの駐車場への出入り口。災害時に開扉することはできないだろうか。

防災上の資源

災害時に活用できる場所

1. 一時避難などに使えそうな駐車場

1.災害時活用できそうな駐車場

凡例

- 消火器
- 消火栓
- 防火水槽(5t)
- AED (自動体外式除細動器)
- 災害時協定井戸
- 駐車場
- 袋小路
- ブロック塀
- 4M未満の道路
- 坂道
- 避難の際に、重要な道
- 歩くのが困難なところ
- 老朽家屋密集
- 町会エリア

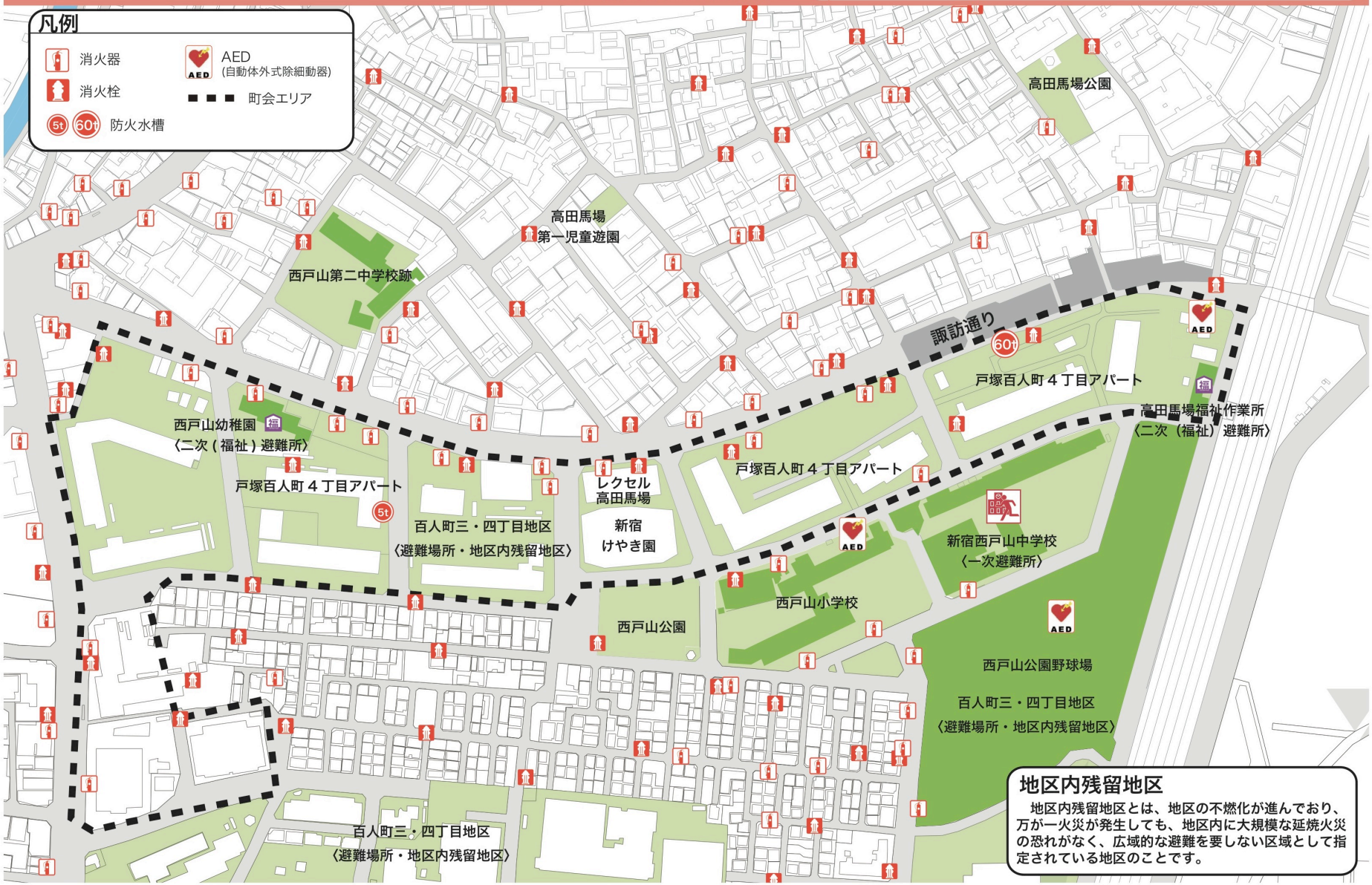
都営百人町４丁目アパート連絡会防災マップ

このマップは地域防災力の向上を目的として、都営百人町四丁目アパート連絡会がまちあるきを通して作成しました。(H24.1月作成)

作成：都営百人町4丁目アパート連絡会
編集：早稲田大学佐藤滋研究室 飯塚

北
0 50 100 200M

震災時の避難：一時集合場所 ▶ 避難場所 ・百人町三、四丁目地区 ▶ 一次避難所 ・新宿西戸山中学校 ▶ 二次(福祉)避難所 (町会区域内) ・高田馬場福祉作業所 ・西戸山幼稚園



地区内残留地区

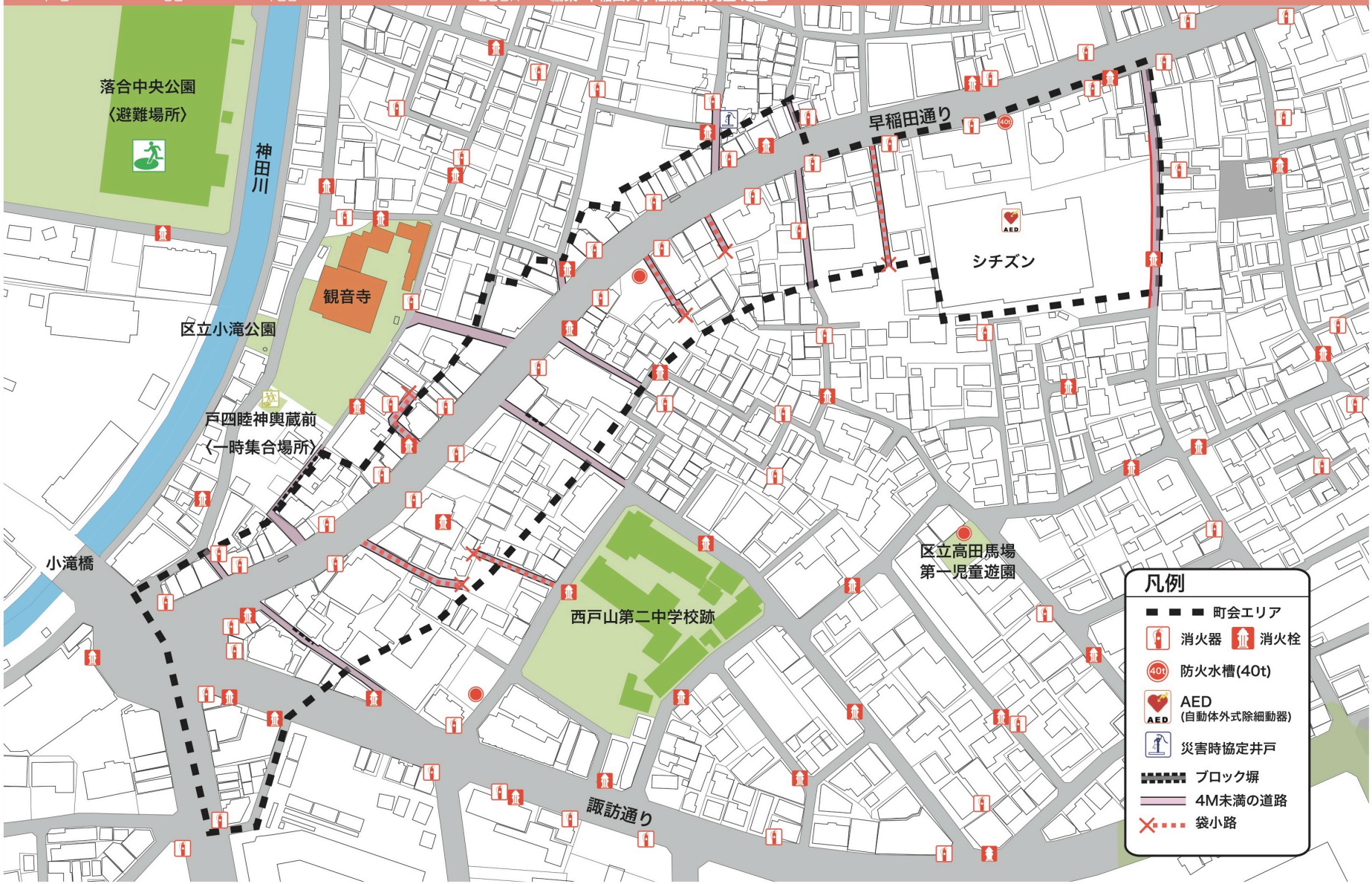
地区内残留地区とは、地区の不燃化が進んでおり、万が一火災が発生しても、地区内に大規模な延焼火災の恐れがなく、広域的な避難を要しない区域として指定されている地区のことです。

高田馬場親栄会防災マップ

このマップは地域防災力の向上を目的として、高田馬場親栄会がまちあるきを通して作成しました。

作成：高田馬場親栄会（高田馬場親栄会地域防災部）
編集：早稲田大学佐藤滋研究室 足立

震災時の避難：一時集合場所（・戸四睦神輿蔵前）▶ 避難場所（・落合中央公園）▶ 一次避難所（・新宿西戸山中学校）▶ 二次（福祉）避難所



2-7　2 章のまとめ

今回の防災マップ作りと平成 22 年度の協働復興模擬訓練の違いは、地域住民が主体的にまちを歩き、マップ作成を行い、その主体的な活動のためのレクチャーや成果物の度重なるチェック、最終的なマップの編集作業など、あくまで補助的な機能を、大学と新宿区で担ったという点にありました。

最終的に、全 25 町会・自治会中、22 町会からマップの提出があり、度重なる調査、議論、修正の結果、各町会等地域組織のマップ内容も非常に密度の濃い仕上がりとなりました。これらの活動を経て、地域住民が主体的に地域の防災まちづくりを捉え、考えることができました。

今後各町会等地域組織で、この防災マップが、地区全体の防災意識を高めるとともに、更なる防災まちづくりへの展開の足がかりとなることが期待されます。

3 章

模型を使った
復興まちづくり体験ゲーム

平成 23 年 10 月 26 日 18 時～21 時
参加者 50 名、場所：戸塚地域センター

3-1　模型を使った復興まちづくり体験ゲームの目的
3-2　ゲームの進め方
3-3　ゲームの結果
3-4　3 章のまとめ

第３章　模型を使った復興まちづくり体験ゲーム

3-1　模型を使った復興まちづくり体験ゲームの目的

平成22年度の復興模擬訓練では、特に「めくりめくりゲーム」において、震災後の復興の進み方を体験し、「復興アイデア旗差しゲーム」では復興まちづくりを行うためのアイデアを出し合いました。しかし、震災後に起きる実際の復興まちづくりはまちも行政も混乱し、まちの復興について十分な議論が行われるとは限りません。そこで、まちの将来像を予め議論し、まちの復興イメージを共有しておく必要があります。

第２回訓練では、復興の進め方を理解しながら、震災後におけるまちの課題を復興時にどのように解決するかを議論し、具体的な復興イメージを参加者間で共有することを目的としました。

3-2　ゲームの進め方

ゲームの内容は、 被災した戸塚地区在住の住民になりきってもらい、震災後のまちの復興と住宅再建までのまちづくりのイメージを１／３００サイズの模型と１／１００サイズの模型を使いながら議論するというものです。

ゲームを行うにあたり、以下の３チームに分かれて、レクチャーボードと模型、ツールそして、戸塚地区の住民の住宅再建きっかけカード（５名分）を用意しました。

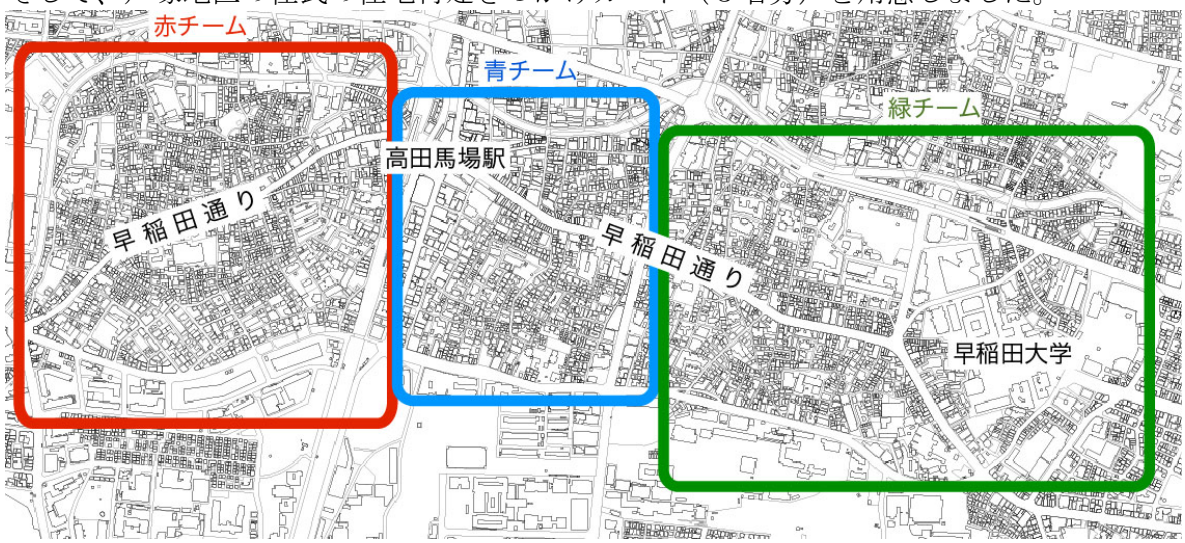


図3-1 模型を使った復興まちづくり体験ゲームチーム分け

ゲームの進め方について説明します。ゲームの進行は以下のように７つの構成からなっています。

１）被災状況の確認
２）各自の生活意向とまちの将来像の共有
３）避難生活時の体験
４）都市計画事業に対する提案
５）白地地区での地区計画の決定
６）共同化による住宅再建
７）ゲームのまとめ

以下で、詳細に説明します。

１）被災状況の確認

まず、震災直後にまちがどのような状況に陥ったのか、どの程度の被害が出たのかをボードを見せながら説明します。被害想定は延焼シミュレーションを用いて、区画整理事業等が行われると仮定した事業区域（以下、黒地地区）と行われないと仮定した非事業区域（以下、白地地区）に分かれています。これにより、これまで境がなかったまちが震災により二分されてしまうことを理解します。

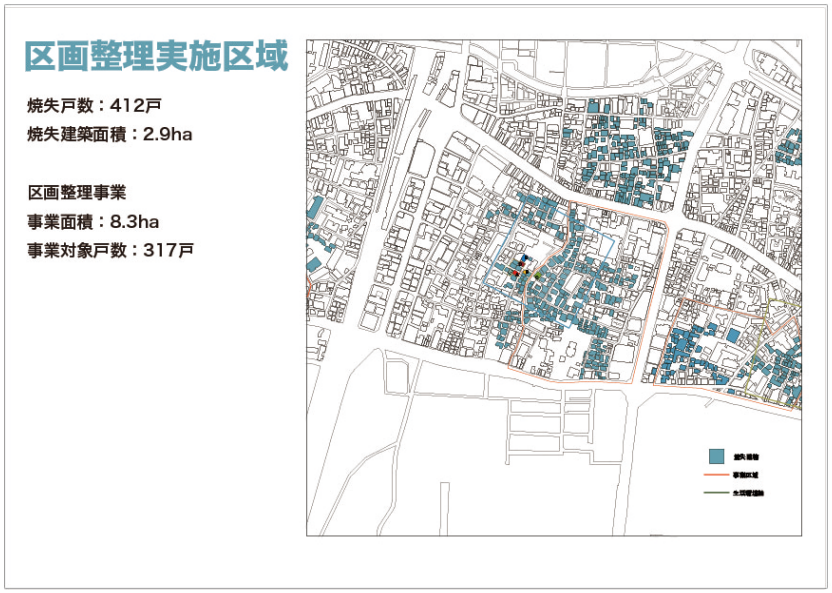


図3-2 区画整理事業区域ボードの例

図3-3 プレイヤー設定ボードの例

２）各自の生活意向とまちの将来像の共有

参加者が、それぞれ割り振られた被災者の役になりきって、震災直後の自分の状況と趣味等を、カードを読みながら説明します。その後、スタッフから生活シーンボードを用いて、復興時に達成したい居住意向の例を紹介し、参加者は自らが達成したい居住意向を選択します。また、スタッフが提示したまちの将来像について参加者で議論して、まちの将来像を決定します。こうしてそれぞれの生活意向とまちの将来像を参加者間で共有します。

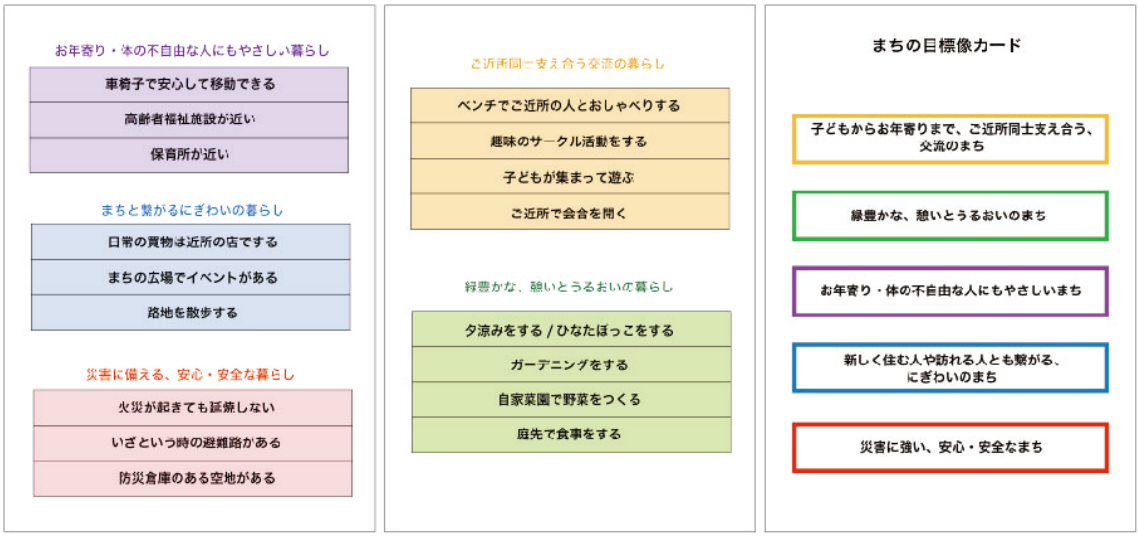


図3-4 生活シーンボード（左と中央）、まちの目標像カード（右）の例

生活シーンカードの選択の様子

まちの将来像の議論の様子

３）避難生活時の体験

スタッフから被災者がそれぞれ異なる場所での避難生活を行っていることを説明します。また、イベント紹介ボードを用いて、神戸で行われた被災者をつなげる体制やイベントを紹介します。その上で、戸塚地区にふさわしい復興まちづくりの体制や情報共有の仕方を協議します。

スタッフからの説明の様子

図3-5 イベント紹介ボードの例

４）都市計画事業に対する提案

黒地地区に対して、行政から区画整理事業だけでなく、民間再開発なども含めた復興計画案（以下、都市計画事業）が提示されたと仮定し、その計画案に対して地域からの要望として提案を検討します。その際、模型を使いながら空間と対応させて具体的にイメージをしながら議論します。

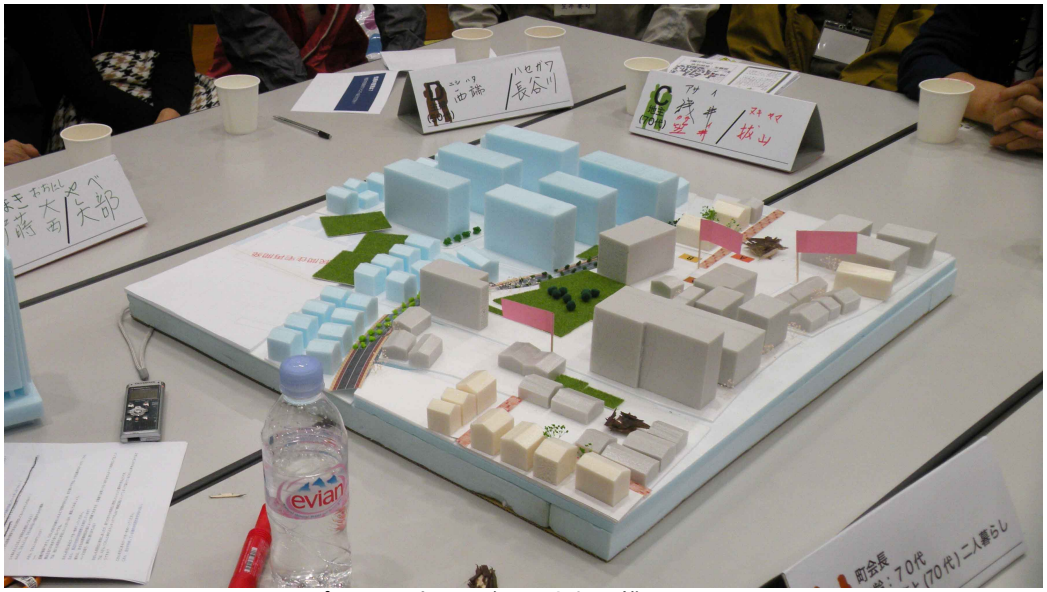
模型にツールを配置する様子

模型を使って議論する様子

５）白地地区での地区計画の決定

スタッフがレクチャーボードで、神戸の事例から白地地区で使用された地区計画を紹介します。その上で、復興をするときの具体的な整備について参加者間で議論します。また、議論に対応させながら模型にポケットパークを配置していき、具体的な整備イメージを共有します。

模型を使って議論する様子



ポケットパークが配置された模型

６）共同化による住宅再建

住民になりきった参加者がきっかけカードを読むことで、共同化の過程を理解します。また、共同化により住宅再建を行っていく際に、被災前より防災性を向上するためのアイデアや、住みたいと思う住空間について議論します。そして、議論に対応するように、参加者自らが模型を配置して、議論でイメージした空間を具体化していきます。

きっかけカードを読む様子

模型を作っている様子

７）ゲームのまとめ

「2」各自の生活意向とまちの将来像の共有」で共有した生活意向やまちの将来像が実現されているか参加者間で確認します。また、議論されてきた内容が被災前からできることがあるか協議します。さらに、以下の写真のようにチーム毎に検討した内容を発表する事で、エリアごとのまとめを参加者全員で共有します。

チーム毎に発表している様子

3-3　ゲームの結果

参加者から出された代表的な意見を以下に抜粋して示します。

【各自の生活意向とまちの将来像の共有】

・延焼しない、安全に避難できるような道を確保する必要がある。
・防災倉庫を設置することや、火災が来ても延焼せず、いざというときの避難路が確保されたまちづくりをおこなっていく。
・ご近所同士でよりよいまちを共に考えて行けるように、住民同士で交流を図って支え合っていけるまちをつくる。
・緑が豊かで、商店街や憩いの場があるなど、にぎやかで地域住民が楽しく過ごせるまちをつくる。

まちの将来像では、「災害に強い、安全・安心なまち」にしていきたいという意見が多く見られました。また、ご近所同士が支え合い、そして交流していくまちづくりを行っていきたいという意見が多く見られ、総じてコミュニティに対する意見がありました。

【避難生活時の体験】

・お祭りやイベントを開催することで避難した住民との情報共有の場を設ける。
・早稲田大学など他組織の支援を利用する事で広報活動やイベントなどを行うことができる。
・町が焼けても町会という母体は残るため、町会役員を中心に情報交換を行い、町の人に広める。
・各地に点在した被災者の所在確認や、連絡を取るための体制が必要であり、そのためにはまず行政が動くべきである。

避難生活には情報共有ができる場が必要であり、具体的にはお祭りやイベントを開催するという意見が多く見られました。また、町会組織の情報網を活用する、地元大学である早稲田大学との協力体制、行政による先導的な対応を求める意見なども見られました。

【都市計画事業に対する提案】

・消防車が通行できるように、幅員 6m 程度の生活道路を主体とした計画が必要である。
・道路を拡幅しすぎると、車の抜け道や、駐車スペースとして利用されてしまう恐れがあるため、住民の車が通行できるくらいにしたい。
・車のスピードを抑えるために、コミュニティ道路にすることも考えられる。
・高齢者は買い物や病院に行くこと自体難しいため、再開発ビルの中に商業施設や福祉施設を入れることも必要である。
・戸三小通りを道路拡幅して、緑地帯として整備することも考えれる。

地区を貫通する主要な道路は広げ、住宅地内の道幅は広げすぎないようにするという意見が多く見られました。ただ、道路を広げすぎると、交通量が増すため、子供や高齢

者には危険という意見もありました。また、道路拡幅に併せて、緑を多くするといった意見は多く見られました。また、建設されるビルに対して、商業施設や高齢者施設を併設してほしいという意見もありました。

【白地地区での地区計画の決定】

・統一性のない建物は建設しないようにする。
・安全に二方向に避難できるように、袋小路はなくす。
・崖、段差が多く高齢者が生活する上で不便であり、老朽化した擁壁も倒壊する恐れがあるので、改善する。
・無接道宅地では建替えができないため、共同化していく。

復興をして行く際に、被災前にあった地域の課題を改善して、災害に強いまちづくりを希望する意見が多く見られました。

【共同化による住宅再建】

・延焼防止のために中庭をつくって、避難時に有効な通り抜けを創出する。
・共同化した建物内に高齢者福祉施設や保育園を入れる。
・従前のコミュニティに配慮した共同化の計画が必要である。
・共同化する敷地の権利者だけではなく、周辺敷地の住人も入居できるような組織づくりが必要である。
・災害時の電源の確保をするために、ソーラーパネルを設置する。

共同化をしていくことで､防災性の向上を図るという意見が多く見られました｡また、福祉施設を併設するなどで高齢化に対応しながら、近隣の住人と交流ができる環境を整えるという意見も多く見られました。

【ゲームのまとめ】

・事前から地域のつながりをきちんとつくっていくことが重要である。
・地域の一部だけではなく、全体にPRしていく。実際の復興映像を見てもらう。
・防災備蓄倉庫や消火器などの位置や状態を確認する。
・高齢者に必要な機能を整備する。（福祉施設、趣味を楽しむ場、会話できる場、緑地）

事前から災害に備えた他組織との関係づくりを行うといった復興まちづくりに向けた体制に関する意見が多く見られました。また、今からできることとして、防災設備の点検や、避難路に関する検討を行うという意見もありました。

次項より、チーム毎に出された意見の詳細を示します。

赤エリア

「模型を使った復興まちづくり体験」意見のまとめ

エリア内の町内会

- 高田馬場三丁目宮田会
- 高田馬場三丁目戸三親和会
- 高田馬場三丁目光和会
- 高田馬場三丁目北町会
- 高田馬場西商店街振興組合
- 高田馬場南親睦会
- 戸塚四丁目南町会
- 戸山団地連絡会
- 高田馬場親栄会

1 まちの目標像

1．ご近所同士が支え合う交流の町

道端にベンチを置いて付近にご近所同士の交流を生み出すスペースを設けていく

2．災害に強い安心安全の町

防災倉庫を設置することや、火災が来ても延焼せず、いざというときの避難路が確保されたまちづくりを行なっていく

被災時の情報共有

① 避難所を利用する

戸三小などの避難所を利用して情報共有を行う

②町会を中心に情報を広める

町が焼けても町会という母体は残るので、町会役員を中心に情報交換行い、町の人に広める

事前にできること

①事前から地域のつながりをきちんとつくっていくかが重要。
②地域の一部だけでなく全体に PR していく。実際の復興の様子を映像にまとめて見てもらうなどする。
③地域の住民と協同していく事が大切
④共同化という仕組みがこれからの社会の中でうまく機能する為の行政との関係づくりを行う

2 都市計画事業に対する提案

① 民間再開発を利用したコミュニティ施設の計画

・高齢者は病院・買い物に行くのが大変なので、ビルの中にスーパー、福祉施設を入れてもらいたい
・一階がオープンになるので共用施設や緑地帯などを作ることが出来る

② 防災性の高い幹線道路の計画

・戸三小通りはくねくね曲がっていて防災性が低いので、広い幹線道路にし、 緑地帯を設けていく
・自転車が通るのも危ないため、自転車を分けることも必要

③ コミュニティ道路の計画

・神田川に通じる道を横浜のようなくねくねしたコミュニティ道路として整備し、川まで繋がるようにする
・町が分断されたり、車が沢山通ったりしないようになるべく狭い道にする
・高齢者に広い道路は危ないので住民の車が入れるくらいが適度でいい

④ 回遊性のある車の少ない生活道路の計画

・消防車が入れれば良くて、幅員6M程度の生活道路を主体とした計画が必要
・ビルを境に区切られてしまうこともあるので回遊できるような道の計画が必要

民間再開発ビルの規模の適正化

・大きすぎるのは嫌なので規模を適正化すると共に緑地を入れて欲しい

3 自力再建で達成したい目標

①円滑な交通環境の整備

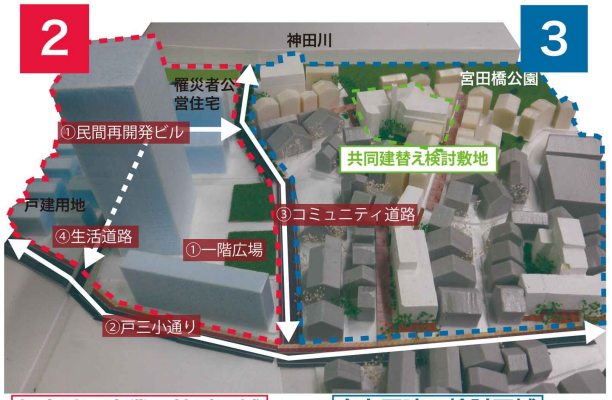
・適した場所に、適した役割(避難用,交通用)の道路を通す。
・狭い道路は清掃車が入れなくて、まちが清潔に保たれない。
・道路は４ｍにする

②災害時の安全な避難

・安全に二方向避難できるように、袋小路をなくす。
・復興する際に補助金によって焼け残った家の再建も出来るようにする。

③災害時における延焼の防止

・共同化住宅が増えると密集が改善されてすっきりする。
・道路がきちんと舗装され、広場が所々にあり、地域の交流の場が増え、災害にも強くなった。



縮尺: 1/300　都市計画事業後の模型

4 共同化でできること

①通り抜けの創出

・延焼防止の役割広い中庭を造って、避難時にも有効な通り抜けを創出する

②近所の人と交流の場

・地域のコミュニティを形成する場所となるような中庭(共同菜園など)をつくる

③高齢化への対処

・高齢になると一人で暮らす事に不安があるので共同化することは有効
・高齢者施設を併設する

④近隣との組織づくり

・共同化する敷地の権利者のみでなく、周辺地域に住む人たちも入居できるような組織づくりを行う事も重要

⑤災害時の対策

・ソーラーパネルの設置による災害時の電源の確保

解決しなければならない課題

・資金の問題をどのように解決していくか。誰が指揮を執っていくのかが問題
・震災によって燃え残った場所で、地区計画や道路計画を行っていく場合の利権関係をどのように行えるかが難しい
・どのような助成を受けてやっていくのか
・共同の住宅は良いが、今まで戸建て住宅でプライバシーが保護されていて他人と一緒に住むという事にメリットを見いだせない

縮尺: 1/100　共同建替えの模型

図3-6　「模型を使った復興まちづくり体験」意見のまとめ（赤チーム）

青エリア　「模型を使った復興まちづくり体験」意見のまとめ

エリア内の町内会
- 諏訪町会
- 高田馬場町会
- 高田馬場銀座商店街振興組合
- 高田馬場清和会

1 まちの目標像

1. 防災のまちづくり

火災が起きても広がらず延焼しないようにまちを復興していき、いざという時のための避難路を常に確保しておく。

2. 住民同士支え合う交流のまちづくり

ご近所同士でよりよいまちを共に考えていけるように、住民同士で交流を図って支え合っていけるまちをつくる。

3. にぎわいのある緑豊かなまちづくり

緑が豊富で、商店街や憩いの場があるなど、にぎやかで住民がみんなで楽しく過ごせるまちをつくる。

被災時の情報共有

① 地域での会合を開く

まちの復興を地域で考えていくことは不可欠である。地域内で励まし合いながらこれからの復興を前向きに考えていく。

② お祭りやイベントを開催する

お祭りやイベントを開催することでバラバラに避難した地域住民の情報共有の場を設ける。

避難中では大きなイベントを開催するのは難しいため、地域内で行える規模の催しものを開催する。それには体制を整え、準備をする必要がある。

事前にできること

①防災備蓄倉庫・消火器等の確認
②避難路の予測とその改善
③地域内でできる催しものの準備
④災害にそなえた地域内での体制づくり

2 都市計画事業に対する提案

①道路の歩車分離

道が整備され車の利便性が向上する一方 ,子供やお年寄りにとっては危険であるため、車・自転車・人がそれぞれ分かれて安全に使える道路が欲しい

② 青道に街路樹などの緑を配置する

青道には街路樹などの緑を豊富に配置し、みなさんで楽しく歩ける場所が欲しい

③小道路にポケットパークなどの緑を配置する

高層ビルが林立する無機質な街になってしまう危険性があるため、メインの青道だけでなく間の道にも緑を配置

④再開発部の商業施設の充実

地域の人々が地域で買い物や利用ができるために、再開発部分の公共部にスーパーやジムが欲しい

⑤商店街の展開

住まいだけでなく、近くに買い物ができる場所が欲しいため、青道沿いに商店街を展開する

⑥福祉施設の充実

復興が長くなった場合、子供ができたり、自分自身が高齢者になっている可能性がある。そのため、子供を育てていくために保育所や高齢者のための福祉施設が必要である

⑦地域で協議を行う場の設置

地域で復興を話し合える拠点的な場所が必要なため、再開発部分に地域の人々が利用できる会合施設が欲しい

3 自力再建で達成したい目標

①袋小路の解消

袋小路は安全に避難することが難しく危険である。
自宅での被災以上に、他人宅に訪れている場合非常に危険性が増す。

②未接道宅地を共同建替え

未接道宅地は近隣と共同しなければ建て替えらず、現状では誰の手にもつけられず、空地として残っていく。

③崖・段差の改善

この地域は崖・段差が多く高齢者が生活する上で大変不便である。また、老朽化した擁壁も崩壊する可能性があり危険である。

④復興資金の確保

高齢者や定年退職者にとって、新たに復興するための資金を出すことは難しい。

⑤床面積の確保

道路拡幅により敷地面積が縮小し、新たに住宅を建てる際に十分な床面積が得られなくなってしまう。

縮尺: 1/300　都市計画事業後の模型

4 共同化でできること

①袋小路、未接道の解消

細分化していた敷地内で道路を新設したり、敷地内に通り抜けを設けることで、もともと袋小路であった場所や未接道の解消を行う。

②建築による段差・崖の解消

障害となっていた段差・崖はエレベータでつなぎバリアフリーを図る。また、坂のような道路を設置することで崖の上下を車が通りやすくする。

③福祉施設の設置

共同化家屋内に高齢者福祉施設・保育園を入れる。

④緑地空間・日射が差し込む空間

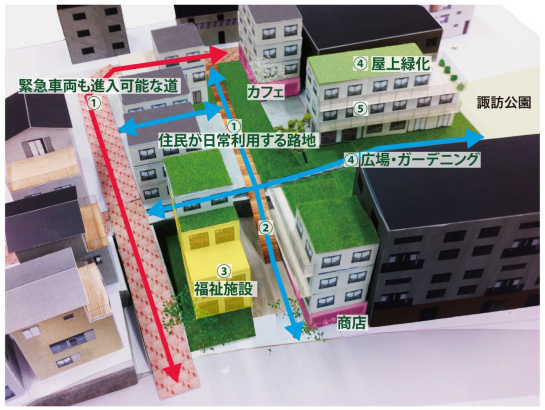
屋上緑化、ガーデニングやバーベキューができ、地域住民の交流の空間

⑤十分な床面積の確保

共同化でより大きな建物を建てることができ、より多くの床面積を得ることができ、アパート経営も可能である。

⑥資金面での解決策

共同化をすることで公共部の建設に補助金を得ることができる。また、共同化によって協力して資金を出しあうことができ、個人で行うより再建がしやすい。



縮尺: 1/100　共同建替えの模型

図3-7　「模型を使った復興まちづくり体験」意見のまとめ（青チーム）

緑エリア

「模型を使った復興まちづくり体験」意見のまとめ

エリア内の町内会

- 和敬会
- 町友会
- 早稲田早栄会
- 稲穂会
- 豊睦会
- 早稲田親和会
- アス西早稲田全体管理組合
- 西早稲田二丁目ときわ町会
- 西早稲田二丁目協和町会
- 西早稲田三丁目睦町会
- 三島町会
- 西早稲田文化町会

1 まちの目標像

1.お年寄り、体の不自由な人にもやさしいまち

・福祉、コミュニティ機能を備えた施設や仕組みが必要である。
・地域で楽しめる場所や、近所と交流出来る場が欲しい。

2.災害に強い、安心・安全なまち

・延焼しない、安全に避難できるような道を確保する必要がある。

被災時の情報共有

1.お祭りや催し物の必要性

・気分も豊かになるので、そのような場での情報共有は良い。

2.外部の支援の必要性

・仮設住宅で暮らす中では、広報活動や催し物等が行えるほどの精神的余裕が持てないと考えられる。そこで、早稲田大学など他組織の支援を利用することで、それらを可能にしていくことができる。

3.行政の先導の必要性

・各地に点在した被災者の所在確認や、連絡を取るための体制が必要であり、そのためにはまず行政が動くべきである。

事前にできること

①他組織との関係を築く
②高齢者に必要な機能を整備する
ex.)福祉施設、趣味を楽しむ場、会話できる場、緑地

2 都市計画事業に対する提案

①高層化による空地の確保

・高齢者には安全な道路の確保が重要なので、ある程度の高層化は必要である。また、高層化により周辺に設けることができる緑地は、趣味や高齢者の交流の場としても重要である。

②商業施設の設置

・高層化による所帯数の増加に伴い、建物内に商業施設を併設することも必要になる。
・高齢者にとっては、近隣で買い物ができることが重要であるため、近隣に商店や商業施設が必要である。

③従前のコミュニティの確保

・従前から住んでいた人だけのフロアを設けるなど、従前のコミュニティに配慮する。
・集合住宅内の会議室を、マンション内や従前のコミュニティを育む場として利用する。

④安全な道路の整備

・歩道、自転車道、車道を分離出来る12m幅の道路を設置することで、子どもや高齢者の安全も確保すると共に、緑の多い安心して歩行できる道路を実現する。

3 自力再建で達成したい目標

①ルールに基づいた建替えによる良好な町並みの形成

・一貫したルールに基づいて建替えを行うことで、安全性や良好な住環境の確保を実現すると共に、良好な町並みを形成を実現する。
・統一性のない建物は建設しないようにする。

②福祉機能の充実

・高齢者のための福祉施設などを整備することで、お年寄りにも安心なまちを実現する。

縮尺: 1/300　都市計画事業後の模型

4 共同化でできること

①従前のコミュニティへの配慮

・従前のコミュニティに配慮した共同化の計画が必要である。

②防災性の向上

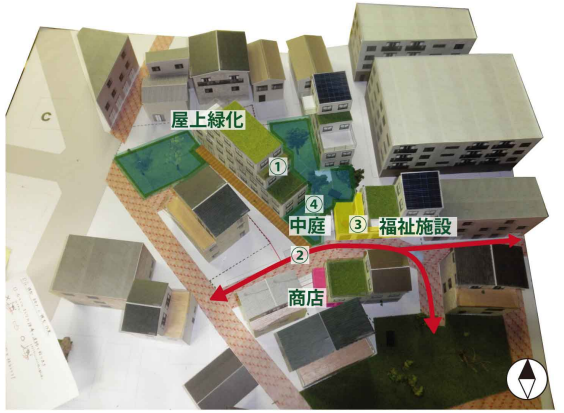
・未接道を解消する必要がある。
・耐火建築物で共同建替えを行うことで、火災時の延焼を防ぐようにする。

③福祉機能の整備

・共同化した建物内に福祉施設を設ける。

④良好な住環境の整備

・中庭を設ける。また、方角や風通しに配慮する。
・土地が狭くなるほど沢山の道路は設けない。



縮尺: 1/100　共同建替えの模型

図3-8 「模型を使った復興まちづくり体験」意見のまとめ（緑チーム

3-4　3 章のまとめ

以上のゲーム結果を見ると、参加者は被災者になりきって復興を考えることで、まちの復興と住宅の再建に至る過程を学ぶことができたと言えます。また、模型を使用して議論したことで、復興まちづくりの具体的なイメージを共有することができました。このような復興まちづくりの過程とイメージを事前に検討しておくことが、震災後の復興まちづくりの協議を円滑に進めることにつながり、今後の具体的なまちづくりを行う上で有効であると考えられます。

４章

成果報告会

平成 24 年 1 月 15 日 13 時～15 時
参加者 56 名、場所：戸塚地域センター

第４章　成果報告会

平成23年度の戸塚地区協働復興模擬訓練・継続活動を通じて得た成果を、戸塚地区全体で共有するために、以下の要項で成果報告会を行った。

第３回全体会　成果報告会　　参加者：56名

【日時】：　平成２４年1月１５日（日）１３：００ ～ １５：００

【場所】：　戸塚地域センター７階　多目的ホール

【目的】：1）これまでの協働復興模擬訓練の成果を地域で共有する

2）これからの戸塚地区での事前からの取り組みについて考える

【概要】:成果報告会の第１部では、首都大学東京の市古準教授に基調講演として事前復興まちづくりの重要性などについて発表頂きました。また、第２部では、３人の町会長が作成した防災マップの成果を発表し、地域で共有しました。第３部の意見交換会では、訓練の成果を元に、震災が起こる前までにどのようなことに取り組んでいけば良いか、新宿区長、早稲田大学佐藤滋教授を交え、幹事や参加者と共に議論を行いました。

【プログラム（３部構成）】

第１部『事前復興まちづくり基調講演』（１３：００～１３：５０）

1）開会の挨拶

2）協働復興模擬訓練について

3）事前復興まちづくり基調講演

第２部『防災マップの発表』（１３：５０～１４：１５）

第３部『意見交換会』（１４：１５～１５：００）

意見交換会

【成果報告会の様子】

成果報告会の様子 その 1

成果報告会の様子 その 2

成果報告会の様子 その 3

成果報告会の様子 その 4

成果報告会の様子 その 5

成果報告会の様子 その 6

１）開会の挨拶

中山弘子新宿区長

大震災から一年が経ち、亡くなられた方や、復旧復興に取り組んでいる方々に対して、私たちが行うべき義務とは、東日本震災の経験を活かしていくこと。この防災とボランティア週間イベント週間の趣旨は、復興支援に新宿区というまちが元気になりながら、どのように被災地の援助を行っていくかを考えていくことにある。

３月１１日に起こった震災を真摯に受け止め向き合い、新宿の町の誰もが命を大切にして、震災時に逃げなくても済むようなまちづくりを進めていく事が大切。東海、東南海、南海、こうした列島地震がいつ起きてもおかしくないという状況に今あるが、震災で大切な命を無くさないように、そして、私たちの地域を守る事ができるよう、自助、共助、公助の取り組みをしていくことが求められている。区長に就任して10年目になるが、これまで防災訓練といえば、どちらかといえば避難訓練を行っていた。もちろんそれも大切だが、併せて耐震補強や地域それぞれにおける自助、共助の取り組みを、そして公助としてその取り組みを支援できる様な仕組みづくりを整えることで、現状85％に増えている建物の耐震化を目標として9割にし、まちの安全度をもっとあげたい。それを区は力一杯応援するとともに、区としての取り組みもしっかりしていきたい。復興模擬訓練もその取り組みの一環として考えている。

2011年を表す漢字というのは「絆」であった。減災社会の実現の為には人と人のつながりが大切である。阪神大震災でも、近所の方々が「あそこにはおばあちゃんがいるはずだ」「あそこの人が見えない」といって命を救った。地域の方々が自分のまちを知って、人のつながりを持つ事によって、町は安全になっていく。絆を大切にしながら、地域を安全な町に変えていく、その第一歩がこのイベントである事を願っている。

町会連合会会長、早稲田親和会会長　福本弘 代表幹事

この協働復興模擬訓練につきましては、町会連合会、町会ならびに地区協議会の方々と一緒に、早稲田大学の佐藤先生をはじめ、佐藤研究室の学生の皆様にいろいろと応援していただいた結果として、今回の成果報告会に繋がっている。今日は防災フェスタということで、下階に展示されている模型や町会防災マップも、学生さん達に応援していただいた結果完成したのが実態である。

戸塚地区での協働復興模擬訓練については平成７年の阪神淡路大震災を契機として、地区で様々な防災に対する知識、考え方を皆で共有していく必要があるということが、

訓練の目的である。また昨年起こった3月11日の自然災害に対しても、戸塚地区なら戸塚地区での考え方を皆で共有するということが一つの目的でありますので、今日の成果報告会を参考にし、様々な事で、我々と皆様の考えを同じくして進んでいきたいと考えている。

２）協働復興模擬訓練について

早稲田大学　佐藤滋 教授

「協働復興模擬訓練」は新宿に限らず、東京都の様々な地域で今も取り組まれているが、全体として見ると十分の一もやっていない。この訓練の必要性をより認知してもらうために、新宿区の様々な協議会の方と一緒に作った復興模擬訓練のプログラムを、DVDで編集し教材にした。新宿区での復興模擬訓練の様子と、阪神淡路大震災の実際の復興の様子を、対比をして観ることができるような構成にしている。これは大変評判をいただいている。

しかし復興模擬訓練は、訓練だけ行えば良いというものではなく、その後の継続的な活動に繋げていくことがより大事になる。例えば戸塚地区では町会ごとに詳細な防災マップをつくったり、より具体的な復興プロセスを実際に模型を使いながら体験し、考えてみようということを今年度行った。平成２０年に復興模擬訓練をした落合第二地区でも、毎年徐々に、その後の防災のまちづくりに取り組んでいるところである。

ただ、こうした取り組みが実際に被災したときに本当に役に立つのか。我々が復興模擬訓練をやっているときに、新潟の中越沖地震があり、柏崎のえんま通り商店街から復興を手伝ってくれという依頼があった。大変被害の大きかったところだが、復興模擬訓練と同じ事を我々はここでやった。皆で集まって地区の模型をいじりながら実際の復興まちづくりを検討し、４ヶ月弱で大まかな計画を地区全体で合意することができた。

模型をいじりながら、自分たちがこういう事を考えてやりたいというイメージが湧く。そういうことを考えて、自らで計画を作り上げていく。住民たち自身の手によってまちのイメージが描かれ、我々はこういうものを専門的に計画案からまとめていくという事をやっている。

要するに、復興模擬訓練というのは、ただ訓練だけではなくて、実際に何か起きたときは、手法をこのまま使うことができるわけで、できれば被災する以前からこういう取り組みが実行に移っているとより良い。

こういうことを進めていけば、被災してもスムーズな復興と安全を守ることができる。こんな事で復興模擬訓練は取り組んでいる。

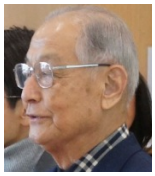
３）事前復興まちづくり基調講演『事前復興まちづくりの取り組み事例と可能性』

首都大学東京 市古太郎 准教授より、事前復興まちづくりの展開とその事例について基調講演が行われました。発表資料は資料編に掲載します。

４）防災マップの発表

３人の幹事からエリアの説明や、防災マップを作成した感想を発表しました。

高田馬場三丁目戸三親和会会長　原田英明 幹事



赤エリアは山手線の線路から西側、高田馬場三・四丁目に当たり、町会が 6 つに商店街が 2 つ、八つの区域にわかれている。高田馬場三丁目戸三親和会は高田馬場三丁目のほぼ中央に位置していて、南は早稲田通り商店街に隣接し、北は神田川に接している。面積は長い所で東西約 300 メートル、南北約 400 メートルある。

町会への加入は約 360 所帯あり加入率は約 70%。65 歳以上の高齢者の比率は、三丁目は 24.3%、区の平均より 4.5%高い地域である。平成 20 年に作成された新宿区地震ハザードマップによると、建物倒壊危険度は 5 の段階の中の 2、それから火災危険度は５の段階の４、総合危険度は 5 の段階の 3 となっている。町内は 1945 年の 5 月に戦災でこの地区はほとんど罹災した。1981 年、建築基準法が改正され、30 年以上建っている建物が一部あり、地震等の倒壊に際しては非常に危険度の高い地域である。

道路事情は、緊急車両が通れるのは町会の北側を通っている戸三小通りのみで、その他は戦前からの生活道路のままである。また崖地、袋小路は七つ、坂道は九カ所、また電柱の上にトランス、変圧器などが乗っているのが 22 箇所と非常に問題の多い所である。対策としては、状況にもよるが、各個人個人が地域の状況を常日頃から頭の中に想定し、避難場所までの避難行動、対処をするのが得策である。指定された避難場所に来るまでは、団体行動は厳しいのではないか。そこで、平時の防災対策として、各家庭には当然火災警報機を設置していただき、また消火器を完備するということが大事。消火栓は現在町内１７カ所あるが、大体３０軒に一個くらいの割合で、妥当ではないかと思

われる。一方で、避難場所を必要とするような災害が発生した場合に、高田馬場三丁目だけでも、外人を含めると５４００人、四丁目も合わせると１０９００人の方がおり、このような方々の、一時的な必要品をどうするのかという問題がある。災害時、また復興の際には、各町会が近隣町会や行政との情報発信窓口として、積極的に行動することが重要である。

東京地区では、関東大震災以降昨年まででちょうど８８年、大きな地震は起きていない。いつまでも安全で安心して暮らせるように、願っている次第である。

諏訪町会会長　本多誠 幹事

青エリアはこの戸塚地区の中心に位置し、北に神田川、南に諏訪通り、真ん中に早稲田通りが通る。

道路事情は、本当に狭い道路が入り組んでいて、袋小路が多い。災害時には、戸塚第二小学校、あるいは西早稲田中学校にまずは避難所を設置し、そこで避難者を受け入れることになるが、では避難をする際にどうやってこの避難所に到達できるかというのが、非常に大きな問題になっている。なので、早稲田通りの北側の高田馬場二丁目が面している豊島区との連携も非常に重要になってくると考えている。

南北に抜ける道は、昔は川で今は暗渠になっており、谷あいになっている。本当に安全が確保できる避難路かどうかというのは、やはり再検討しなければならない。また一方で東西に抜ける道はほとんどないのも課題である。

一次避難所は、諏訪公園と諏訪の森公園があるが、ここが非常に使いづらい。諏訪公園は、崖の上に位置し、入り口はこの崖下の方にしかなく特殊な状態。諏訪の森公園は、付近一帯が住宅地で、何かあったときには火に囲まれる恐れがある。南側の諏訪神社やお寺と連携を図ることが必要である。

この防災マップは、町会の役員の１０名くらいで手分けして作ったが、あくまでもこれは各家庭の防災マップを作る一つの手がかりとして提供し、災害時にはどこの避難所にどういうルートで逃げるか、ということを各家庭でしっかり考えてもらいたい。そうして、各家庭、各個人の防災マップをそれぞれが作り上げていくことが今後重要だと考えている。

早稲田早栄会会長、新宿区耐震協議会会長伊藤衛 幹事

緑エリアは北が神田川、南側が諏訪通り、南北軸に明治通り、真ん中を貫く早稲田通り、そういった形で囲まれている場所である。地理的には西早稲田一丁目の辺りが新宿区の中で一番低い場所である。西早稲田一丁目は早稲田大学を囲んでいるため、比較的避難しやすい。西早稲田二丁目は平坦な地形で、戸山公園、学習院女子大学、西早稲田中学など比較的まとまった方向に避難することになるので、安全な避難ルートの確保が大事になる。西早稲田三丁目は崖や階段など高低差が多く、高齢者や身体障害者にとっては非常に避難が困難となる総じて、間違いなく避難できるルートを確保する意味でも、そもそも避難しないで済む対策をする意味でも、建物の耐震化を進めることは非常に大切である。

また広域避難場所、あるいは早稲田大学の避難場所があるが、ここには隣のエリアの人たちも大勢避難してくるので、ここを避難場所として当てにしていいかどうかも考える必要がある。

西早稲田早栄会は、すぐ近くに大隈庭園、早稲田大学、中央図書館があり、立地的には恵まれている。また、昔から地区防災的な取り組みが行われていて、危険な箇所や避難路など色々考えられている。危険な道は多いため、避難路を限定せずに二方向避難を考えることや、段差、崖、倒壊の危険があるブロック塀などの改善についてお願いをしている。

このように、課題はたくさんあるが、このエリア全体としては、避難場所には事欠かないというイメージはある。ただ、震災の起こる時間帯によって、通勤などで留守な場合や、帰宅困難者の受け入れも考えると、避難場所なども埋まってしまう可能性が高い。建物はできるだけ耐震化をすることによって、倒壊しない、火事を起こさないまちづくり、という風な取り組み方もあるのではないか。まち全体としては、マンションなど非木造の建物が増えているが、若干古い建物が密集しているところもあるので、耐震化、地区計画なども一緒に考えてみてはどうか。安全な、住みやすいまちづくりを、こうした機会にしっかり考え、災害に強いまちづくりというものに取り組んでいきたい。

４）意見交換会

これまでの成果や今後の課題などについて、訓練幹事、落合地区において復興訓練後の継続的な活動をしている上落合三丁目町会森山会長、そして専門家として佐藤教授、市古准教授による意見交換が行われました。

以下、意見交換会での議論の要約を示します。

戸塚地区協議会会長、高田馬場三丁目北町会会長　古澤謙次 副代表幹事

まず、感想としては、継続活動を前年度同様戸塚地区全域で実施できたのは町会の堅実な関係のお陰だと思う。また、関係者みなさまには感謝している。第２に、なかなか事前復興模擬訓練という考え方が受け取りにくい中だったが、今回の継続活動はまちあるき・模型をつかったワークショップと言ったリアルな体験に訴えかけるような防災対策を兼ねた訓練であった点が良かった。最後に、事前復興まちづくりも考えた総合的な防災マップづくりは今後の町会毎の防災対策の貴重な材料になるものと考えている。

今後の課題として、1 番目に復興模擬訓練の周知活動がまだまだ十分ではないという点である。そのため、事前復興まちづくり DVD や、今回作成した防災マップを使いながら、町会毎の防災懇談会、防災まち歩き訓練、こういったものをそれぞれ実施して、本多さんが言ったように「我が家の防災マップづくり」を行って頂きたい。

次の２番目の課題として、戸塚地区はほとんど区画整理がされていないため、大半の道路が狭い細街路で、そして崖値という点である。具体的には、木造密集地域、細街路、袋小路、あるいは建築不可能な土地・崖地の改良それから防災軸となる避難路の整備等、今回特に重点を置かなければいけないような課題も出てきた。

今後も復興模擬訓練の継続活動をなんらかの形で戸塚地区でも継続していきたいと強く念願している。その際には、復興まちづくり訓練に並行して、防災上の課題を改善していきたい。その他のことでは、大学・行政の方々とどんなことができるのか相談しながら今後とも防災まちづくりを努力していきたいと思う。

戸塚地区協議会副会長、西早稲田二丁目ときわ町会会長　野村長嗣 幹事

戸塚地区は神田川により、全域で坂道が多くある。このことが災害時にマイナスになり、復興時の障害になっていくと感じる。また、避難所である早稲田大学や小中学校には、高低差があるため、階段を使わなければ避難することができないところもある。なんとか階段を回避できるようにするなどから、避難所や避難場所を再度考え直す必要がある。

災害時の避難所の問題などもあるが、これからお知恵を貸りてうまく協力体制をとっていきたい。

落合第二地区事前復興まちづくりを考える会、上落合三丁目町会会長　森山富夫 幹事

上落合地区では平成 20 年度に復興模擬訓練を行った。かつて、地元と行政だけでのまちづくりを途中で辞めたという経緯があった。しかし、今回は模擬訓練後、早稲田大学の支援があり、「行政と地元だけではない」ということで、一部で幹事会が始まった。まず活動として、町民の防災に対する意識を変えるためにどのように伝えるべきかという点を最大のポイントにした。そこで、大学の協力のもと、アンケート調査を行った。その結果、住民の防災に対する意識がガラッと変わったことがわかり、「防災に強いまちづくり」がアンケートのトップに出て来た。このアンケート結果を新宿区長に申し上げた。実際に、建替えは進んでいるが、相対的にまだ危険であると私たち住民は認識している。これはまちづくりであるため、まずまとめるのを早く行い、実行はゆっくりとしようと考えている。

新宿区区長室危機管理課 課長　平井光雄

本日の成果報告会を見て、非常に大きな成果があったと感じた。市古先生や佐藤先生も言っていたが、防災マップづくりを行ったことで、まちの脆弱性と強みをよく知ることができたと思う。また、この成果を今後大きく反映させて行くことができると思う。その 1 つとして、逃げないで済むまちづくりを行うために、地区計画などを定めることで、災害に強いまちへと繋げて行くことができると思う。また、避難や消火活動、災害時要援護者対策などの課題も地域の防災対策に生かしていくことができる。さらに、「地域の初期消火体制をどうするのか」、「避難をどうするのか」といったことを解決するために、地域ごとのエリア防災計画を作ることができるではないかと考える。例えば、落合地区はかなり細街路の多い地域で、危ない地域である。区として初期消火体制を重視し、小型ポンプを配置しているが、高齢化が進み、使いにくいということで、落合地区の要望もあり、消火器を充実した。

防災まちづくりで最も大事なのは、顔が見える関係づくりだと思う。そういう意味ではこの戸塚地区での復興模擬訓練は、地域全体で顔見知りになるきっかけになったと思う。行政だけでなく、住民・大学など色々な主体を巻込んだまちづくりを行いたいと考えている。今後も戸塚地域を応援して行きたい。

首都大学東京　市古太郎 准教授

戸塚地区で直下地震が起きた場合、どのような避難が必要になるのか、なぜ避難が必要になるのかということが、非常に大きな問題になるのかと思った。火災による避難だけでなく、ライフラインが止まった際に、家は大丈夫でも、1人では避難できない方を事前に把握して、「困っていれば一緒に逃げませんか」と声をかけて、一緒に避難することもあるのではないか。また、東京都が指定している広域避難場所はあまり頼らない方が良い。地域のための運営や備えがされているかが分からない。むしろ、本当に頼れるか確認をしていくということも必要だと思う。さらに、防災マップをつくって、どういう避難空間があって、揺れが起きたとき、どのタイミングでどう行動するかを検討することも今後の大きな取り組みになると思う。新宿のような大都市では、民間の賃貸住宅を “みなし借り上げ仮設” 住宅として使用しているように、事前から借りられる住居やオフィスをうまく使いながら町の復興・再建をしかけていくという発展もあるのではないかと感じた。

それから、落合地区の森山さんの話のように、「行政と地域だけでなく、専門家、大学と一緒に」ということがうまく行かないと、復興もうまく行かないのではという印象を受けた。

早稲田大学　佐藤滋 教授

これまでの成果をまとめていくことは常に続けなければならない。大学も行政も、継続して、地域毎の復興マニュアル、あるいは復興計画というものをつくって行くことが一つ重要となる。それから阪神淡路大震災から学んだことは、小さな取り組みをやっているところと全くやっていないところでは、復興の仕方が全然違ったということである。とにかく、一歩でも前に進めるということが大事だと思う。

最後に、NHK のテレビで、ジョン・ダワーの“敗北を抱きしめて”という本を書いている人が「3.11 で空間が泣いた」と言った。要するに、ぽっかり空いたものがある、そこに新しいものを埋め込む、これが本当に大きなチャンスなんだと。地域社会の在り方自体を変化させる機会なのかもしれない。このように、皆さんの意識が大きく変わっている機会なので、3.11 に起きた大きな被害というものを無駄にしないで、それぞれの地域で、この取り組みを強めていって、来年度の動きに結びつけていけたらと思う。

5 章

平成 23 年度の活動のまとめ

5-1　協働復興模擬訓練・継続活動のまとめ

5-2　幹事会からの意見

5-3　今後の進め方の提案

５－１まとめ

平成 23 年度の活動を通じて、実際に町会等地域組織ごとにまち歩きを行い、防災マップを作成することで、平成 22 年度に比べて地域住民がより主体的に、参加することができました。昨年の復興模擬訓練では、参加者はこれまであらゆる場面で話し合われてきた防災まちづくりという視点を共有できましたが、今回のフォローアップによって、復興まちづくりの視点及び被害を最小限にするためのまちづくりの視点（事前復興）を勉強することができました。平成 23 年度の成果としては以下のことがあげられます。

【防災マップづくり】・・・2 章を参照

・異なる町会の状況を踏まえて、より詳細な町会毎の避難所や避難場所など
・まちの課題や資源

が共有できました。

【模型を使った復興まちづくり体験】・・・3 章を参照

・被災したまちの復興の過程
（どのような主体がどのような困難とともに、まちを復興させていくのか）
・被災後、復興における各時期での課題と資源
・復興まちづくりにおける具体的な方策
・震災時の被害を最小限にするために事前にできるまちづくりの方策

が共有できました。

【成果報告会】・・・4 章を参照

・戸塚地区における事前復興まちづくりの考え方
・今後の課題

が共有できました。

５－２幹事会からの感想
『戸塚地区協働復興模擬訓練を振り返って』

戸塚地区では、大地震による万一の時の被災の軽減と被災後のまちの再生を事前に考える復興模擬訓練を、平成 22 年度、戸塚地区町会連合会・戸塚地区協議会、新宿区、早稲田大学の協働で実施しました。平成 23 年度は、継続活動として、総合的な防災マップづくりや復興まちづくりワークショップなどを行いました。

二年を振り返ってまず印象的なことは、他の地区と違い、この訓練を戸塚地区のほぼ全域で実施できたことです。町会連合会と地区協議会の緊密な協力関係と地域の皆さんの熱心なご協力のおかげであり心から感謝しております。

また、戸塚地区での訓練の早期実施を数年前から新宿区に要望していて、今回の大震災の一年前から実施できたのは本当に良かったと思っています。復興模擬訓練の意義がなかなか理解されにくい面もありましたが、実際は防災対策上も有益な活動で、いつ起きてもおかしくないと言われている大地震への対策の大きな布石を打つことが出来たのではないかと考えています。

今後の課題はいろいろありますが、まず重要な事は地域の皆さんへの訓練成果の周知です。最近刊行された訓練についてのＤＶＤや今回作成された防災マップを使い、各町会ごとに防災懇談会や防災まち歩き訓練をされるのも一案かと思います。

模擬訓練ではっきりしてきたまちの課題も、木造密集地域、袋小路、避難道路の整備等、たくさんあります。その他の防災上の課題では、従来の耐震補強等の他に大震災で新たに駅周辺の帰宅困難者対策や災害医療等の問題も浮上して来ました。

これからも行政、大学と連携し、安全・安心のまちづくりに努めていきますので、ご協力をよろしくお願い致します。

戸塚地区協働復興模擬訓練・継続活動

古澤謙次 副代表幹事

５－３　今後の進め方の提案

平成22年度戸塚地区協働復興模擬訓練と平成23年度戸塚地区協働復興模擬訓練・継続活動で検討して来た意見を参考に来年度以降の課題を整理しました。

1. 復興まちづくりに向けた体制づくり

①無理のない継続可能な組織体制の構築

戸塚地区町会連合会・戸塚地区協議会の中心メンバーで幹事会は構成されてきました。これからも、戸塚地区町会連合会と戸塚地区協議会がお互いに連携しながら、情報交換等を行っていく必要性があります。

②復興時の行政との連携体制を事前に協議する必要性

戸塚地区では行政と地域が協働して事前復興まちづくりに取り組んできました。模擬訓練での体験から、いざ災害が起きた時に、地域と行政が共に復興計画の協議をする難しさが分かりました。そこで、事前から復興まちづくりの連携体制を協議しておく必要性があります。

2. 事前に復興計画を考える

①スムーズな復興を行うために復興のイメージ像となる「まちづくり構想」を検討のする必要性

「模型を使った復興まちづくり体験ゲーム」では地域の復興のイメージ像を検討しましたが、実際に震災が起こった場合は、落ち着いて協議することができません。よりスムーズな復興を可能にするために、これまでに出てきた意見を基に、より具体的な内容となる「まちづくり構想」を検討していく必要性があります。

資料編

１　幹事会の議事録

２　成果報告会発表資料（市古准教授資料）

1. 戸塚地区復興模擬訓練・継続活動 議事録

戸塚地区協働復興模擬訓練・継続活動　準備会　議事録

2011 年 4 月 28 日（水）15:30～17:00

於：戸塚地域センター

文責：早稲田大学　北岡

【参加者】（敬称略、順不同）計 21 名

幹事：福本、古澤、本多、原田、野村、養田、山崎会長代理、海老原、辻（佐久間会長代理)、伊藤

新宿区危機管理課：平井課長、田中、加藤

戸塚特別出張所：依田所長、鈴木副所長、平野

早稲田大学：阿部、川辺、岡田、北岡、小野田

【議　題】（１）防災マップ作成について

（２）事前復興模擬訓練勉強会

（３）意見交換会

【議事要約】

1.会の方針

・実施主体は町連と地区協議会が戸塚地区として行い、支援組織は大学と区。

・地元と区が一緒に戸塚のビジョンを考えるための会。

・地区により継続の有無があるが、復興模擬訓練の継続が必要であり、そのモデルとして戸塚地区で、協働事前復興模擬訓練のフォローアップを行う。

・まちの将来像を考え、事前にそういった体制づくりを想定して、すべきことを戸塚で何をするか考える。

2.防災マップ

・平成 22 年度の模擬訓練の成果を活かす→点検項目の精査

・町会単位でまち歩き(点検)を行い、情報を会で地図でまとめる・区民組織と町会組織をつなげるために防災マップを完成させる(組織の活性化)

・消防や警察と協力を図る(会議の内容次第)→レクチャーを依頼する

3.勉強会

・ワークショップをしていくときには、町会単位ではなくエリアごとに進める。

次回　６月８日夜（１５時３０分～１７時）第１回幹事会

戸塚地区協働復興模擬訓練・継続活動　第一回幹事会　議事録

2011 年 6 月 8 日（木）15:30～17:00

於：戸塚地域センター

文責：早稲田大学　小野田

【参加者】（敬称略、順不同）計２７名

幹事：町連（福本、原田、伊澤、佐久間、山崎、海老原、山本、養田、笠井、岩城）、地区協議会（古澤、野村、本多、伊藤、山本）商店会（加納、佐藤、北上）、避難所運営管理協議会（井下田、青木）

新宿区危機管理課：加藤、田中

戸塚特別出張所：依田所長、鈴木副所長、平野

早稲田大学：阿部、北岡、小野田

【議　題】（１）出席者紹介

（２）訓練プログラムの説明

（３）平成 23 年度のスケジュールの決定

（４）第一回訓練（防災マップの作成について）野認知と周知

【議事要約】

1. 出席者紹介

・オブザーバーの参加についての確認。

…・まちづくり分科会の協力的で活発な意見があったので、幹事会のオブザーバーとして参加することにする。

2. 訓練プログラムの説明

・平成 23 年度は、平成 22 年度の活動である復興模擬訓練を継一歩進めて、継続させる活動として位置づけられることを確認した。

3. 第一回訓練（防災マップの作成について）の認知と周知

・各町会・避難所単位の防災マップをつくる

・ 町会ごとに課題が違うので、無理に書く事を統一するのではなく、各町会で必要な内容を明記する。

・ 商店会は近接する町会と合同で行う。これを機に今まで欠けていた防災への意識の変化が生まれれば良い。

・次回全体会で白地図等を配布する。

次回　７月２５日夜多目的ホールにて　第一回全体会「防災マップを作ろう」

戸塚地区協働復興模擬訓練・継続活動　第二回幹事会　議事録

2011 年 9 月 14 日（水）15:30～17:00

於：戸塚地域センター

文責：早稲田大学　北岡

【参加者】（敬称略、順不同）計 29 名

幹事：町連（福本、原田、伊澤、佐久間、山崎、海老原、山本、養田、笠井、岩城）、地区協議会（古澤、本多、伊藤、山本）商店会（加納、佐藤、北上）、避難所運営管理協議会（井下田、青木）

新宿区危機管理課：加藤、田中、河井

戸塚特別出張所：依田所長、鈴木副所長、平野

早稲田大学：阿部、北岡、小野田、木瀬

【議　題】（１）勉強会

1.耐震化についてのレクチャー

2.新宿区の初期消火体制に関するレクチャー

（２）防災マップの状況報告と今後の確認

（３）第２回全体会「戸塚地区の防災まちづくりを考える～模型を使った復興まちづくりの体験を通じて」の予告

【議事要約】

１防災マップの状況報告と今後の確認

・10 月に第３回幹事会で、マップを回収。一時締め切りを、10 月 14 日にする。

・２枚提出は原則ではない。他の町会でも異なる作成方法があるので、各町会バラバラでも問題ない。

・順次提出してもらえれば、データ化を大学が行っていく

・町会ごとに防災マップは統一はしない

・個人にプライバシーに関わるところは遠慮して、共有できるところは写真を載せる

・大きな範囲のマップは大学の視点を盛り込んだ「大学作成」マップとする。

・第４回幹事会は、１１月２９日夜間１８時～２０時で行う。

次回　１０月１４日夜（１８時～２１時）第３回幹事会

戸塚地区協働復興模擬訓練・継続活動　第三回幹事会　議事録

2011 年 10 月 14 日（水）18:00～20:30

於：戸塚地域センター

文責：早稲田大学　北岡・小野田

【参加者】（敬称略、順不同）計 33 名

幹事：町連（福本、原田、佐久間、山崎、海老原、笹間、養田、笠井、岩城、山本、清水）地区協議会（古澤、野村、本多、山本）,その他 5 名

新宿区危機管理課：加藤、田中、都市計画課 4 名

戸塚特別出張所：依田所長、平野、

早稲田大学：阿部、岡田、北岡、小野田、木瀬、川副

【議　題】（１）第２回全体会「模型を使った復興まちづくり体験」予行演習

（２）防災マップ

（３）成果報告会

（４）その他

【議事要約】

1．第２回全体会「模型を使った復興まちづくり体験」

・・・第２回全体会「模型を使った復興まちづくり体験」の予行演習を行い、幹事に内容を確認してもらい、よりよくするために協議した。

2.防災マップ

・・・高田馬場町会に提出された防災マップを元に、最終的に配布する（仮）防災マップを早稲田大学が作成し、それについて議論を行った。

・防災マップは啓蒙活動としてもあるが、防災マップを起爆剤にしたい

・防災マップの表面と裏面の凡例を共通のものにする

・避難場所について、表面に入らない場合、裏面の広域マップの方に入っている。その他の場所についても矢印をいれることで対応する

・町会ごとの世帯数分配布する。その他の世帯には、その都度町会のほうで印刷するなりして増刷してほしい。

次回　１１月２９日夜間１８時～２０時 第４回幹事会

戸塚地区協働復興模擬訓練・継続活動　第四回幹事会　議事録

2011 年 11 月 29 日（火）18:00～20:30

於：戸塚地域センター

文責：早稲田大学　小野田

【参加者】（敬称略、順不同）計 33 名

幹事：町連（福本、原田、佐久間、山崎、海老原、笹間、養田、笠井、岩城、山本、清水）地区協議会（古澤、野村、本多、山本）,その他 5 名

新宿区危機管理課：加藤、田中、都市計画課 4 名

戸塚特別出張所：依田所長、平野、

早稲田大学：阿部、北岡、小野田、木瀬、

【議　題】（1）防災とボランティア週間の説明

（2）成果報告会プログラムの説明

（3）意見交換会の登壇者の決定

（4）防災マップについて

【議事要約】

1. 意見交換会の登壇者の決定

・・・1/15 に控えた防災とボランティア週間イベントの内容と、その中で平成 23 年度の成果報告会を開催する事を再度説明。また、そのプログラムとして、基調講演である首都大学東京の市古先生にお願いする事を説明、決定。

意見交換会時の登壇者の選出。古澤会長、野村会長に承諾を得る。

2.防災マップについて

・・・３つのエリアに固まって座ってもらい、仮完成マップの配布。自分の町会のマップを確認してもらうとともに、修正点や改善点について指摘していただく。

・学校周辺の町会については、学校の門の位置・開閉時間を記入することにする。

・成果報告会での防災マップ発表者は、原田町会長、本多町会長、伊藤町会長に決定。

・校正は２週間程度。町会が再提出したものについて、早稲田側が修正。印刷前最終確認を 1/15 の全町会マップ展示の際に行っていただくことで決定。

次回　1 月 15 日 13 時から成果報告会

2 成果報告会発表資料（市古准教授資料）

お話したい内容

1.「減災」と「脆弱性低減」による災害に強いまちづくり

2.事前復興まちづくりの展開のきっかけ：阪神･淡路大震災

3.事前復興まちづくりの取り組み成果

→復興訓練が2001年から現在までに40地区で.

→区版震災復興マニュアルが20区で

4. 事前復興まちづくりの5つの達成点

→5つの内容とその事例

5.事前復興まちづくりの展開の可能性：東日本の復興との連携を！

「減災」と「脆弱性低減」による災害に強いまちづくりを

▼減災

・事前予防型の取り組みにより，被害をゼロにはできない

・事前・事後の全体で被害を軽減化する.

・自助・共助・公助：リスクをそれぞれで担う

▼脆弱性（防災科学の理論的柱の一つ）

・元々の意味は，「脆さ」「傷つきやすさ」

・自然災害を発生前からイメージし，災害に立ち向かい，被害回復能力に影響を与える，個人および集団の特性（Blaikie,1994）

▼減災+脆弱性低減の意味すること

事前・事後および多重防災（ハード・ソフト）により，発災直後からの生活とまちの再建に取り組む,

①個人・家族・地域，様々なレベルでの集団の力をつけること

②対処するための「場所」をつくり育てること

事前復興まちづくりの展開のきっかけ：西宮市役所1995.3.16

・都市計画審議会

・詰めかける被災者

・阻止する市職員

事前復興まちづくりの展開のきっかけ：阪神復興都市計画のシステム

神戸市における復興都市計画の決定経過

1/17-阪神･淡路大震災発生

1/31-神戸市「震災復興市街地・住宅緊急整備の基本方針」発表（6地区の発表）

2/1 -建築基準法第８４条による建築制限区域の指定（3/16まで）

2/16-神戸市震災復興緊急条例　施行

2/21-震災復興都市計画（６地区）の内容発表

2/28-復興都市計画（案）縦覧

3/14-神戸市都市計画審議会開催

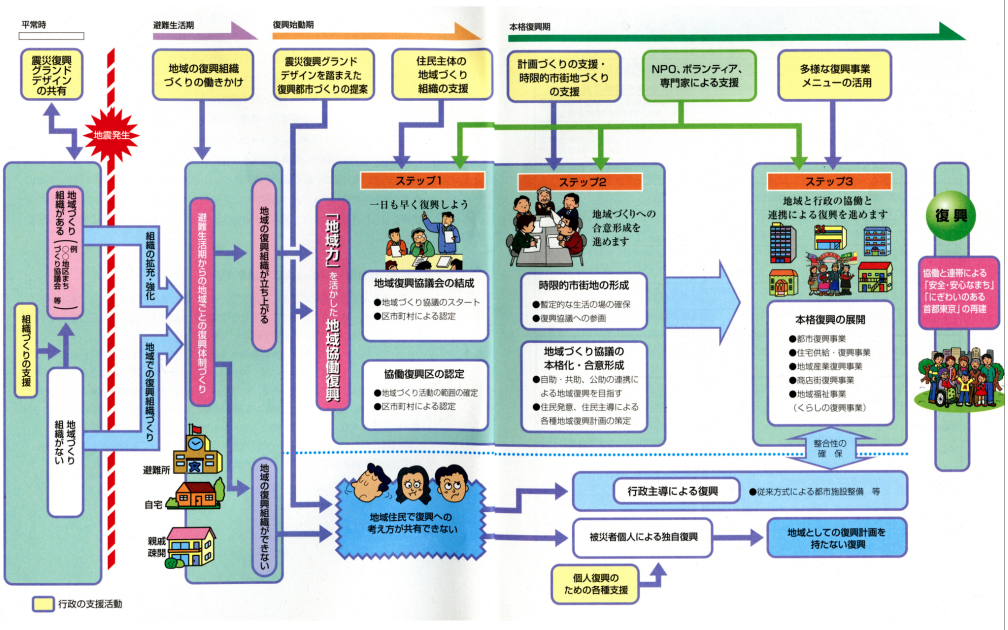
3/16-兵庫県都市計画審議会開催

3/17-都市計画　決定告示

5

事前復興まちづくりの展開のきっかけ：東京都震災復興マニュアル

東京都「地域協働型」の復興手順（2003年）



震災復興まちづくり訓練の実施地区の広がり（2001-2011）

2011年度末で40地区
(東京都調べ)

首都大学東京チーム（事前復興計画研究会）による事前復興まちづくり支援経緯

年度	震災復興まちづくり訓練		復興マニュアル策定支援	事前復興まちづくり支援	地域防災組織のエンパワーメント	東京都都市復興図上訓練
2003	・練馬区貫井 (5 回)					no commitment
2004	・葛飾区新小岩 (4 回)					no commitment
2005		・八王子全域 (1 回)				・葛飾区新小岩
2006	・練馬区桜台 (4 回)	・八王子市 打越団地 (1 回)	・練馬区 (2006-07)	・徳島県美波町津波事前復興 WS		・練馬区貫井
2007		・八王子市 打越団地 (1 回)				・練馬区桜台
2008	・葛飾区堀切 (4 回)	・八王子市 諏訪町周辺 (3 回)	・葛飾区 (2008)	・静岡県富士市吉原事前復興 WS	・町田金井地区防災点検	・足立区北千住
2009	・豊島区上池袋 (4 回)	・八王子市 上恩方 (2 回)	・豊島区 (2009-10)	・練馬貫井富士見台地区防災密集整備まちづくり支援	・町田市シナリオ型震災イメージ WS	・品川区戸越豊町二葉
2010		・八王子市 子安 (2 回)		・練馬区貫井バンブーシェルター	・町田市自主防災組織力 UP 講習会	・板橋区大山
2011		・八王子市 別所二丁目 (3 回)			・町田市避難所地域運営 WS	・豊島区上池袋

訓練運営地区：13地区，復興マニュアル・条例案制定：3区
職員向け復興図上訓練の企画運営（2005年度から）

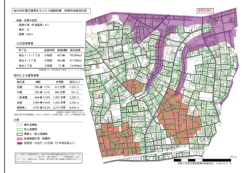
首都大チームで開発してきた復興まちづくり訓練手法

A. 復興資源点検まちあるき

これまでのまち歩きに比べて、まちの被害点検、避難所点検、仮設用地点検、といった発災時を想定して、まちの資源を点検する方法です。

B. 訓練用被害想定図作成

東京消防庁による延焼シミュレーション、内閣府や東京都の被害想定手法を用いた、対象地区スケールで被害量と被害想定図を作成するツールです。



C. 住まいの再建ロールプレイング

自宅に住めなくなったら、2 週間、1 ヶ月、3 ヶ月後にどこに住む？、ロールプレイで仮の立場になって考えることで、住宅再建の連続性と多様性を学習する手法です。

D. 仮設の住まいデザインゲーム

1/100 の仮設住宅模型を用いて、仮設住宅地イメージをつくり、仮設住宅くらしの課題、地域でのケアを考える手法です。

E. 仮設の商店街デザインゲーム

1/100 の仮設店舗模型を用いて、仮設商店街イメージをつくり、仮の商店再開でどんな課題が生じるか、検討す るプログラムです。

F. 復興問題トレーニング

復興問題に対する Yes, No の判断と理由をカードゲーム形式で考える手法です。地域協働復興の意義、問題の広がりを理解できます。

G. 復興まちなみイメージづくり

復興でどんな街なみや空間を作りたいか、事例写真のデータベースである「復興するまちのイメージカタログ」を用いて、空間像を検討する手法です。

H. 復興なんでも相談会

被災した場合の家賃支払いはどうなるのか？など、震災後のさまざまな疑問を全体会形式で応答する手法です。弁護士・建築士など様々な分野の専門家の協力により実施します。

I. 住民による復興提案づくり

住民が主体になって復興計画案をつくるプログラムです。日常のまちづくり課題や想定被害をもとに計画案を作成していきます。

首都大チームで開発してきた20つの訓練手法

手法カテゴリー	手法	適用地区
Ⅰ. 被害イメージづくり	1) 復興資源点検まちあるき	ほぼ全地区
	2) 訓練用被害想定の作図	ほぼ全地区
Ⅱ. 再建プロセスイメージづくり	3) 住まい再建ロールプレイング	葛飾新小岩，八王子諏訪周辺，上恩方
	4) 避難所からの生活再建 Yes/No ゲーム	練馬桜台地区，八王子諏訪周辺，上恩方
	5) 地域リーダー用復興問題トレーニング	豊島上池袋，葛飾堀切
	6) 町工場・作業所再建シナリオゲーム	葛飾堀切
	7) マンション管理組合再建シナリオづくり	八王子別所
	8) マンション建て替え再建プロセスデザイン	八王子別所
Ⅲ. 時限的市街地デザイン	9) 仮設のまちキャパシティサーベイ	練馬貫井，桜台，葛飾新小岩，堀切，豊島上池袋
	10) 仮設の住まいデザインゲーム	練馬貫井，桜台，葛飾新小岩，堀切，豊島上池袋，八王子子安
	11) 仮設の商店街デザインゲーム	練馬貫井，葛飾新小岩，堀切
	12) 時限的公園利用デザインゲーム	八王子子安
	13) 実寸バンブーシェルターづくり	八王子上恩方，練馬貫井
Ⅳ. 復興課題の明確化	14) 復興ワールドカフェ	豊島上池袋，八王子上恩方
	15) 専門家復興何でも相談会	葛飾新小岩，堀切，練馬桜台，豊島上池
Ⅴ. 復興まち空間像のデザイン	16) 訓練用復興まちづくり方針エスキス	豊島上池，葛飾新小岩，堀切，八王子諏訪周辺
	17) 住民による復興方針づくり	葛飾新小岩
Ⅵ. 地域協働プロセスデザイン	18) 地域協働プロセスデザイン	葛飾堀切，八王子諏訪周辺，別所
Ⅶ. 復興訓練成果のアーカイブス	19) 地域組織版復興手順書	葛飾堀切
	20) 訓練映像作品づくり	練馬桜台，八王子諏訪周辺，豊島区上池

事前復興まちづくりの5つの達成点

1.阪神・淡路を教訓とした事前復興のための計画言語の生成

・時限的市街地，地域協働復興（東京都）
・地域アップ型復興（八王子訓練）
・各区での震災復興マニュアルの作成（現在23区中20区で）

2.復興まちづくりの事前プロセスデザイン

・「練馬区の地域協働復興の手順」
・スプロール市街地での現地再建型復興プロセス（八王子市諏訪地区）

3.復興に取り組むための布陣を整える

・復興まちづくり協議会の構成メンバー案の作成（葛飾区堀切地区）

4.復興まちづくり計画の事前検討

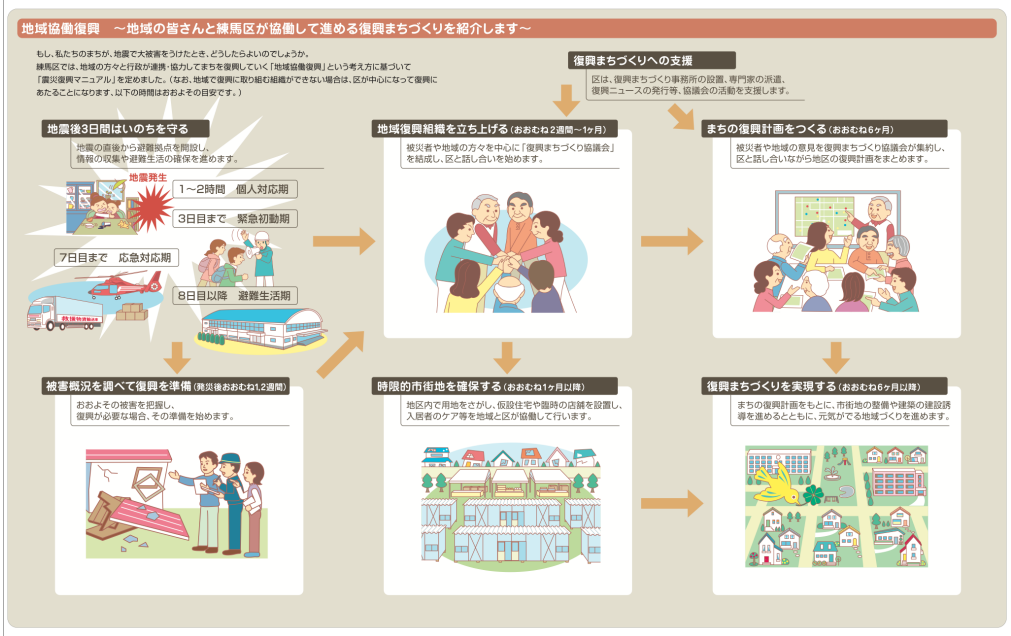
・防災まちづくりの蓄積を踏まえ「大被害時のプラン」をつくっておく（豊島区）

5.事前から復興に取り組む

・バンブーシェルターProject（練馬区貫井地区）

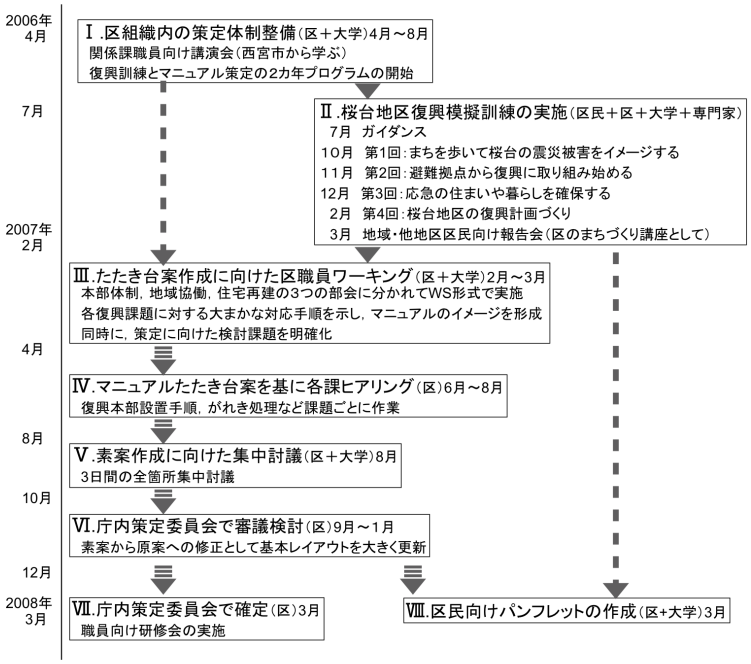
1.阪神・淡路を教訓とした事前復興のための計画言語の生成:時限的市街地

復興まちづくりの事前プロセスデザイン：練馬区の地域協働復興シナリオ



13

達成点2：復興まちづくりの事前プロセスデザイン



練馬区震災復興マニュアル策定の8つのプロセス

14

訓練のあらまし
震災後の時間の経過に即して組み立てる

震災からの時間的経過

地震発生 → 応急対応期 → 避難生活期 → 復興始動期 → 本格復興期

- 応急対応期：被害が発生、まず命の確保が重要、救出救助、消火、一時避難などが必要になる。
- 避難生活期：避難所や知り合い宅などで一時的な生活が始まる。復興に向けて組織づくりを始めることが重要になる。
- 復興始動期：仮設住宅などで暫定的な生活の場を確保し、暮らしの復興や営業再開を進める。本格復興に向けて検討が始まる。
- 本格復興期：復興の計画を定め、本格的な市街地の復興、住まいの再建などにとりくむ。

2006年

- 第１回10/22 まちを歩いて桜台の震災被害をイメージする
- 第２回11/12 避難拠点から復興に取り組み始める
- 第３回12/9応急の住まいや暮らしを確保する
- 第４回　2/4 桜台地区の復興計画づくり

第2回　避難拠点から復興に取り組み始める

①【学習会】西宮駅北口・高木地区の経験を聞く
②復興問題トレーニング（カードゲーム）
③専門家による「復興何でも相談会」

復興イメージトレーニングの例

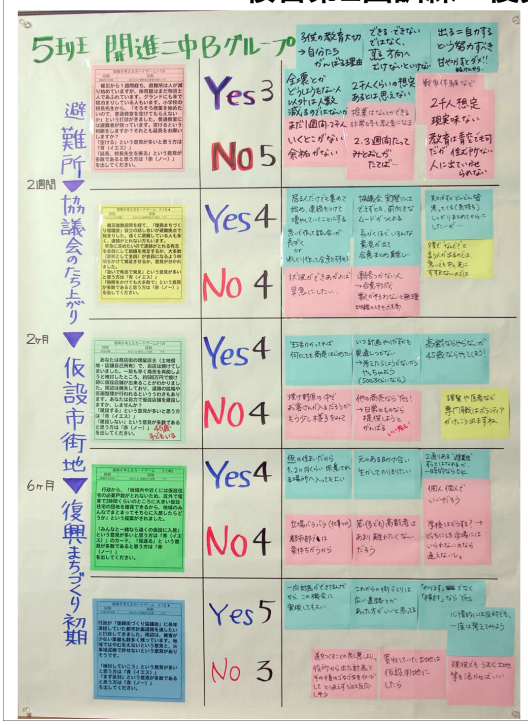
Yes/No質問カード

【役割】あなたは商店街の理髪店主です.

【状況】お店は焼けてしまいました。一刻も早く商売を再開しようと、焼け跡に仮設の店舗を建てることを検討したところ、約500万円で仮設店舗が出来ることがわかりました。周辺は延焼しており、道路の拡幅や区画整理が行われるとの噂もあります。また、焼けた店舗は自己所有でしたが、土地は借りているものです.

【Yes/No】あなたは自力で仮設店舗を建設しますか，しませんか？

桜台第2回訓練：復興問題トレーニング



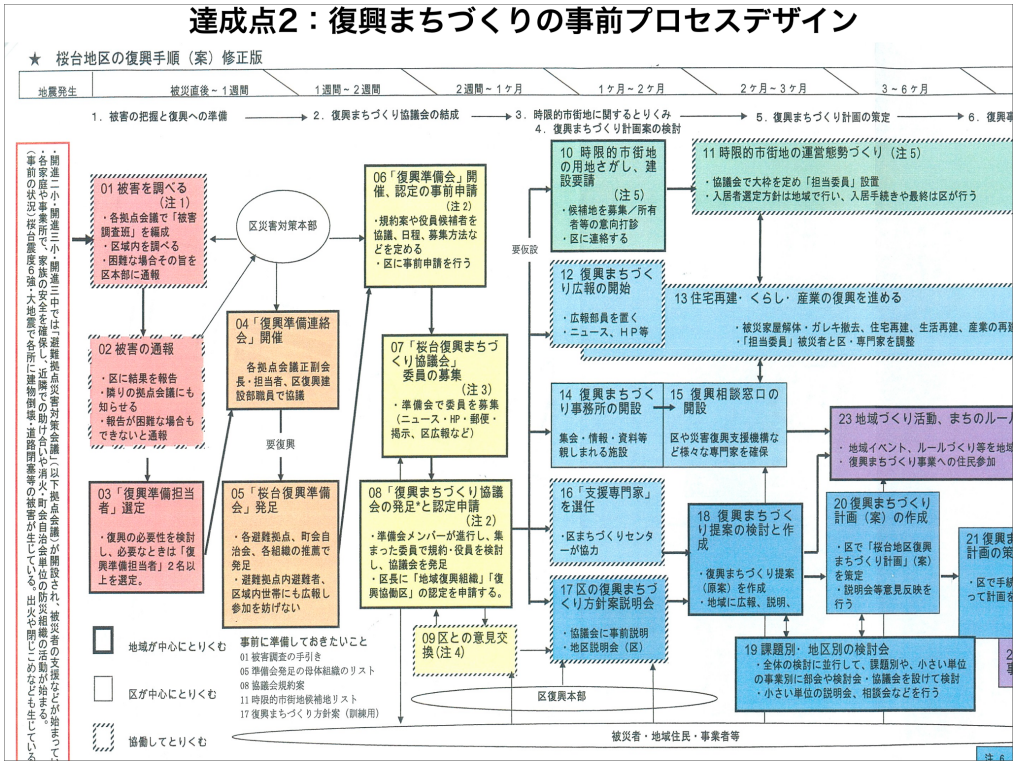
Yes/No質問

・避難所運営について

・復興組織の立ち上げ

・地域型仮設住宅の導入可否

達成点2：復興まちづくりの事前プロセスデザイン



達成点3： 復興に取り組むための布陣を整える

葛飾区堀切地区，復興まちづくり模擬訓練を踏まえたまちの復興手順書

堀切地区
震災復興の進め方の手引き

骨子(案)

この骨子案は、今後、地域で堀切地区の震災復興の進め方を検討する際に、たたき台としてご活用いただくために作成されました。

▌事業単位別の検討会

復興事業において、土地区画整理事業や道路等の整備が地区の一部で計画される場合、関係権利者や区の呼びかけによって該当区域に係る検討会等を設置し、計画づくりを進めます。協議会からも担当委員が参加し、地区全体の復興と調整を行います。

参考 堀切地区に関連する住民防災組織

① 町会自治会

- ○堀切東町会防災市民組織
- ○堀切西町会防災市民組織
- ○堀切南町会防災市民組織
- ○堀切北町会防災市民組織
- ○堀切中央町会防災市民組織
- ○堀切四丁目中町会防災市民組織
- ○堀切四丁目北町会防災市民組織
- ○堀切京南自治会防災市民組織

② 避難所運営組織及び避難所（自主）運営本部

- ○堀切小学校避難所運営会議／堀切 2-42-1（堀切中央町会・堀切西町会・堀切北町会）
- ○堀切中学校避難所運営会議／堀切 1-36-1（堀切東町会、堀切南町会）
- ○ウエルピアかつしか避難所運営会議／堀切 3-34-1（堀切東町会、堀切京南自治会、堀切北町会）
- ○綾南小学校避難所運営会議／堀切 1-22-1（堀切南町会）
- ○旧小谷野小学校避難所運営会議／堀切 4-60-1（堀切四丁目北町会、堀切四丁目中町会）

③ 第２順位の避難所

- ○堀切敬老館（堀切 1-23-6）、他

堀切地区地域団体連絡先一覧（メモ欄）

地域団体	連絡先

葛飾区堀切地区の復興手引き（復興協議会設立手順）

4．堀切地区の震災復興の手順（案）

堀切地区の震災復興は、原則として以下の手順で進めます。日頃から地域で活動する組織等が中心になって準備連絡会を設置し、広くよびかけて協議会を設立します。

堀切地区の復興の流れ

【ステップ１】

まちの被害を調べて、堀切地区センターでまとめます

- ○町会自治会の防災組織を中心に、震災後数日以内に、町内の被害概況を調べて、地区災害拠点（堀切地区センター）に報告します。

【報告内容】
・焼失した区域
・全半壊建物の多い街区
（概ね半分以上）

【ステップ２】

復興準備連絡会を立ち上げ、委員を募集し、震災復興協議会を発足します

- ○復興が必要な場合、堀切地区連合町会長や地域防災部長は、町会の要請や被災者等の申し出などをふまえ、堀切の関連組織【表１】等に呼びかけ、「堀切地区復興準備連絡会」を開催します。
- ○準備連絡会には、各組織から１～数名が出席し、協議会設立を協議します。また、区職員の参加を求めることができます。

【表１】準備連絡会の呼びかけを行う組織
・町会自治会　・同防災組織メンバー
・商店会　・民生委員
・上記の他、堀切地区で活動する団体個人で町会長が推薦するもの

- ○準備連絡会は、協議会の規約案を用意し、回覧、ニュース配布、避難所での案内等によって協議会委員を募集します。
- ○区外の被災者・権利者については区を通じて連絡します。
- ○参加委員により、設立準備会を開催し、規約・役員、復興区域等を定め、協議会を発足します。
- ○区に地域復興組織認定申請を行います。

【ステップ３】

震災復興協議会の活動体制を整えます。

【事務局】当面、堀切地区センターに設置します。
【構　成】役員の他、総務部、広報部、都市住宅部、時限市街地生活復興支援部、商業地域活性化部、などを設置します。
【葛飾区への協力を要請する事項】
○「復興に関する相談窓口」の開設
○復興を支援する「専門家の派遣」（区と一緒に人選）
○必要に応じて、復興に関する説明会や部会の設置（町会別・街区別・事業別・課題別など）

●堀切地区の「震災復興計画づくり」を進めます

- 協議会は、区に「復興まちづくり方針案」の策定及び区民や被災者への説明会開催を求めることができます。
- 協議会は、区の方針案を受けるなどして、「堀切地区に関する復興まちづくりに関する提案」を行います。
- 協議会は、復興に関わる地域活動等を計画することができます。その場合、区に活動の支援を要請することができます。

●「時限的市街地」の建設を検討し、運営を支援します

- 協議会は、必要な仮設住宅や共同施設等による「時限的市街地」を堀切地区に建設することを区に提案できます。
- 時限的市街地の建設候補地は【表２】のとおりとします。不足する場合、土地所有者の協力を求めるなど確保に動きます。
- 協議会は、時限的市街地への入居について、担当部を設け、区と協力して支援活動を行います。

【表２】堀切地区の時限的市街地の候補地（案）

第１順位	第２順位	第３順位
・旧小谷野小学校 ・ウエルピア ・二丁目防災広場 ・四丁目防災広場	・事前協定してある民間空地（駐車場等） ・上記以外の公園	・首都高速道路高架下 ・駅前広場等の事業用地 ・上記の他、協議会が推薦する土地

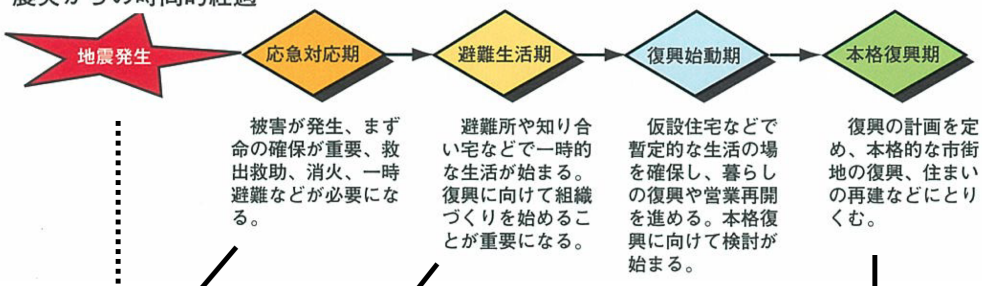
●復興に関する広報・相談、被災者支援、地域づくり活動を進めます

- 広報部会が、広報紙の配布等、広報活動を行います。
- 被災者等の要望をとりまとめ、区などに働きかけます。
- 区を通じて専門家等の派遣を要請し、相談や案内会を開催します。
- その他、地域を元気づけるイベントやネットワークづくりを行います。

達成点4：復興まちづくり計画の事前検討

豊島区上池袋地区
復興まちづくり訓練：震災後の時間の経過に即して訓練する

震災からの時間的経過



第１回10/04まちを歩いて被害をイメージする ⇨ 第２回11/21被災後の住まいや生活を確保する ⇨ 第３回12/19復興まちづくり方針を検討する ⇨ 第４回　2/4復興の進め方と方針案を定める

平成21年10月から平成22年3月まで

上池袋復興訓練 第1回 まち点検の様子

防災資源を点検

まちを歩いて点検

グループごとに点検地図を作成

全体発表

第2回 被災後の住まいや生活を確保する

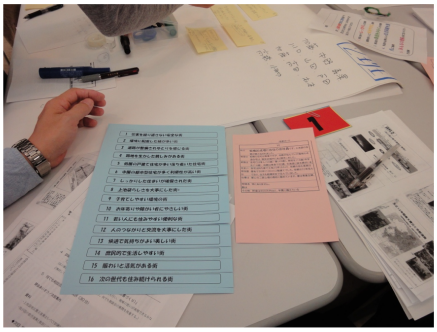
被害想定＜訓練用＞

復興問題トレーニング

仮設の住まい デザインゲーム

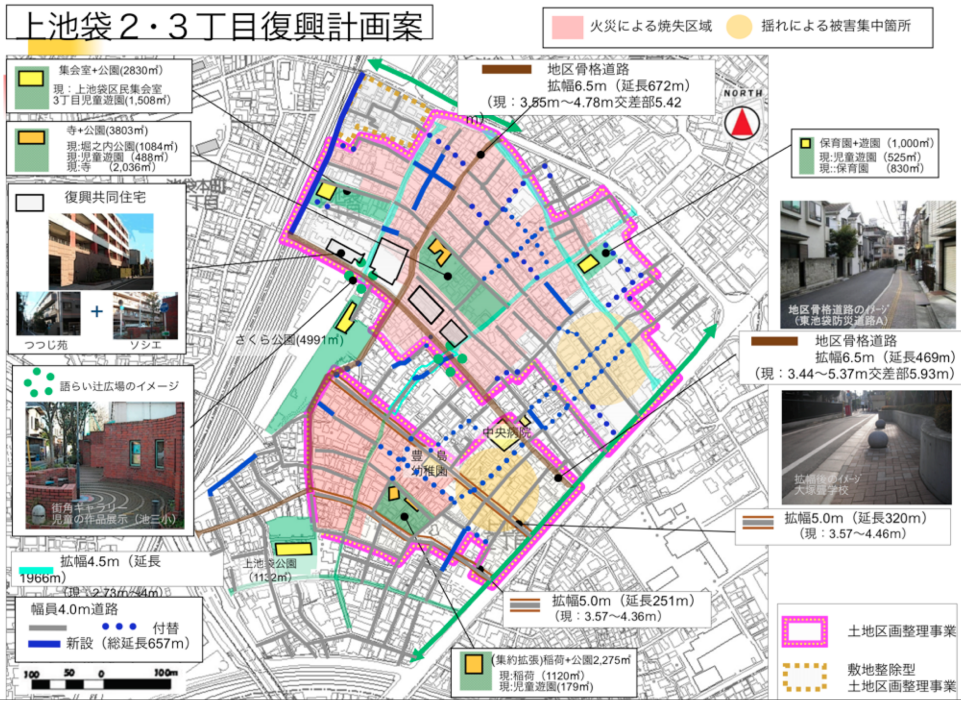
第3回復興まちづくり方針の検討

復興まちづくり事例の勉強会

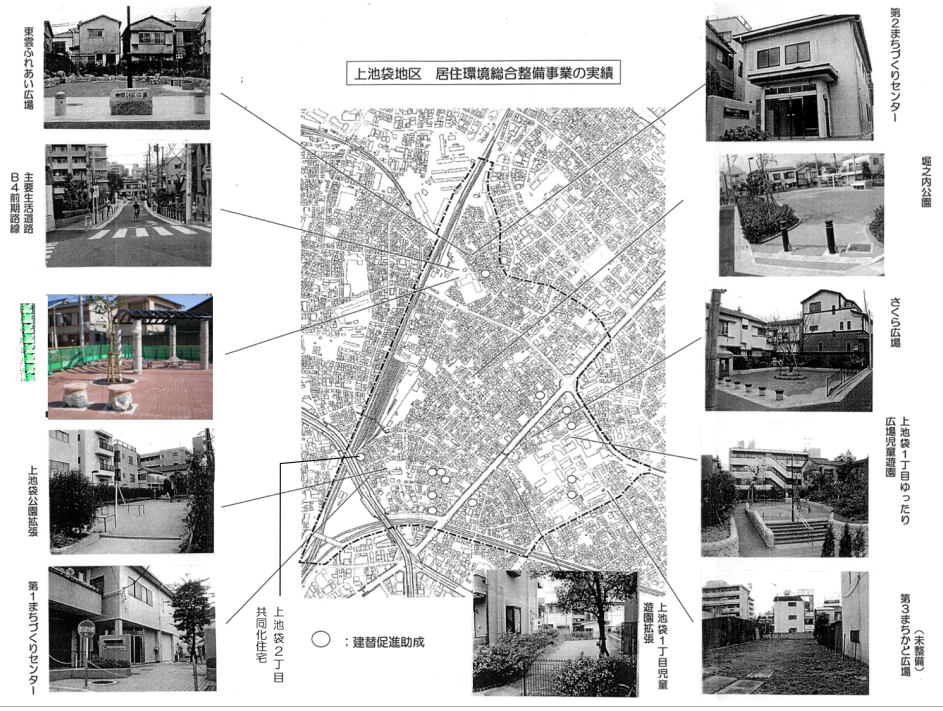


復興目標の検討

達成点4：復興まちづくり計画の事前検討



防災まちづくりから事前復興まちづくりへ：豊島区



戸塚地区協働復興模擬訓練の企画・運営メンバー

戸塚地区協働復興模擬訓練幹事会

福本　弘	早稲田親和会会長　（代表幹事）
	戸塚地区町会連合会会長
古澤　謙次	戸塚地区協議会会長（副代表幹事）
	高田馬場三丁目北町会会長
本多　誠	諏訪町会会長
	戸塚地区協議会まちづくり分科会委員
笠井　要司	諏訪町会役員
野村　長嗣	西早稲田二丁目ときわ町会会長
	戸塚地区協議会まちづくり分科会委員
岩城　昇	西早稲田二丁目協和町会
伊澤　實	西早稲田三丁目睦町会会長
海老原　恒二	西早稲田文化町会会長
今泉　栄一	西早稲田文化町会役員
笹間　貞夫	西早稲田文化町会役員
山本　誠二	高田馬場町会会長
養田　哲夫	高田馬場三丁目宮田会会長
原田　英明	高田馬場三丁目戸三親和会会長
山崎　晃	高田馬場南親睦会会長
佐久間　光之	戸塚四丁目南町会会長
伊藤　衛	新宿区耐震協議会会長
	戸塚地区協議会まちづくり分科会委員
山本　重幸	戸塚地区協議会まちづくり分科会委員
加納　由雄	高田馬場銀座商店街振興組合会長
佐藤　守男	高田馬場西商店街振興組合会長
北上　昌夫	早稲田大学周辺商店連合会会長
井下田　清海	高田馬場三丁目光和会
	避難所運営管理協議会
青木　孝行	西早稲田二丁目協和町会
	避難所運営管理協議会

早稲田大学運営スタッフ

代表	佐藤　滋	早稲田大学 理工学術院 建築学科　教授
		早稲田大学 都市・地域研究所　所長
幹事	阿部　俊彦	早稲田大学 都市・地域研究所　客員研究員

スタッフ

早稲田大学大学院 創造理工学研究科 建築学専攻 修士課程（１３名）		
○ 足立　祐未	○ 飯塚　俊	○ 小野田　理奈
○ 川副　育大	○ 木瀬　大輔	○ 北岡　亮
○ 田邉　真由子	□ Iris Jacquard　（グルノーブル建築大学)	
	□ Jonathan Laronche　（グルノーブル建築大学)	
早稲田大学 理工学術院 建築学科（9 名）		
○ 荒井　唯香	○ 菅野　圭祐	○ 下田　瑠衣
○ 二宮　彰	○ 松村　尚之	○ 関谷　有莉

出版日：平成２３年３月

発行者：早稲田大学 都市・地域研究所